

宮崎大学医学部整形外科

同門会誌

木村千仞名誉教授追悼集

第 27 号

平成 28 年 8 月

宮崎大学医学部整形外科学教室同門会

目次 ①

木村千仞先生追悼集

木村千仞先生 御略歴	1
木村千仞先生 業績	3
木村千仞先生 写真集	20

メインテーマ ～木村千仞先生との思い出～

木村千仞先生を偲んで	田 島 直 也	31
木村千仞先生の思い出	河 野 雅 行	32
木村千仞先生を偲んで	帖 佐 悦 男	33
木村千仞先生を偲んで	平 川 俊 一	35
木村千仞先生との思い出	武 内 晴 明	37
木村千仞先生との思い出	栄 四 男	39
木村千仞先生との出会い	押 川 紘一郎	40
木村先生と私と関節リウマチ	税 所 幸一郎	41
木村千仞先生との思い出	山 口 一 郎	42
木村千仞先生の思い出	川 野 啓一郎	44
木村千仞先生との思い出	中 村 誠 司	45
木村先生の思い出	田 代 宏 一	46
木村千仞先生との思い出	福 田 健 二	47
木村千仞先生との思い出	川 越 正 一	48
木村千仞先生との思い出	田 中 正 一	49
木村千仞先生との思い出	黒 木 隆 男	50

木村千仞先生 略歴

昭和2年2月5日生

【学歴】

昭和25年3月 第五高等学校理科卒業
昭和29年3月 熊本医科大学 卒業
昭和34年3月 熊本大学大学院医学研究科(整形外科学) 博士課程修了

【職歴】

昭和29年1月 長崎県西彼杵郡高島町三菱高島礦業所病院にて医学実地修練
昭和30年3月 同実地修練修了
昭和30年4月 熊本大学附属体質医学研究所病理学講座に研究員として入局
昭和30年6月 大学院入学のため同講座を退局
昭和34年4月 国立鹿児島療養所 厚生技官(整形外科医長)
昭和36年6月 熊本大学医学部 助手(整形外科学)
昭和38年12月 熊本大学医学部附属病院 講師
昭和46年9月 文部省在外研究員として
「リウマチおよび関節の外科」研究のため1年間欧米出張
昭和47年8月 帰国
昭和49年6月 宮崎医科大学 助教授
昭和54年1月 宮崎医科大学 教授
平成2年3月 宮崎医科大学 教授 退官
平成2年4月 医療法人善仁会 市民の森病院顧問
平成5年4月 医療法人 弘仁会 熊本総合医療福祉学院長(平成6年3月退任)
平成5年4月 医療法人 寿量会 熊本機能病院顧問(平成25年3月退任)

【所属学会】

国際整形災害外科学会(SICOT)
国際整形外科基礎学会(SIROT)
東南アジア太平洋地域リウマチ学会(SEAPAL)
欧州リウマチ関節外科学会議(ERASS)
西太平洋整形外科学会(WPOA)
日本整形外科学会(評議員)
日本リウマチ学会(評議員)
日本リハビリテーション医学会(評議員)

西日本整形・災害外科学会（評議員）
日本リウマチ・関節外科学会（評議員）
日本義肢装具学会（評議員）
日本アレルギー学会
日本手外科学会
中部日本整形・災害外科学会
リウマチ外科研究会（幹事）

【主催学会】

第62回西日本整形・災害外科学会（昭和56年11月21日～22日）
第14回日本リウマチ・関節外科学会（昭和61年10月24日～25日）

平成27年12月2日 ご逝去（享年88歳）

木村千仞先生の研究業績

◆著 書

- 1) 関節リウマチ治療上の諸問題
木村千仞
日本医師会学講座, 昭和51年
- 2) 肘関節内障 (deradgement interne) について
木村千仞
整形外科治療「2頁の秘訣」, 昭和51年
- 3) RA治療における整形外科の役割
木村千仞
整形外科 1巻, 昭和53年
- 4) 処方計画集 慢性関節リウマチ
木村千仞
総合臨床 , 昭和56年
- 5) 関節とリウマチ性疾患
木村千仞
現代の整形外科学, 昭和58年
- 6) 肘関節に対する皮膚中間挿入膜関節形成術
木村千仞
整形外科, 昭和58年
- 7) 慢性関節炎に対するパラフィン浴について
木村千仞
整形外科, 昭和58年
- 8) 慢性関節リウマチ
木村千仞
医師国家試験のための整形外科重要用語辞典, 昭和59年
- 9) 扁平足障害
木村千仞
今日の治療指針, 昭和59年

- 10) 強直性脊椎炎
木村千仞
整形外科Q&A, 昭和60年
- 11) 変形性関節症
木村千仞
整形外科Q&A, 昭和60年
- 12) ADL(2) RAにおける機能障害評価法への試み
木村千仞、武内晴明
免疫調整剤の薬効検定, 昭和60年
- 13) 基礎疾患をもつ骨・関節感染症の臨床
木村千仞
別冊整形外科 15巻, 昭和64年
- 14) 各論(1) 3. 非感染性関節疾患
木村千仞
現代の整形外科学, 昭和64年
- 15) リウマチ肘の再建手術
木村千仞
リウマチ学, 昭和64年

◆ 論 文

- 1) 後頭骨・上位頸椎後方固定術の検討
木村千仞、原田正孝、栄輝己、中山俊郎、福村昭信
整形外科と災害外科 23巻3号, 昭和49年
- 2) 関節リウマチにおける肘関節滑膜切除
木村千仞
リウマチ外科 (2), 昭和49年
- 2) 肘関節の滑膜切除術
木村千仞
整形外科 25 (5), 昭和49年
- 3) The Pattern of Mnciscus Damage in the Rheumatoid Arthritis
Chihiro Kimura, Kauko Vainio
Arch. orthop. Unfall-chir 83(2), 昭和50年
- 4) 人工股関節形成術後Revisionを必要とした2症例について
木村千仞、葱那竜雄、星子亘、上塚満、八坂達臣
整形外科と災害外科 24(1), 昭和50年
- 5) Arthroplasty of Elbow in Rheumatoid Arthritis
Chihiro Kimura, Kauko Vainio
Arch. orthop. Unfall-chir 84(3), 昭和51年
- 6) 関節リウマチにおける肘関節形成術後のレ線変化
木村千仞
臨床整形外科第11(9), 昭和51年
- 7) 関節リウマチにおける膝関節軟骨の変化-滑膜切除時における肉眼的病像とレ線像との比較-
木村千仞
リウマチ16 (4), 昭和51年
- 8) RAの多関節手術への問題点 症例検討
木村千仞
リウマチ外科4, 昭和51年

- 9) Plantar Pressures Under the Rumatoid Foot during Walking
C. Kimura, K. Ise, M. Yano, H. Takeuchi, M. Uetsuka, K. Nagayoshi
Orth. & Traumatology, 26(1): 13-23, 昭和52年
- 10) Deformities of the Rheumatiod Foot. A Clinical and Roentegenological Survey.
C. Kimura, M. Yano, K. Ise, M. Uetsuka, K. Nagayoshi
Orth. & Traumatology, 26(1): 1-13, 昭和52年
- 11) Evaluation of Rediological Criteria and ADL Test in Rheumatoid Elbow
C. Kimura, K. Ise, M. Yano
Orth. & Traumatology, 26(4): 522-527, 昭和52年
- 12) 足の痛み
木村千仞
Current Concepts in Japan 3(3), 昭和56年
- 13) 関節液の蛋白質および酵素の測定法
木村千仞、武内晴明
整形外科 32 (10) , 昭和56年
- 14) 慢性関節リウマチに対するKetoprofen坐薬の投与成績
木村千仞
基礎と臨床, 昭和57年
- 15) リウマチの外科における関節手術-Extraarticular Surgery-
木村千仞
日本整形外科学会誌 5巻9号, 昭和58年
- 16) 肘関節の後側方進入路
木村千仞
関節外科 2 (1) , 昭和58年
- 17) RA外反母趾に対するVainio arthroplasty変法の応用
木村千仞、戸田勝、森山和幸
日本リウマチ・関節外科学会雑誌 2 (1,2) , 昭和58年
- 18) RA足における前足部の変化について
木村千仞、武内晴明、三浦広典、出口義宏、森山和幸
足の外科研究会誌 4, 昭和58年

- 19) リウマチの臨床 診断・治療を中心として
木村千仞
日本医事新報 3149号, 昭和59年
- 20) 慢性関節リウマチ患者の体力
木村千仞, 出口義宏, 三浦広典
総合リハビリテーション 12巻11号, 昭和59年
- 21) 関節リウマチに対する経口金在Autanofinの使用経験
木村千仞、戸田勝、平川俊一
整形外科と災害外科 32 (2) , 昭和59年
- 22) 関節リウマチにおける骨塩分析 (第2報)
木村千仞、武内晴明、戸田勝、平川俊一
日本整形外科学会誌 58, 昭和59年
- 23) リウマチにおける足の変形
木村千仞
整形外科と災害外科 33巻10号, 昭和60年
- 24) 慢性関節リウマチの診断と治療における幾つかの問題点
木村千仞
山口県医学会誌 20号, 昭和60年
- 25) 慢性関節リウマチの管理と非ステロイド剤の検討
木村千仞
Medicament News 1145号, 昭和61年
- 26) マレイン酸プログルメタシンの変形性膝関節症に対する治療効果
木村千仞、武内晴明
薬理と治療, 昭和61年
- 27) 人工関節によらない関節形成術
木村千仞
リウマチ 26巻, 昭和61年
- 28) 変形性股関節症術後ならびに慢性腰痛性疾患におけるクロタムの臨床的検討
木村千仞、田島直也、長鶴義隆
診療と新薬, 昭和61年

- 29) 多関節障害に対する外科的配慮
木村千俣
関節外科 5, 昭和61年
- 30) 関節液検査の意義と実際
木村千俣, 税所幸一郎
整形外科38巻2号, 昭和62年
- 31) 肘関節のResectional arthroplasty
木村千俣, 石川浩一郎
日本整形外科学会誌 61 (8), 昭和62年
- 32) リウマチ肘の治療
木村千俣
Monthly Book: Orthopaedics 1巻, 昭和63年
- 33) 関節リウマチの薬物療法における最近の話題
木村千俣
延岡医学会誌 6, 昭和63年
- 34) 物理療法と臨床 とくに適応とコツ パラフィン浴
木村千俣, 中西亮二, 日野邦彦
骨・関節・靭帯 9巻4号, 平成8年
- 35) 【慢性関節リウマチのトータルケア】 リウマチの手術 足
木村千俣, 桑原茂
骨・関節・靭帯 12巻5号, 平成11年

◆総 説

1) 痛風の診断

木村 千俣
臨床と研究 51 (6) , 昭和49年

2) 関節炎をめぐる

木村 千俣
Medical Digest 29(6), 昭和55年

3) 足の痛み

木村 千俣
Current Consept in Pain (10), 昭和56年

4) Felty病

木村 千俣
現代医療 13 (9) , 昭和56年

5) 老人の疾病と診断・治療のあり方-老人の関節リウマチ-

木村 千俣
Medical News , 昭和56年

6) 誌説「評価法について-重回帰分析-」

木村 千俣
整形外科 33 (7) , 昭和57年

7) リウマチの臨床 -診断・治療を中心として-

木村 千俣
日医新報 3149, 昭和59年

8) 慢性関節リウマチの治療

木村 千俣
Physician's Therapy Manual 3 8(6), 昭和61年

9) 卒後研修雑感

木村 千俣
日本医事新報 (ジュニア版) 252, 昭和61年

- 10) Quality of life (木村) 千仞
整形外科 37 (3) , 昭和61年
- 11) 環境と生体リズム 木村 千仞
整形外科と災害外科 30 (4) , 昭和62年
- 12) リウマチの足 木村 千仞
日関外誌 6 (2) , 昭和62年
- 13) ERASSの現況
木村 千仞
臨床整形外科 23, 昭和63年

◆発 表

- 1) 関節リウマチにおける肘関節形成術後のレ線変化
木村千仞
第18回日本リウマチ学会総会, 昭和49年5月30, 31日, 京都
- 2) 後頭骨・上位頸椎後方固定術の検討
木村千仞、原田正孝、栄輝己、中山俊郎、福村昭信
第47回西日本整形災害外科学会, 昭和49年6月8日, 福岡
- 3) 人工骨頭置換術後の病的骨折例について
木村千仞、星子亘、葱那竜雄、伊勢紘平、赤崎幸二
第5回熊本整形外科医会, 昭和49年6月23日, 熊本
- 4) 上肢の慢性関節リウマチに対する外科的療法肘関節滑膜切除術
木村千仞
第2回リウマチ外科研究会, 昭和49年7月6日, 大阪
- 5) リウマチ膝半月の研究 (第2報)
木村千仞
第6回熊本整形外科医会, 昭和49年12月28日, 熊本
- 6) 高度外反・亜脱臼膝に対する人工膝関節全置換術の経験
木村千仞、西一徳、今井清剛、野川勉、河野正通
第6回熊本整形外科医会, 昭和49年12月28日, 熊本
- 7) 人工関節置換術の問題点
木村千仞
宮崎市整形外科医会, 昭和50年4月16日, 宮崎
- 8) 足関節固定術に対する一考察
木村千仞、葱那竜雄、石川浩一郎、高田憲志、福山紘
第7回熊本整形外科医会, 昭和50年6月22日, 熊本
- 9) 関節リウマチにおける肘の外科的療法
木村千仞
第7回九州リウマチ研究会, 昭和50年9月20日, 熊本

- 10) RA患者と歩行と足部変形—床反力と足底圧の相関について—
木村千仞
第8回宮崎整形外科懇話会，昭和50年11月30日，熊本
- 11) リウマチの足（会長講演）
木村千仞
第14回日本リウマチ・関節外科学会，昭和51年，宮崎市
- 12) 関節リウマチ治療上の諸問題
木村千仞
宮崎県医師会，昭和51年1月24日，宮崎
- 13) 床反力測定に対する一考察
木村千仞、伊勢紘平、矢野希人
第6回九州リハビリテーション医学懇話会，昭和51年2月15日，鹿児島
- 14) 脊椎の機能解剖、脊椎用装具
木村千仞
義肢装具講習会，昭和51年5月29日，宮崎
- 15) RA膝関節軟骨の変化 —滑膜切除時における肉眼的病像とレ線像の比較—
木村千仞
第9回熊本整形外科医会，昭和51年6月26日，熊本
- 16) RAの多関節手術への問題点
木村千仞
第4回リウマチ外科学研究会，昭和51年8月29日，東京
- 17) 肘関節形成術について
木村千仞
第9回九州リウマチ研究会，昭和51年9月25日，小倉
- 18) リウマチ足における歩行時足底圧の変化について
木村千仞、矢野希人、伊勢紘平、上塚満、永吉康裕
第52回西日本整形災害外科学会，昭和51年11月28日，熊本
- 19) RA肘のレ線像とADL検査の検討
木村千仞、伊勢紘平、矢野希人
第10回熊本整形外科医会，昭和51年12月5日，熊本

- 20) 腱Bursa軟部の問題点
木村千仞
第10回九州リウマチ研究会, 昭和52年2月19日, 鹿児島
- 21) 足部ならびにその周辺疾患における足底圧変化について (第1版)
木村千仞、伊勢紘平、矢野希人
第50回日本整形外科学会総会, 昭和52年4月9~11日, 東京都
- 22) リウマチ肘のレ線像変化とADL検査の検討
木村千仞、伊勢紘平、矢野希人
第53回西日本整形災害外科学会, 昭和52年6月5日, 久留米
- 23) リウマチ治療における最近の動向
木村千仞
宮崎市整形医会, 昭和52年6月10日, 宮崎
- 24) 人工関節置換術とリハビリテーションにおける問題点
木村千仞
第22回九州理学療法学会, 昭和53年10月22日, 宮崎
- 25) リウマチ外来 最近の動向
木村千仞
宮崎県労災部会、宮崎県外科医会、宮崎県整形外科医会, 昭和54年6月23日, 宮崎
- 26) RAにおける最近の治療経験
木村千仞
宮崎市郡整形外科医会, 昭和55年1月11日, 宮崎
- 27) 関節リウマチにおける外科的療法とリハ
木村千仞
日本リウマチ学会教育研修会, 昭和55年1月27日, 宮崎
- 28) 整形外科からみた小児の脊柱側彎と2, 3の問題
木村千仞
日本小児科学会宮崎地方会第8回例会, 昭和55年3月20日, 宮崎
- 29) リウマチ外科における2, 3の問題点
木村千仞
第28回熊本整形外科医会, 昭和56年, 熊本市

- 30) 関節形成術後の皮膚中間挿入膜および関節面の変化について
木村千仞、川野啓一郎、戸田勝、平川俊一、勝屋弘明
第61回西日本整形災害外科学会，昭和56年5月30，31日，久留米
- 31) 金療法におけるNitritoid reactionについて
木村千仞、佐藤信博、押川紘一郎
第24回日本リウマチ学会総会，昭和57年5月14，15日，岡山
- 32) RA足における前足部の変化について
木村千仞、武内晴明、三浦広典、出口義宏
第7回足の外科，昭和57年7月3日，山形
- 33) RA外反母趾に対するVainio arthroplasty変法の応用
木村千仞、戸田勝、森山和幸
第10回日本リウマチ関節外科学会，昭和57年11月4日，東京
- 34) 経口金剤AuranofinのRA患者における臨床効果
木村千仞、戸田勝、平川俊一
第64回西日本整形災害外科学会，昭和57年11月23，24日，長崎
- 35) 関節リウマチにおける骨塩分析
木村千仞、武内晴明、戸田勝、平川俊一
第56回日本整形外科学会総会，昭和58年4月11～13日，京都市
- 36) 関節リウマチにおける骨塩分析（第2報）
木村千仞、武内晴明、戸田勝、平川俊一
第57回日本整形外科学会総会，昭和59年，札幌市
- 37) Bone mineral content and rheumatoid arthritis
C. Kimura, M. Toda, S. Hirakawa
SICOT84, 昭和59年, London
- 38) 慢性リウマチ患者と体力 -第2報-
木村千仞、出口義宏
第68回西日本整形災害外科学会，昭和59年，熊本市
- 39) Bone mineral content and rheumatoid arthritis with mutilating changes
C. Kimura, K. Okada, M. Toda, S. Hirakawa
5th SEAPAL, 昭和59年1月22～27日, Bangkok

40) 関節リウマチにおける微量元素の検討

木村千仞、脇山尚登、出口義宏、三浦広典、木下康行
第28回日本リウマチ学会総会，昭和59年年5月23, 24日，東京

41) RAにおける内反母趾

木村千仞、平川俊一、田代宏一
第26回九州リウマチ研究会，昭和60年，熊本市

42) リウマチ外科における2～3の問題点

木村千仞
第13回宮崎整形外科懇話会，昭和62年，宮崎市

43) 関節リウマチ患者と疲労

木村千仞、武内晴明、脇山尚登、麻生邦典、桑原茂
第32回日本リウマチ学会，昭和63年，仙台市

44) "Surgery of Rheumatoid Foot"

C. Kimura
Satrlita Meeting of Ivth SEAPAL，昭和63年，Fukuoka

45) RA足部の手術治療

木村千仞
第33回九州リウマチ研究会，昭和63年，福岡市

◆ワークショップ

- 1) リウマチ足における歩行時足底圧の変化について
木村千仞、伊勢紘平、矢野希人
第21回日本リウマチ学会総会, 昭和52年5月14日, 大阪

◆パネルディスカッション

- 1) 肘関節のResectional Arthroplasty
木村千仞, 石川浩一郎
第60回日本整形外科学会, 昭和62年, 新潟市

◆シンポジウム

- 1) リウマチの外科における関節外手術 (extra-articular surgery)
木村千仞
第56回日本整形外科学会総会, 昭和58年4月11~13日, 京都市
- 2) RAにおける内反母趾
木村千仞、武内晴明、平川俊一、永吉康祐
第13回日本リウマチ・関節外科学会, 昭和60年, 名古屋市

◆講 演

1) リウマチの話

木村千俣
宮崎医大大学祭, 昭和50年11月23日, 宮崎

2) リウマチとその周辺

木村千俣
市郡看護婦夏期講習, 昭和54年8月4日, 宮崎

3) リウマチあれこれ

木村千俣
日本リウマチ友の会宮崎支部総会講演会, 昭和56年7月14日, 宮崎

4) 関節の痛み

木村千俣
日本リウマチ友の会宮崎支部総会講演会, 昭和56年2月, 宮崎

5) RAの診断と治療

木村千俣
都城外科医会, 昭和57年8月27日, 都城

6) 関節リウマチの診断について

木村千俣
日本リウマチ友の会宮崎支部講演会, 昭和57年8月29日, 宮崎

7) 関節と老化

木村千俣
延岡市医師会, 昭和58年3月15日, 延岡

8) 関節と老化

木村千俣
第97回健康教室(千代田生命), 昭和58年2月8日, 宮崎

9) フェルデンの腰痛症に対する臨床効果

木村千俣、川野桂一郎
フェルデン学術研究会, 昭和58年2月19日, 福岡

10) Extra-articular Surgery in RA

C. Kimura
Taiwan Univ. Lecture, 昭和59年1月31日, Taipei

- 11) 各科領域にわたる腰痛
木村千仩
東諸県郡医師会，昭和59年2月21日，宮崎
- 12) 老人性骨病変の診断と治療
木村千仩
西諸県郡医師会，昭和59年2月23日，小林
- 13) リウマチ疾患患者のもつ問題とその治療について
木村千仩
鹿屋医師会，昭和59年3月29日，鹿屋
- 14) 老人性骨病変の診断と治療
木村千仩
都城市・北諸県郡医師会，昭和59年4月14日，都城
- 15) RAにおける外科治療の問題
木村千仩
山口大講演，昭和59年，宇部市
- 16) 特別講演「慢性関節リウマチの診断と治療における幾つかの問題点」
木村千仩
第2回山口県リウマチ膠原病研究会，昭和59年，宇部市
- 17) RAにおける機能障害評価法への試み
木村千仩、武内晴明
第13回薬検シンポ，昭和59年，東京都
- 18) 整形外科領域における評価法について
木村千仩
開講10周年記念講演，昭和60年，宮崎市
- 19) リウマチ外科における2、3の問題点
木村千仩
第2回鹿児島整形外科科学術講演会，昭和60年，鹿児島市
- 20) 五十肩について
木村千仩
都城市郡外科医会，昭和61年，都城市
- 21) 人工関節によらない関節形成術
木村千仩
第1回宮崎県臨床整形外科研修会，昭和62年，宮崎市

- 22) リウマチの診断と治療
木村千匱
特別講演（国立熊本病院）地区医療研修会，昭和62年，熊本市
- 23) 関節再建術
木村千匱
第13回リウマチ中央教育研修会，昭和62年，大阪府
- 24) リウマチ外科における最近の話題
木村千匱
第68回福岡臨床整形外科医会研修会，昭和62年，福岡市
- 25) 老人の骨関節疾患のリハビリ
木村千匱
鹿児島大学公開講座，昭和63年，宮崎市
- 26) 関節リウマチの診断と治療
木村千匱
児湯医師会講演会，昭和63年，宮崎市
- 27) 関節リウマチ最近の話題から
木村千匱
延岡市熊杏会講演，昭和63年，延岡市
- 28) 痛風
木村千匱
読売新聞福岡支局対談，昭和63年，福岡市
- 29) 関節リウマチにおける最近の話題
木村千匱
九州医師会医学会，昭和63年，宮崎
- 30) 最近の関節リウマチ
木村千匱
熊本臨床整形外科医会，平成元年，熊本
- 31) 骨粗鬆症
木村千匱
日向内科医会，平成元年，宮崎市

木村千仞先生 ～写真集～



病院開院前の木村先生



留学先にて



昭和59年頃
医局員と



昭和59年
カンファレンス風景



昭和55年8月24日
日本整形外科野球大会初出場



バッターボックスに立つ木村先生



観戦する木村先生と医局員



初優勝の記念写真



昭和59年
開講10周年記念祝賀会



昭和61年10月24,25日
第14回日本リウマチ・関節外科 Sledge教授とミス宮崎と



昭和63年11月27日
玉井先生叙勲祝賀会



平成2年3月
木村千仞先生退官記念会



平成2年5月26日
田島直也先生教授就任祝賀会



平成2年11月17,18日
第80回西日本整形・災害外科学会



平成6年5月21日
開講20周年記念祝賀会



平成16年5月26日
帖佐悦男先生教授就任祝賀会



平成19年7月15日
熊本日日新聞より



平成20年11月29,30日
第116回西日本整形・災害外科学会



平成21年9月
名誉教授就任祝賀会



平成22年4月10日
木村千仞先生名誉教授就任祝賀会(同門会)の様子



2013年12月7日
木村千仞先生米寿祝賀会

木村千仞先生、謹んでご逝去を悼み、
生前の御指導に対し、改めて御礼申し上げます。
先生のご遺志に沿えるように今後も整形外科の
発展に寄与すべく、同門会一同で邁進致します。

宮崎大学医学部整形外科学教室 同門会 一同



木村千仞先生を偲んで

野崎東病院 田島直也

平成27年12月3日、先生の訃報に接し全く驚愕し、言葉を失いました。つい最近、御病氣と伺っていましたが、こんなに早くお別れすることになるとは、正に青天のへきれきで、私にとり強い衝撃でありました。

思い起こせば昭和54年、長崎大学、故鈴木良平教授の推薦で私が先生の主宰される宮崎医科大学整形外科教室に助教授として入局以来30数年にわたり、御指導、御鞭撻を賜り、本当に有り難うございました。当時は宮崎医科大学の創設期で、整形外科の医局員も数名で、外来、病棟、手術と多忙の中にも先生を中心に和気あいあいとした活気あふれる教室でした。

先生のライフワークは関節リウマチであり、昭和61年、宮崎で初めての全国学会、第14回日本リウマチ・関節外科学会を木村会長の下で開催された時、木村先生は陣頭指揮で会の運営に当たられたのも今は懐かしい思い出と

なりました。先生はお酒もお好きで、よく宮崎の町を連れて行って頂いたり、正月には先生のお宅にお伺いいたしました。

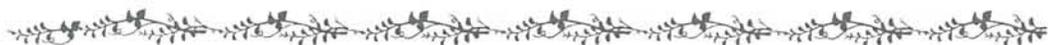
先生は平成2年3月、宮崎医大御退官後も宮崎、熊本で多くの関節リウマチの患者さんの診療に御尽力されました。

平成25年12月に米寿の祝賀会を教室、同門会で開催しましたが、この時は非常にお元気で今後も大所高所から教室、同門会を見守って頂けるものと思っていました。

先生が作られた教室は現在、帖佐悦男教授に引き継がれ、平成27年3月には40周年を迎えることが出来ました。教室は研究面でも飛躍の発展をとげ、又同門会から県医師会長を排出し、社会的にも大きく貢献しています。

先生本当に有り難うございました。ありし日の先生を偲び、謹んで哀悼の言葉と致します。

合掌



木村千仞先生の思い出

河野整形外科 河野雅行

木村先生との最初の出会いは、昭和51年3月末、卒後6年目でした。整形外科入局のお願いに医局を訪れた事に始まります。未だ、大学附属病院が建設中できちんとした教室も無く、現在の県立宮崎病院の裏の2階建てプレハブに仮住まい中の教室を探し当て訪ねて行きました。

狭い雑然とした部屋に、木村千仞先生以下、伊勢紘平先生、矢野希人（故人）先生と教室補助員の様々な話をしましたが、木村先生から「今、大学病院を建設中なので、開院するまで先輩のいる県立延岡病院へ出向」と言われ、翌日から県立延岡病院へと赴任して永田（故人）副院長・整形外科部長、谷脇医長の下で勤務が始まりました。出向中に、岡田（故人）先生、武内先生が赴任され、公私共に忙しいながらも楽しく勤務し、毎月CCの症例を持って宮崎まで通っていました。その間、様々な事が有りましたが、一つのエピソードを（これは以前にも報告したことがあります）。木村先生が平和台の中腹に自宅を新築され、延岡出張組3名合同で記念品を贈ろうと相談して、記念樹に決め、川南の栽培農家で当時は珍しかった亀甲竹を数株求めて、ご自宅の庭に植えさせていただきました。多分、今でも根付いていると思います。木村先生は何も言われなかったのですが、後で伊勢先生から「君らは木村先生をやブにするのか」と言われました。勿論、我々には他意は

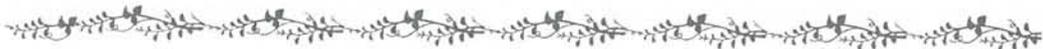
無く、竹は如何な土地でも根付くと聞いたものですから。

52年秋に附属病院が竣工し、大学病院と研究棟の中に教室が出来ました。この時点でも教授は空席でした。広いスペースの中に、機材・図書が殆ど無く教室員も10名足らずで始まりました。当時のメンバーは私の他には前述の伊勢紘平、矢野希人、岡田光司、大野和男、栄四男、野津原崇、押川紘一郎、税所幸一郎先生方で、数少ない人数にもかかわらずやるべき事が多く忙しい日々でしたが、昼食はそろって取る等、和やかな雰囲気でした。正月や行事毎に皆で木村先生宅に押しかけ、美味しい酒をいただいたり奥様手作りの食事を御馳走になったり、少人数が故に仲間意識が強かった様です。

開業した際には、手術用の木槌を頂きました。記念品として、今でも大事に保管してあります。仕事で疲れているにもかかわらず、夜、手術に何度も来ていただきました。退官されてからは、同門会等で時折お会いする機会ではありましたが、いつも御自分で運転して来られ、お元気なお姿を拝見しておりました。ここ数年は、毎日の晩酌量が減った。熊本からの運転は辛くなったと言われていたのが印象に残っています。

先生には大変お世話になりました。

ご冥福をお祈りいたします。



木村千仞先生を偲んで

宮崎大学医学部整形外科学教室 帖佐悦男

あらためまして謹んで、宮崎大学医学部整形外科初代教授であられました故・木村千仞名誉教授の御霊に、哀悼の意を表します。

平成27年12月3日、先生の御逝去の報はまさに青天の霹靂で、お元気としていただけに、大きな衝撃を受けました。少し前からご病気であることは存じ上げており、訃報の数日前に調子が思わしくないとの連絡を受けましたので、早々にお見舞いにお伺いをする予定にしておりました。しかし、お伺いするその日に先生の訃報に接することとなり、その悲しい知らせに言葉が出ず只々ぼう然とするばかりでした。

先生は昭和29年に熊本医科大学をご卒業され、故・玉井先生の門下生でいらっしゃいました。その後、玉井先生が副学長をされていた宮崎医科大学の整形外科開設のため昭和49年6月に宮崎大学の助教授として赴任されました。開設当時は伊勢先生と矢野先生の少人数で教育・診療・研究に従事され、大変なご苦勞があったのではないかと拝察いたします。

昭和54年、木村先生が教授へご昇任されましたのも先生の人徳とそのような日々の努力の賜物だったのではないのでしょうか。教授就

任後同年には田島先生を助教授として迎えられ、私自身は昭和59年に木村先生率いる宮崎医科大学整形外科教室に入局しました。以来30数年にわたり数々のご指導、ご鞭撻を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

当時は宮崎医科大学の創設期で整形外科の医局員も少なく、多忙な毎日でしたが、先生を中心に和気あいあいとした活気あふれる教室でした。私が入局し研修を始めた頃は入院患者さんの殆どがリウマチの患者さんでした。木村先生が外来をされるベシュライバーをオーベンの先生と一緒にさせて頂き、先生の診察を受けた患者さんが安心されていたのを覚えております。その頃の私たち研修医の仕事は主に教授回診前にリウマチの患者さんの血液検査のデータを揃えておくことでした。皆様もご存知のようにリウマチの患者さんの血管は細く、もろいため採血しにくいのですが、患者さんの方から“ここがとりやすいですよ”と教えて頂いたこともありました。また、木村先生の外来では数日前から採血セットとX線セットの準備をするのが常でした。その結果や患者さんの状態をもとに先生から多くのことを教えて頂きました。研究に関し

ましては、その当時希少価値のあった特殊な機器を用い、リウマチの患者さんの骨粗鬆症の研究に取り組んでいらっしゃいました。

手術に関しても当時の人工関節置換術の患者さんは、病室で清拭をされ滅菌されたシートに被われ手術室のクリーンルームに入り手術を受けていたものです。私はそのクリーンルームの中で木村先生の手術の見学や助手をしておりました。このように毎日のように先生の側で学ばせて頂いたことの基本は今でも私の中で生きています。

学会に関しましては、宮崎で初めての全国学会、第14回日本リウマチ・関節外科学会（昭和61年）を木村会長の主宰で開催された時、先生が非常に喜んでいらっしゃったのを覚えております。また、私の教授就任祝賀会

をはじめ新入教室員歓迎会や教室同門忘年会にいつもご参加頂き、先生から頂くお褒めや激励のお言葉は私の大きな励みとなっていました。平成25年12月7日の米寿をお祝いする会で、お元気で大変お喜びの姿を拝見しておりましたので、この日を迎え本当に信じられない気持ちでいっぱいです。

先生が創られた教室は二代目田島先生そして私が受け継いでおります。先生のご功績に報いるためには、今後教室・同門会員が一丸となり教室を盛り上げていくことが肝要であると思っております。どうぞ、教室の今後をお見守り下さい。ありし日の先生を偲び、謹んで哀悼の言葉と致します。

本当に有難うございました。



木村千仞先生を偲んで

ひらかわ整形外科クリニック 平川 俊一

昨年の11月の同門会総会にて初代会長木村千仞名誉教授、第二代会長河野雅行先生の後任となる第三代の同門会会長に選出されました。その御挨拶も木村先生に出来ないうちに、数日後には先生の訃報に接することになり、誠に心残りでなりません。

木村先生に最初にお会い致したのは、卒業試験の合間に整形外科学教室を始めとして当時の宮崎医科大学の幾つかの教室を訪問させて頂いた時です。非常に恐そうな先生という印象を受けましたが、田島助教授(当時)共々宮崎に帰ってくるように、そして整形外科を一緒にやろうと強く誘って頂きました。卒業後宮崎に戻るか出身大学に残るかどうか迷っていた時に、背中を押していただきました。お陰で今の自分が存在しております。

木村先生は宮崎大学(当時は宮崎医科大学)整形外科学教室設立時に助教授として熊本大学より赴任なされ教室の創設に御尽力なさったと聞いております。当時は校舎も無く県立宮崎病院の一隅をお借りしてのゼロからのスタートだったそうです。大変なご苦労だったと想像されます。私は先生が教授になられた翌年の55年春の入局となりました。同期入局の戸田勝先生と私を合わせても総数11

名の小さな医局でしたが、それだけに皆仲良く力を合わせて互いに助け合って仕事をする毎日でした。

先生の御専門のリウマチ外来は患者さんでいつもあふれかえっており、水曜日は御昼ご飯も初めから諦めての仕事ぶりで、それでも一人一人の患者さんに辛抱強く優しく接しておられました。陪席としての仕事のカルテ書きも先生が所見をドイツ語で言われるものですから、始めは全く分かりません。先輩方のカルテ書きを見て少しずつ覚えて行きました。そこに各種治験のデータの記録が加わるものですから初めはアシスタントならぬレジスタンスと呼ばれておりました。入局して5年目だったのでしょうか、当時として日本では一番か二番目に早かった骨塩定量のデータを用いたリウマチ患者の骨粗鬆症に関する演題を九州の地方会に出すように木村先生から指示されました。一般演題のつもりがシンポジストに指名され責任が重くなりましたが、その一週間後にも宮崎の懇話会に別の演題を発表予定でして、両方完成させられるか御心配をお掛けしました。その後私は熊本の公立多良木病院に出向しました。先生には一度新築病院の視察を兼ねて来て頂いて病棟回診をして頂

きました。教授と二人きりでの回診という経験も貴重な思い出となりました。

一体どのようなめぐり合わせだったのでしょうか、先生が退官される時は医局長を仰せつかっておりました。失礼の無いように準備したつもりですが、多くの至らない事があったと思います。お詫び申し上げます。先生は教授職を退官されてからも日本整形外科学術集会には毎年参加されておられました。あれはいつの学会だったのでしょうか、私は既に開業しておりましたが東京で日整会がありました時にいつも学会半ばで教室員が集まるミニ同門会のような懇親会に木村先生も来られました。隣の席に座らせて頂き先生の

お好きな日本酒と一緒に飲みながら昔話を伺い楽しい時を過ごしました。先生は早めに帰られるとのことでタクシー乗り場までお見送り致しましたが、先生の背中が随分と小さく見えお年を召されたことを痛い程感じました。その後も同門会の席や先生の米寿の御祝いの会でも幾度となくお会いしている訳ですが、その夜の赤坂での先生の後ろ姿が今でも私の心の中に焼き付いております。気が付けば私も先生が退官された年齢に近づいております。未だに不出来な弟子のままですが、心から木村先生の御冥福をお祈り申し上げます。どうぞゆっくりとお休みください。



木村千仞先生との思い出

九州記念病院 武内 晴明

平成25年12月宮崎観光ホテルにて木村千仞先生の米寿祝いが執り行われました。木村先生にはまだまだ長生きしていただくようにと願っておりましたが平成27年12月2日に残念ながら永眠されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。木村先生の最も偉大な功績は、厳しい状況の中で、宮崎医科大学整形外科を立ち上げ、発展させ、田島教授、さらに帖佐教授という素晴らしい後継者を育てて宮崎大学医学部整形外科（元宮崎医科大学整形外科）の現在の繁栄をもたらしたことです。

ここで、簡単に木村先生のプロフィールを記させていただきます。木村先生は17才まで北朝鮮の平壤で生活され、動乱（万宝山事件）の中を生き延びられ、その後本国に帰国されました。熊本の第五高等学校では苦学、長崎の軍艦島では石炭掘りのアルバイト、戦後サツマイモを餌にして熊本の天津から阿蘇まで徒歩にて売り歩くというような苦勞をされています。戦後の医学生時代は家庭教師などのアルバイトで生活を維持されています。昭和29年熊本医科大学を卒業し整形外科の玉井門下生となられ激務に耐えておられます。博士論文のテーマは膝の半月板の血管分布だったと話しておられました。昭和34年熊

本大学医学部大学院を卒業後は指宿の国立療養所に勤務され、脊椎カリエスの大手術を行ったり病院の組合と衝突したりして苦勞されたとのこと。昭和49年6月 宮崎医科大学開設のため助教授として就任されました。就任当初は宮崎県病院に間借りし開設の準備をされたとのことですが、当時のスタッフは伊勢紘平先生と矢野希人先生のみだったとのこと。その後、私が入局し、河野雅行先生、岡田光司先生も入局されました。木村先生は、昭和54年（1979年）1月 苦勞に耐えて整形外科教授に就任されておられます。専門はリウマチ学です。昭和54年11月には田島直也先生を助教授として迎えられています。昭和56年には宮崎医科大学の同門会を設立されていますが、現在は正会員 164名、賛助会員 47名で合計211名という大きな組織となっております。昭和61年（1986年）10月には第14回日本リウマチ・関節外科学会の会長を務められました。全国規模の学会で、当時は私が医局長であったため学会開催についてはトータルマネジメントを行いました。木村教授をサポートするために、色々苦勞はありましたが、ここで学ぶことも多かったと思います。

平成2年(1990年)3月 木村先生は田島先生を教授にするために定年を待たずに少し早めに退官され、予定通りに平成2年4月脊椎外科専門の田島直也先生が教授となられ、当整形外科教室をさらに発展させられ、平成16年(2004年)に5月には同門の帖佐悦男教授が引き継がれ現在の繁栄へと繋がっていますが、何と云っても現在の教室、同門の繁栄は木村先生の功績によるものであると確信しております。

私が木村先生に学んだことは、慎重さ、粘り強さ、新しいことへの挑戦、学会発表の重要性、論文発表の重要性、リウマチ学、手術手技など数え切れません。

慎重さと粘り強さでは、ある時、股関節離断の助手を務めさせていただきましたが、小さな血管まで1本、1本絹糸で結紮され、切離した筋肉の処理も丁寧で手術時間は9時間にもなりました。

新しいことへの挑戦としては、当時、整形外科において術後の成績を客観的に評価する方法について多くの提案があり、整形外科学会としても術後の評価をどのように行うかということについて議論があり、混沌としておりましたが、木村先生から、客観性のある評価法を考えなさいと命じられ、全く独学で多変量解析の勉強をして重回帰分析(正確には数量化I類)による関節機能評価法を考え出しました。この方法は日本整形外科学会の腰痛・座骨神経痛の評価法をどうするかが問題になっていた時、田島先生の御指導で川野啓一郎先生がシンポジストとして脊椎外科学会

で宮崎医科大学案として重回帰分析法を応用した評価法を発表されたところ、千葉大学が自信満々で提案していた評価法が、そのシンポジウムの座長の東大整形外科の津山教授の一言で覆り宮崎医大の評価法には根拠があるので、千葉大の案は、本日は整形外科学会として採用しない、宮崎医大の案を取り入れた評価法を作成すべきだと発言された。その後、田島先生が日本整形外科学会の腰痛・座骨神経痛の評価委員に就任された。このように、木村先生の教室への影響は開設外科のみでなく、脊椎外科にも貢献している。

学会発表についても、大学人は学会に発表し、論文を書かなくてはならないとしきりに指導された。学会発表は日本だけでなく、海外でも行うべきだということで、最初は西ドイツのニュールンベルグ日独整形外科学会(脚延長や股関節SAOのWagner教授が学会会長)で発表した。学会に行く前に文部省に出張の書類を提出したが、私が、例えば、ローテンブルグ市内観光、ハンブルグ市内観光と記載していたら、木村先生から猛烈にしかられ観光を視察という表現に変更させられた。しかし、実際はビールを飲みながらの「視察」であったが、このようなことも木村先生から学んだことの一つである。

いずれにしても、私は学問、世渡り、その他、種々のことをお教え頂き恩師の木村先生におおいに感謝しております。

木村先生の永久の冥福を心よりお祈りしております。



木村千仞先生との思い出

栄整形外科 栄 四男

私は昭和53年5月に宮崎医科大整形外科に入局し1年1ヶ月お世話になりました。

当時の医局には、木村教授、伊勢講師、矢野、岡田、河野、武内の各助手、大野、野津原の各医員がおられた。熊大の整形外科の前教授の玉井先生が宮崎医科大の副学長でした。その中で新入医員としての体験を書いて思い出とします。

入局早々に、京都で開催された日整会総会についていき、京都国際会館の講演を聞いた後、夜祇園の御茶屋に一同案内されて食事をするという、もう二度とない経験をしました。舞妓さんと話をしながら酒を飲み京料理をいただきました。帰りにみた夜桜がきれいでした。

翌年は東京での学会があり、河野先生がRA患者の関節痛の程度を顔の表情で示すFaceMethodを発表するというので、先生がかまえるカメラの前で色んな顔をして写されました。学会に参加した夜、大野先生に連れられ世界の料理を食べるぞとドイツ料理、インド料理、中華料理をはしごしてまわったのを覚えています。

木村教授のご専門はRAでしたので、外来

も入院もリウマチ患者さんが多く、教授の外来診察での陪席の際とか、入院での受け待ち患者からリウマチを学ばせていただきました。人工関節置換術は、クリーンルームで行い、術後は病棟の個室に患者を入れ、処置の際には入口でマスク、手袋、ガウンをつけ感染には大変気を配っていました。

大学ならではの経験として、川南の国立病院の外来診療、延岡の病院の当直、学生の試験の監督などをしました。

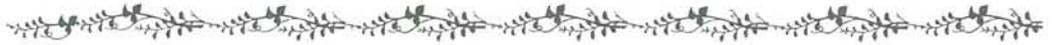
秋には、レクリエーションで看護師さん等とえびの高原に出かける機会があり、私も3才の娘をつれて参加した思い出があります。

正月には、平和台公園の近くにあった木村教授のご自宅に医局の先生たちと新年の挨拶に伺いました。奥様の手料理をいただきました。

教授室に教授の机が搬入されるなど医局の初期のころの私の短い医員生活でしたが、今日までつながりを持てることに感謝します。

ただ既に当時の医局スタッフのうち3人が亡くなられています。残念で、寂しいかぎりです。

改めてご冥福をお祈りいたします。



木村千仞先生との出会い

押川整形外科医院 押川 紘一郎

宮崎の緑がひときわ目にしみる5月の新緑の季節になると、35年前、宮崎医大(当時)付属病院玄関前で、木村千仞先生にお目にかかった日のことを思い出します。新入医局員として、その日に初めてお会いしたのですが、先生の笑顔が、今でも目に浮かんで参ります。

昭和49年6月7日が、木村先生の入局日となっておりますが、この日を起点として、3ヶ月後には伊勢紘平先生、翌50年に矢野希人先生、52年には、武内晴明先生、河野雅行先生、岡田光司先生、大野和夫先生、53年に栄四男先生が入局され、整形外科教室の土台ができあがった時代でした。しかし、木村先生は、教授就任直前の極めて多忙で、精神的にも重圧のかかる時期であり、玉井達二学長と、大学運営や整形外科教室基礎作りのために、深夜まで、超多忙な毎日を過ごされていたようです。

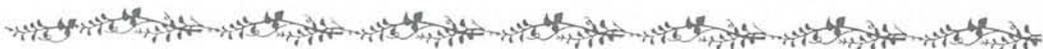
私は、54年当時、都立荏原病院救急手術部に勤務しており、6月までに引き継ぎをして、しばらく家族旅行して、8月以降に宮崎に帰る予定としておりましたが、木村先生から、「押川君、よかったら少し予定を早めて、6月に入局しないかね。医局員もみんな待っているし、宿舎も用意してあるから。」との暖かい(甘い?)お電話をいただき、急遽予定を早めて5月に帰宮することにいたしました。

東京では、勤務近くの住居を確保することが、なかなか困難で、宮崎医大は、職員住宅が大学前にあるとのお話は、大きな魅力でした。しかし、宮崎では、実家から通勤可能で、木村先生のご自宅も私の実家から10分ほどのところでしたから、宿舎の必要はなく、木村先生の優しい言葉に乗せられたわけです。

しかしながら、木村先生の指示に従ったことで、54年6月1日、新設医科大学の熱気と、活力ににあふれた時期に入局することが出来たのは、幸いでした。

大学病院玄関前でのご挨拶後、木村先生自ら大学構内の案内をしていただきました。各病棟、手術場の看護師長の皆様への紹介や、事務局長への挨拶と続き、最後に玉井先生にご挨拶となりました。木村先生の貴重な時間を新入医局員のために裂いていただくことに、ただただ恐縮した初日でした。この後、医局に伺いました折、武内先生から、「押川君、どうして早く来たの、2~3ヶ月ゆっくりしてくればよかったのに。」と不思議な歓迎の挨拶がありました。この言葉の意味は、入局後、木村先生の目の回るような多忙な外来診療の陪席に付いてすぐに理解できました。

木村先生の細かな指示に対応できず、ご迷惑をおかけしても、笑って許していただいたことが、今では、楽しい思い出となりました。



木村先生と私と関節リウマチ

国立病院機構都城医療センター 税 所 幸一郎

私は木村先生が教授に就任された昭和54年に入局しました。その当時の教室は教授以下、その年に入局した押川先生と私の2名を含め医師は9名しかいず、リウマチ・下肢班と上肢班に分かれ、外来・病棟の仕事をしており非常に忙しかったのを覚えています。また今日ではどこでも普通に行われている人工膝関節手術が宮崎に導入された時期であり、朝に始まった手術が夕方終了するという、その当時としては大変な手術であったことが思い出されます。この時代は仕事もハードでしたが、アフター5も盛んで、教授もボーリングや飲み会にも参加され、スタッフと楽しく時間を過ごされていたのが懐かしく思い出されます。

入局した翌年に大学院ができましたので、許可をいただき大学院へ進学いたしました。翌年、教授から「RAと肺病変」について調べるようにとの研究テーマを頂き、病理学教室の住吉教授（元宮崎大学学長）のもとで研究し、「実験関節炎での肺病変」の内容で博士論文をまとめることができました。

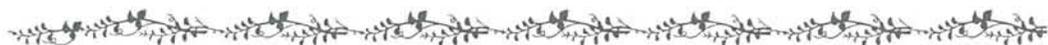
大学院卒業後はリウマチ班に属することになり、臨床での関節リウマチ診療の指導をいただきました。また平成元年5月からは宮崎市郡医師会病院に異動となり、救急医療にも携わる機会をいただきました。

平成2年3月に大学を退官された先生は市

民の森病院のリウマチセンター長に就かれることになりました。私は宮崎市郡医師会病院から市民の森病院リウマチセンターへ異動となり、リウマチ患者の診察・手術、治験など先生のお手伝いをさせていただくことになりました。そのなかで平成3年1月から日本リウマチ学会から海外派遣研修医として海外留学する機会を得、木村先生も以前留学されていたフィンランドのリウマチ財団病院やスイスのシュルテス病院でリウマチ治療を研修することができました。

平成4年7月に私は国立都城病院（現都城医療センター）に異動となりましたが、都城の地で、今まで学んできたリウマチの診療を生かせないかと考え、整形外科の診療の傍ら特殊外来としてリウマチ外来を立ち上げました。その後、先生とは学会や同門会でお会いする機会しかありませんでしたが、そのたびに都城で頑張っているかと声を掛けてくださり、また私も先生がお元気で仕事をされている姿を拝見し、私もそうなれたらと思いました。先生と最後にお会いしたのは米寿のお祝いの会で、私が今日まで宮崎でリウマチの治療を続けてきたことを喜んでいるとの言葉をいただき、感激しました。

木村先生には、公私にわたり長い間、大変お世話になりました。感謝申し上げます。先生のご冥福をお祈り申し上げます。



木村千仞先生との思い出

川南山口整形外科 山口一郎

昭和54年12月、暮れも押し迫った頃、卒業間もない私は、妻と一緒に加納の峠を越えたところ、清武の町が視界に飛び込んできました。当時は、町中に特別高い建物もなく、遠くまで見渡せ、その奥の森の中に一際目立つ白亜の建物が見えました。

『何という綺麗な病院だろう』『この宮崎医科大学附属病院で働かせてもらうのだ』という感激と緊張感が去来したことを覚えています。

その日に、当時の田島直也助教授をお訪ねしてこれからの宿舎のこと、その他の指示をいただいていたとき、「木村教授が会って下さるのでこれから一階の『コロンバン』で昼食をとりながら話そう」ということになりました。こちらとしましては、年はある程度いっておりましたが、卒業間もない未熟な者で、妻共々びっくりするやら恐縮するやら。懸命に辞退しましたが、ついに、教授と助教授お二人で私達に面談を兼ねた昼食会をしていただくことになりました。

緊張して何をはなしたか、何を食べたか、誠に申し訳ないのですがよく覚えておりません。ただ、その話の中で、「今夜は整形外科医局と病棟の忘年会があるので君も一緒に来

なさい。」といわれ、これも引っ込みがつかず、一人出席させていただくこととなりました。

その宴会は、宮崎観光ホテルだったと思います。皆さん元気がよく田島先生チームは、先生が主役となり、松坂慶子の『愛の水中花』を演じられバラをくわえての熱演で、木村教授も満足そうににこにこ笑いながらお酒を飲んでおられました。

明けて正月より仕事が始まりましたが、何しろ経験不足、修行不足で右往左往しながら、田島先生や渡辺先生を頼りに何とか新しい職場で早く仕事を覚えようとしておりました。ある日木村教授より「君は何がしたいのか？」と問われ、漠然と上肢、特にマイクロサージェリー希望のことを述べたところ、「それなら、矢野希人先生につきなさい。」と言って下さいました。

矢野先生は、頭脳明晰、手術も上手で、若山牧水の生誕地日向東郷山陰のご出身で、木村教授の覚えもめでたかった方です。私も直属の上司ができ、「これからたくさん勉強させてもらおう」と喜んでいた矢先に矢野先生が開業されることになり、「あとは山口君頼むよ」と言われました。

「えーっ・・・！！」「これは大変！何も知らないし、経験もない、どうしよう」と。

しかし、幸いなことに田島先生や渡辺先生が上に来てくださったので、相談いたしましたところ、「君の行きたいところに行っていれば研修をしてきてはどうか。」というありがたい話になり、木村教授からも快諾していただき、それから、広島大学の津下教授の下での研修許可があり、その当時の医局長であった渡辺雄先生に付き添ってもらい広島へと旅にでた次第です。

その後、広島での研修を経て帰ってまいりまして、上肢班の手の外科外来及び手術の担当を仰せつかりましたが、木村教授を始め、目上の先生方に何度も相談をしながらの診察でした。

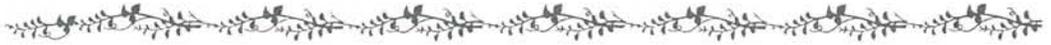
数年が経ち、外来が何とか落ち着いてできるようになった頃、リウマチ学会のため、木村教授や武内先生方が不在となり、その間のリウマチ外来を誰かやりなさいとのことでしたが、川野啓一郎先生は御自分の外来多忙のため不肖、私が担当となりました。

教授のリウマチ外来は患者も多く、処方も新薬が多いため、「何かおかしいことがあったら手を打て」との事だったと思います。そんな中で、顔色が優れず少し悪寒がするというリウマチ患者があり、血液検査をしたところ、白血球が極端に下がっており至急内科にコンサルトして事無きを得ました。無顆粒球症でした。教授が学会より帰ってこられ事態を把握され、「ありがとう」との言葉をいただきました。その木村教授からいただいた温かい労いの言葉は忘れることはありません。

以来、力不足ながら、木村教授のもと、田島直也先生ご指導にて学位も取得させていただきました。

今日、私が何とか整形外科医、かかりつけ医として児湯地域医療の一助としてやって来れましたのもひとえに諸先生方のおかげであり、宮崎医科大学整形外科での多くの貴重な経験があつてのことと常日頃感謝いたしております。

その元締めでおられた木村千仞先生、本当にありがとうございました。



木村 千仞先生の思い出

まつばし川野整形外科 川野 啓一郎

木村名誉教授と初めてお会いしたのは、私が東京医大での医局生活を切り上げて帰郷した昭和55年の春でした。

教授室にて、田島 直也助教授（現名誉教授）とおふたりに面接を受けながら木村教授から「腰掛的に仕事をするのではなく大学でしっかり勉強しなさい」と激励されたのを覚えています。

それまでの東京での5年間はほとんどリウマチとの関わりが無かった私でしたが、突然2人の悪性リウマチの主治医となりました。全介助の状態ですべてを併発していた為に、又、顎関節も骨破壊が進んでいた為に、全身管理に気を遣いながら、経鼻挿管で手術を行った事が思い出されます。外来では、多くのリウマチの患者さんの教授陪席を行う中で、木村教授の治療のノウハウを教えてくださいました。

これらの経験が、開業医としてスタートする際に、リウマチ専門医の資格を取得して、「整形外科」の他に「リウマチ科」を標榜するきっかけになったと考えております。木村

教授から初対面で言われた事を曲がりなりにも実践できたのかなと勝手に自己評価している所です。

プライベートの面でも木村教授は、私の結婚の仲人として大変お世話になりました。偶然にも私の義理の父親が五高時代の先輩に当ることが分かり、私の退局後も会でお会いする度に義父の状況を聞かれました。その度に、先輩後輩を大切にする木村教授のお気持ちが伝わって参りました。

教室のシステムが変更となり、私が脊椎班に配属となってからは、個人的にいろいろな会に先生と同行することは少なくなったのですが、金沢で開催された日整会基礎医学会での少人数での会食や西日本野球大会で準優勝した際のバッターボックスのお姿が印象に残っています。

木村名誉教授の決して偉ぶらない庶民的なお人柄が偲ばれます。

いい恩師に恵まれたと感謝申し上げる次第です。ご冥福をお祈り申し上げます。



木村千仞先生との思い出

押川整形外科医院 中村 誠司

私は、1982年に宮崎医科大学大3期生として卒業し、運動器疾患を専門にしようと、整形外科に入局したわけで、入局した当時の整形外科教授が木村先生でした。

木村先生は、リウマチ関節外科がご専門で、外来も病棟もリウマチの患者様たちがたくさん集まって来られていました。

先生の診察日は、確か水曜日だったと記憶しておりますが、先生の診察には、二人の医局員が陪席で付いていて、研修医1年目は先輩の先生方と同席しておりました。

陪席の前日には、検査の準備が大変で、木村先生の指示に迅速に対応する為、色々工夫したり、シュミレーションしたりと先輩の先生と話し合っていました。当日になるとなぜかしらフェイントをくらって、慌てることも多々ありました。

ひょっとしたら、私たちの話をこっそりとお聞きになられていたかも・・・と思うこともありました。

木村先生のご専門の関節手術は、股関節全置換術や膝関節全置換術やskin arthroplastyでしたが、特に人工関節手術の際には、クリーンルームでの手術で、宇宙服での手術着はとても大変だったのを記憶しております。

ある時、手術場のナースの手違いで、木村

先生のエアースーツだけ取り付けるのを忘れていて、先生が苦しそうにされているのに誰も気づかず、先生のヘルメットが曇っているのにナースが慌ててヘルメットを差し込む事件？（事故？）がありまして、手術場の婦長が跳んで来たことがありました。

そのときの先生は、特に怒りになることもなく、平然と手術を開始されたわけで、先生の温厚な一面を見た思いがしました。

先生には、リウマチ診療のノウハウを一から教えて戴き、後に山口先生や戸田先生方と手の外科を専門に診療し始めたときにも、本当に自由にやらせて頂きました。

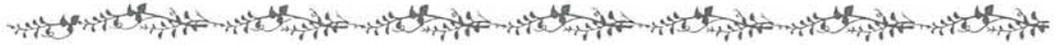
木村先生が教授でなかったら、こんなにも自分自身の考えで整形外科診療はできなかったと感謝しております。

医局を辞してからは、先生とお会いする機会があまりありませんでしたが、もう少しご指導して頂ければよかったと思っています。

このような形で先生との思い出を書かせて戴くことがせめてもの先生と奥様への恩返しと考えながら、感謝の意を表したいと存じます。

木村千仞先生のご冥福をこころからお祈り申し上げます。

合掌



木村先生の思い出

日南市立中部病院 田代宏一

「いーまのはあぶなかった」と一言。「本当に危なかったです。翼が地面につくかと思いました」「手がびしょりじゃ」「私もです」「なんじゃったんだろうな？こんな天気の良い日に！」「さあ？なんなんでしょうね？」

木村先生と初めて普通に話した誰も知らない話です。隣りにいた先生はぐっすりとお休みになっていましたので完全に二人だけの会話でした。教授と医局員、ではなくて、普通の大人の会話になったのが忘れられない記憶となっています。いつもの気取った態度を出す余裕もなく、気持そのままの言葉に、いつもの緊張感がとれていて自分がいました。

これは沖縄での学会参加の着陸時のエピソードです。晴天で無風、あと数秒でランディング、そんな時の話です。宮崎から3人掛けのシートの真ん中に着席。遅れて通路側になんと木村先生が座られました。これは誰かの陰謀か、普通は医局長の横だろうと勘ぐってしまう私でした。お、君か。と言ってそのまま座れました。教授も同じこと考えておられるのではと緊張しながらのフライトだったのです。今思えばその時が一番距離感のない思い出となりました。飛行機は右に傾

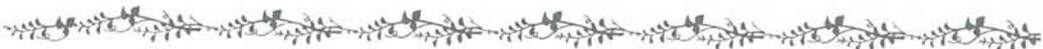
いたまま接地、そのまま滑走路を片輪走行、ゆっくり両輪接地の時はほっとしたのもつかのま、すごい逆噴射がかけられ、飛行機は滑走路端近くまで来ていました。外に自衛隊機が一機。ああここは戦闘機も降りれるんだ。安心したらさらにどっと汗がでていました。

その当時、入局してから数年は経っていましたが、毎日が忙しく、研究棟に上がる余裕などなく9時ごろ帰宅の途についていた日々でした。教授回診では何を言われるか、カンファレンスは準備にばたばた、抄読会は訳してまとめ作るのに一苦労していた時期でした。

当時何が一番大変だったか。それはリウマチ外来でした。たくさんの患者さんを木村教授のもとゲシュライバーとしてカルテ記載すること。関節点数評価と紹介状返事はまずは地獄のような忙しさ、治験薬が加わればさらに大変。外来終われば一日が終わった感じがしていました。ただ一方整形外科は患者数が半端に多く多いということは自慢になることでもありました。

上から下まで少ない人数でよくやっていたと思います。

最後に木村先生のご冥福をお祈りいたします。



故木村千仞先生との思い出

ふくだ整形外科 福田 健二

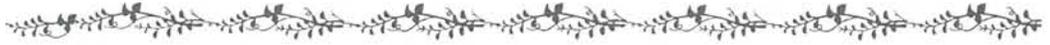
つい最近まで同門会でお元気な姿を拝見しておりましたのに、突然の訃報に驚いております。

先生と私の最初の出会いは私が学生の4年生の時ですから1980年という事になります。先生はまだ当時助教授だったと思います。目が半眼といいますか、仏像に彫られている目の様に半分しか開いていないお顔で、とつとつと話される講義はお世辞にも面白いとは言えませんでした。リウマチを専門にしている先生だという事は判りました。ポリクリでもあまり強い印象は残っておりませんが、教室の雰囲気がいまやギスギスしてなくて若い先生達が明るい雰囲気だったのを覚えています。それも先生の人徳だったのかもしれませんが。その後、私自身が柔道部の先輩から相撲で投げられて肩鎖関節脱臼を受傷し、整形外科のお世話になった時、カンファレンスで手術をするという方針を覆したのが、教授になっておられた木村先生でした。「手術はせんでよか」の一言で手術が中止になりました。お蔭で、軽いピアノキーサインは残っていますが現在でも何の支障もなく過ごしております。当時、肩鎖関節脱臼の手術成績が悪かったという事もありますが、身をもって保存療法の大切さを教えて頂いたと思っております。そんな因縁もあり、また当時の医局の先生方の雰囲気に惚れ込んで1983年卒業と同時に

整形外科に入局致しました。先生は若い頃から苦勞をしておられたと聞いておりますが、我々若手に対していつも研究の大切さを説いておられました。若い頃は目先の金欲しさにバイトに励むのではなく、お金はなくても研究をやりなさいと話しておられました。私が骨形成タンパクの研究をしたくて大学院に進むかどうかで迷っている時に、背中を押して頂いたのも木村先生でした。「そうか、そげん研究ばしたかったら大学院にいきなせ。私が生化学の教授に推薦状ば書くけん。」とおっしゃって頂きました。医局を一時離れ、収入もなく、奨学金を貰いながら研究する姿を不憫に思われたのか、バイト先まで紹介して頂きました。自分の専門であるリウマチ関連のテーマではないにも拘わらず快く送り出して頂いた事に今も感謝しております。

先生は焼酎と馬刺しがお好きでした。私が麻酔の研修で熊本に赴任している頃、時々宮崎に帰ってくる時に馬刺しを買って木村先生に持っていくと、普段見せた事のないような満面の笑顔で喜んでおられたのを覚えております。

今も、あの世で焼酎を飲みながら馬刺しをつまんでおられるかもしれません。木村先生、安らかにお休み下さい。ご冥福をお祈りいたします。



木村千仞先生との思い出

川越整形外科医院 川越正一

木村千仞先生のご逝去に対し心よりお悔やみ申し上げます。

私は、黒木、帖佐、田中、森田先生とともに、昭和59年に宮崎医大整形外科教室に入局を許可され、木村先生にご指導をいただく事となりました。個性派の面子が多く、先生にもご苦勞おかけしたと思っております。

私が入局した当時の教室は、まだ医局員も少なく、関連出向病院も数カ所でしたが、それだけに、和気あいあいの感じで、木村先生をはじめ、先輩の先生方とも、仕事にも遊びにも親密な関係性を持つ事ができていた様に感じます。

私も、若い時代は関連病院勤務が多く、実際の大学勤務は2年程でしたが、その中でも、木村先生のリウマチ下肢グループに1年間ほど在籍させていただき、先生の外来の陪席を勤めさせていただきました。患者さんの先生に対する信頼度の高さ、それに答える先生の診療、いろいろと勉強させていただきました。

学術的な事ではありませんが、思い出に残っている事があります。記憶のいくらか

は曖昧な所もありますが…。先生は陥入爪で、武内先生に手術をしていただいた事がありました。まだ、術後数日で、教授回診をされていた時に、若手の看護師（ポッチャリ系のY看護師）が、先生の足を踏んでしまいました。スミマセーンといつもの調子で先生に謝っていました。大変痛かったと思いますが、特に看護師を叱る事もなく、我慢されていたように記憶しています。優しかったです。

熊本に帰られた後も、同門会／教室の行事にご参加いただき、お元気なお姿をお見かけしていたのですが、突然の訃報を聞くことになり、残念な思いであります。金曜日の夕方に宮崎を出発し、熊本に到着したのは8時ぐらいでしたが、先生に最後のご挨拶をさせていただきました。本当にお世話になりました。有り難うございました。

これからも、先生の教えを受け継ぐ多くの後輩が、先生の意思を繋いで宮崎大学整形外科の発展に寄与することと思います。私も同門として、教室の発展のため、少しでもお手伝いできればと、思っております。



木村千仞先生との思い出

ちゅうざん病院リハビリテーション科 田中正一

木村先生とは宮崎医科大学での学生時代に整形外科の講義やポリクリで指導を受けたのが最初の出会でした。また、当時は土曜日の午前中に（記憶違いかもしれませんが）リハビリテーション医学講義が時々あり、院外講師の話が聞けました。その講義でリハビリテーション医学が面白そうだと思っていました。それで卒業間際に整形外科医局を訪ね木村先生に御相談したのを覚えています。木村先生からは「リハビリテーションを学びたいのであれば整形外科医局に入局すれば良い、また後輩の教授（産業医科大学の緒方教授）のところで勉強もできる」との事でしたので入局を決意した次第でした。当時は回復期リハビリテーション病棟もなく、セラピスト養成校も少なく、リハビリテーション医学の認知も低い時代でした。当時から木村先生はリハビリテーション医学の重要性を認識されていたと思います。大学では研修医として9カ月間勤務していましたが、その時の思い出としては教授診察の陪席とか手術での執刀を見学させていただいた事です。研修医だったので、雲の上の先生といった印象でした。後に産業医科大学リハビリテーション医学講座に勉強させていただく機会（11カ月）も木村先生より頂きました。勉強に行くにあたり「リ

ハビリテーションは奥の深いものだから、アルバイトはせずにしっかりやっつけてきなさい」と激励されたのを覚えております。産業医科大学では短い期間ながら集中して勉強できました。主に脳卒中や脊損、小児疾患の研修もでき大変有用でした。その後は大学に戻ることはなく国立都城病院へ勤務となりましたが、臨床経験を積むうちに、整形外科とリハビリテーション医学の両立は己の能力からしても難しく、またリハビリテーション専門の道は捨てるがたい思い、木村先生に御相談致しました。「リハビリテーションは奥が深く、（産業医大に行くからには）メスを捨てる覚悟で行きなさい」と御指導を受けました。その後は産業医科大学で研修を積み、労災病院、民間病院での勤務をしており、現在では沖縄でリハビリテーション医として勤務しております。木村先生の御指導およびリハビリテーションへの御造詣がなかったなら、小生がリハビリテーション医として勤務できなかったのではないと思う次第です。木村先生の「リハビリテーションは奥が深い」とのお言葉を思い出しながら、今後の臨床に励みたいと思います。

先生の御冥福をお祈り申し上げます。



木村千仞先生との思い出

あかえ整形外科医院 黒木隆男

平成27年12月、木村先生の訃報を知り、私にとっての親父さんが、また一人が亡くなったと思ひ、大変さびしい気持ちになりました。

今回、同門会の寄稿にて、木村先生との思い出を述べさせていただきます。

私の学生時代の思い出は、5年生の時（昭和60年か61年頃）の整形外科入局説明会の宴会の席で、ある学生が「木村先生は何歳ですか？」と唐突に質問したことがありました。まわりの空気が、一変して張り詰めたことを記憶しています。当時の医局長は武内先生だったと記憶しています。「そんなこと、僕たちだって聞き難いのに、今の学生はすごいな」などの内容のお話をされた記憶があります。木村先生はニコリとして、「僕は、昭和2年生まれだよ」と言われたことを鮮明に覚えています。当時先生は50歳後半でした。もうその年に私も近づいています。

入局後、木村先生のリウマチ外来の陪席に何度かつかせて頂きました。当時は当然、紙のカルテでした。リウマチの診察チャートが用意されていて、ハンコをベツタン・ベツタン打ちながら記入したのを覚えています。

木村先生があるとき、「このハンコは私が考案した」との内容のお話を、ちょっと得意げにされたのを記憶しています。

木村先生は毎朝、誰よりも朝早く6階の研究室に出勤されていました。時々気付いたのは、まだ研究室に人が現れていない朝に、しかもラボの坂下さんが来られていないのに、お茶を煎れた後のわずかに暖かい急須が置いてあることがありました。木村先生がお茶を御自分で煎れられていたそうです。私はあまり朝が早くなかったので、そのことは黒木俊政先生に教えて頂きました。

武内先生のもと下肢班にいた時、木村先生や数人でフグ料理とカニ料理を食べに行ったことがあります。木村先生はカニの身を仲居さんにほぐしてもらって、おいしそうにつまみながら、酒を嬉しそうに飲んでおられたのを思い出します。フグとカニが好物でした。

私の同期のK先生とY先生が木村先生方と酒を飲みに行き、木村先生がボトルをキープしたことがあるそうです。後日、K先生とY先生は二人で木村先生ボトルを飲みほしたことがあるそうです。その後、木村先生に教室に呼ばれたそうです。

木村先生は私の義父・故 山田文夫の先輩

であり、私の入局時の教授であり、私達の結婚式の仲人です。私の義父 山田文夫から生前、良く聞かされていた思い出話があります。宮崎医大創成期には、玉井達二・元学長と木村先生をお連れして、食事やゴルフや酒を飲みに出かけていたそうです。義父曰く、「わしは熊本大学（玉井達二教授）から宮崎に派遣された（私の印象では、多分、意に反して）。当初、こんなに玉井先生と木村先生と一緒に過ごすことは考えてもいなかった。人生とはわからんな。」

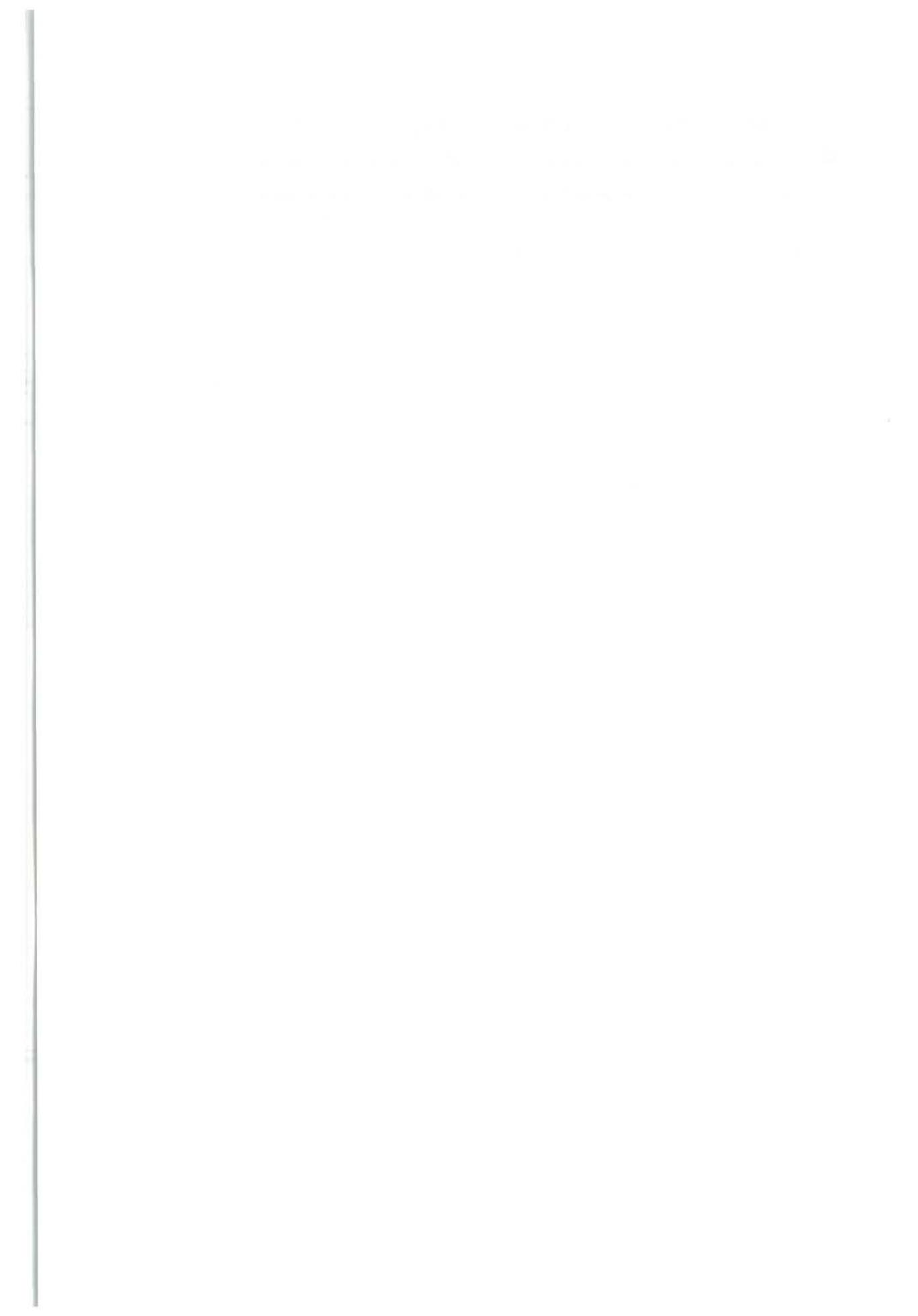
平成25年の12月、宮崎で行われた木村先生の米寿の祝賀会の翌日、突然、あかえ整形外科に木村先生ご夫妻からお電話がありました。山田宅に来られるとのこと。前日に私は祝賀会でお会いしていましたが、伺って

いませんでしたので、我が家、山田の義母、大慌てで支度して、お迎えしました。木村先生が奥様に「山田君に線香をあげてから、熊本に帰ろう」と言われて来て頂きました。山田家の仏壇の前でお話をしている中で、木村先生が、「あの頃、宮崎医大創成期の方が楽しかった。良く飲みに行ったな。」と言ってくださいました。

ほんとに、お寄りいただいてありがとうございました。私は先生の訃報を知った際、お寄り頂いた時の木村先生のお顔を、真っ先に思い出しました。あの時、お会いできて良かった。

木村先生のご冥福をお祈りします。

木村先生、大変お世話になりました。ありがとうございました。



目 次 ②

写真

同門会忘年会…………… 1

同門会新入局員歓迎会…………… 2

会長就任の御挨拶…………… 平 川 俊 一 …… 3

新入教室員歓迎…………… 帖 佐 悦 男 …… 5

学会賞受賞

日本骨代謝学会ANZBMS 2015 Travel Award

受賞にあたって…………… 中 村 志保子 …… 7

第10回宮崎整形外科医学奨励賞受賞にあたって…………… 中 村 嘉 宏 …… 10

ORSでの発表から研究留学へ …… 山 子 剛 …… 13

医局長挨拶

医局長挨拶…………… 濱 田 浩 朗 …… 16

新専門医制度に関して…………… 濱 田 浩 朗 …… 17

同門会・医局行事

第27回日本運動器科学会を終えて…………… 鳥取部 光 司 …… 18

第130回西日本整形・災害外科学会

学術集会開催を終えて…………… 濱 田 浩 朗 …… 19

西日本整形外科野球大会を終えて2015…………… 小 藺 敬 洋 …… 20

H28年日整会サッカー予選を振り返って…………… 永 井 琢 哉 …… 22

第24回同門会ゴルフ大会…………… 園 田 典 生 …… 23

第18回同門会テニス大会報告…………… 松 本 英 裕 …… 24

第11回同門会麻雀大会…………… 神 藺 豊 …… 25

第11回帖佐杯ゴルフ大会…………… 江 夏 剛 …… 26

野球検診報告2015…………… 長 澤 誠 …… 27

2015年 医局旅行 in 屋久島…………… 池 尻 洋 史 …… 28

1年間を振り返って…………… 31

新規開業

開院の御挨拶	河原勝博	33
--------	------	----

新入会員紹介（賛助会員）

入会のご挨拶	田原徳人	35
--------	------	----

新入会員紹介（正会員）

自己紹介	川越秀一	36
------	------	----

自己紹介	北島潤弥	36
------	------	----

自己紹介	吉留綾	37
------	-----	----

同門会総会議事報告		38
-----------	--	----

教室同門の研究業績（2014年度）		40
-------------------	--	----

編集後記	石田康行	72
------	------	----



平成28年度 宮崎大学医学部政経学科同門会 総会

平成27年11月28日 於 宮崎観光ホテル



平成27年度 宮崎大学医学部整形外科学教室 新入教室員歓迎会
平成27年4月4日 於 宮崎観光ホテル



会長就任の御挨拶

ひらかわ整形外科クリニック 平川 俊一

昨年の11月に開かれました同門会総会にて第二代会長河野雅行先生の後任となる第三代の同門会会長を皆様から命ぜられました。大役を仰せつかりまして身の引き締まる思いが致しております。前会長の方針を踏襲しまして、宮崎大学整形外科学教室の後援と、会員相互の親睦を二つの基本方針として会務に努めて参りたいと考えております。

まず最初に木村千仞名誉教授の訃報をお伝えしなければなりません。これまでの教室に対する御貢献とその御功績に対し厚く御礼を申し述べます。

教室および同門会の活動に付き述べさせていただきます。平成28年春は3名の先生の入局がございました。同門会に取りましても新しい仲間が増えたことになり大変嬉しいことと思っております。新しく仕事を覚えていくのは大変な事と思いますが、我々会員に取りましても若い力が加わるという事は大歓迎ですので、ぜひ同門会の活動にも御協力下さいますようお願いいたします。同門会の活動に関してですが、昨年は7月に日本運動器科学会、11月に西日本整形災害外科学会が教室で主催されました。そのお手伝いを教室に対してさせて頂きました。いずれも成功に終わりました

た事に御祝いを申し上げ、帖佐教授以下教室員の皆様の御苦勞に感謝申し上げます。

教室支援に関して目を転じますと同門会員個人に対して、留学関連の支援があまり活用されていないと感じております。是非とも特に若い先生方は積極的に短期間でも勉強に行かれる機会を作って頂き、同門会の支援制度を上手に利用して頂きたいと思えます。駄目元で御相談下さい。インターネットの時代にはなりましたが、実際にカダバーに触れて手術手技を覚えたり検討する機会は日本では難しいと思われれます。世界の第一線で活躍される先生方の仕事ぶりや考え方に身近で触れることは大変有意義なものと思えます。新しい技術、知見は個人の物ではありません。新しい物を是非持ち帰り教室、同門の皆様にご伝えたいと思えます。

『運動器の十年』という世界的運動の中で、ロコモティブシンドロームの分野で帖佐教授は日整会の先頭に立って活動なさってされました。また日本臨床整形外科学会のストップザロコモ活動にも大きく寄与されておられます。今や宮崎県がロコモ認知度日本一の県として全国でも群を抜いた成績を取っております。また教室員の力を借りてまず近隣の学

校から始めました学童の運動器検診が県内に広がり多くのデータが集積されました。その実態の報告が文部科学省を動かし、今春から学校保健法の中での運動器検診の開始という大きな動きになりました。未だ検診を実施する学校医や養護教諭の先生方には混乱があると思いますが、私達整形外科医も積極的に二次検診に関わって行くべきと考えます。ロコモおよび運動器検診の意義を考えてみますと、これは子供から高齢者まで幅広く運動器に関する疾患、諸問題は整形外科医が担当するという事が、国民に周知される様に国が宣言したと考えられます。現在の状況では、特にスポーツ活動でのオーバーユースの児童の痛みは指導者と親御さんが使いすぎだからという判断で整骨院他の医業類似行為の治療院に連れて行きます。柔道整復師等は打撲、骨折、捻挫しか治療できないのでありますが、その範囲を拡大解釈し更に長期にわたって施術を

行うという誤った動きをしております。その結果、腰椎分離症など障害が完成してから整形外科に来院する児童が多々見受けられます。

ただ単に運動を休みなさいと言うだけで無く整骨院等の医業類似行為に流れないようにするにはどうすれば良いか、スポーツ障害が出来上がった児童を作らないようにするには今こそ整形外科医が知恵を出し合う時だと思います。せっかく国が運動器疾患の患者をまず整形外科に誘導してくれる事になったわけですから、整形外科医にとっては大きなチャンスでありここでしっかりと結果を残し、次代の整形外科医につないで行く事が大切と思われれます。今の時代をこのまま過ごしていくことは簡単ですが、次代の整形外科医の育成、また若い先生方から見て魅力ある整形外科を作っていくように努力しなければなりません。

皆様健康にだけは気を付けて御活躍下さいますようお願い致します。



新入教室員歓迎

宮崎大学医学部整形外科学教室 帖佐悦男

2015年は日本人2人のノーベル賞受賞、ラグビーワールドカップ2015での日本代表の大活躍など嬉しいニュースもありましたが、集中豪雨や台風などの異常気象や、国内外での火山活動が活発化し、先日熊本で発生した震度7の地震でも多くの方々被害に遭うなど、心を痛める出来事もたくさんありました。安全保障関連保安の成立やTPP大筋合意など、私たちの将来に大きく影響すると思われる出来事も今後注視すべき出来事ではないでしょうか。

また、私たち宮崎大学医学部整形外科学教室同門会にとっても、前同門会長であります河野雅行先生が宮崎県の医師会長に就任され1年が経ち、現在も様々な分野でご活躍されています。長年にわたり同門・教室運営に多大なる貢献を頂きました河野先生へ心から感謝申し上げます。また、河野先生の後任として平川俊一先生が新同門会長に就任されました。平川先生、今後の同門会をどうぞ宜しくお願い致します。

そして2015年は初代教授の木村千仞先生、賛助会員であります千代反田泉先生の突然の訃報という大変寂しいお知らせもありました。改めまして、木村先生、千代反田先生にはこれまでの教室に対しますご厚情に深く感謝致しますとともに、ご功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。まだ多くの同門の方々病氣療養中でいらっしゃいますので、みなさまの早期回復をお祈りするばかりです。さら

に今年は冬から春の暖冬と厳寒、春は寒の戻りなどがあり体調を崩され、特にインフルエンザに罹患された方も多かったようです。これからも健康には十分ご注意ください。

今年度は、昨年度に宮崎大学が国立大学法人として初めての田野病院の指定管理者となり、昨年10月には池ノ上克学長と本年4月から鮫島浩病院長の誕生など新たなスタートの年となります。整形外科の役割はこれまで通り地域に根差し教育・臨床・研究を進めていきたいと思っております。

教育に関しましては、新専門医制度が実施されますが、これまでと同様に人間味のある医師を養成する卒前教育と卒後教育で整形外科専門医でsubspecialty医師を育成します。あわせて、リハビリテーション科の専門医も育成したいと思っています。要支援・介護になる原因として運動器の障害が最も多くの割合を占めていますので、リハビリテーションは整形外科にとっても治療の中心であり、地域医療分野において今後益々重要な位置を占めます。田野病院には介護施設もありますので、卒前・卒後教育に将来を見据え介護医療も学んで頂きたいと思っております。

研究に関しては、昨年も多くの賞やグラントの受賞もあり大変嬉しい年でした。臨床に関しましても教室員丸となり治療にあたり、手術件数も一昨年の1300件を超えております。多くの症例を経験することはレジデントの先

生にとって良い機会ですので、是非多くのことを学んでほしいと思います。また、新しく開始される専門医制度では様々な領域の疾患を経験する必要があります。多くの認定施設が単独では研修できなくなる可能性があります。保存療法はもちろん手術症例だけでも十分経験できるのが宮崎大学病院整形外科の特徴の一つです。同門の先生方には入院待ちなどでご迷惑をお掛け致しますが、今後医師会との前方連携・後方連携が進むと思いますので、ご協力・ご支援をお願い致します。またこの場をお借りして、日頃多くの患者さんをご紹介頂き心から感謝申し上げます。

先述のとおり昨年は多くの変化があった年でしたが、今年も変わらず桜が満開となり、嬉しいことに3名の新入教室員を迎えることができました。レジデントの先生である川越秀一先生、北島潤弥先生、吉留綾先生は、希望に満ち溢れた新たな出発点となったのではないのでしょうか、これから夢と目標、情熱をもって診療・研究・教育にあたって頂きたいと思っています。臨床に関してはまず専門医をとり、その後少しずつスペシャリティを考え、もちろん研究に専念したい場合は大学院へ進むことも貴重な体験になります。夜間大学院もありますので活用してください。運動器を扱う地方の整形外科医は、自分の専門を二つ以上持つことが大切と私は考えます。将来の医師過剰時代の到来に備え、保存療法から手術療法までを地域・社会貢献を使命として実施することで私たち宮崎大学医学部整形外科の将来は明るいと思っています。このように教育制度や施設など受け入れ体制は充実していますので今後も多くの教室員が増えますよう教室員のみならず同門の先生方のご協力もよろしくお願い致します。

新臨床研修制度により、研修医が中央の病院へと集中したため、関連病院への医師の派

遣が不可能となり、地方の病院、しいてはその地域の患者さんに不安な思いをさせることになっております。また、開業されたり故郷に戻られる先生方もおられ私たち教室員同様に苦境に立たされていますが、幸い教室・同門の先生方のご理解・ご支援によりなんとか乗り切ることができています。お詫び申し上げますとともに一層のご協力をお願い致します。

また、整形外科医が是非知っておいていただきたいこととして、「ロコモ判定法」、2016年度から開始される「学校における運動器検診」や保険収載されています「運動器不安定症」の新定義がありますので、ご確認ください。

ロコモ啓発や予防はより一層積極的に進めていく必要があります、引き続き様々な取り組みを実施していきます。さらには高齢化社会、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、より一層「スポーツメディカルランド宮崎」、「ロコモザワールド宮崎」構想を進めていきたいと思っております。宮崎県、宮崎市や宮崎大学の重点事業にも指定されていますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

昨年度は、「日本運動器科学会：7月4日」、「西日本整形・災害外科学会：11月14、15日」を開催し、成功裏に終了することができました。これもひとえに同門・教室の先生方や準備・運営にあたってくれました皆様のお蔭です。あらためまして御礼申し上げます。

最後になりましたが、新たに入局していただいた先生方を加え、教室員の和を大切にし、質の高い臨床・研究を実施し、学内外連携を推進し開かれた特徴ある臨床外科系講座として貢献したいと思っております。そのためにも、教室・同門の先生方のご指導・ご鞭撻を、これまで以上によりよろしくお願い申し上げます。



日本骨代謝学会 ANZBMS 2015 Travel Award 受賞にあたって

宮崎大学医学部整形外科学教室 中村志保子

「世界一空気がきれいな島」タスマニア島。
今回、日本骨代謝学会より「日本骨代謝学会ANZBMS 2015 Travel Award」をいただき、平成27年11月1日～11月4日にタスマニア島（オーストラリア）で学会参加をさせていただきました。

「Construction of a novel gene library related to osteogenic disorder using exchangeable gene trap mutagenesis」(可変型遺伝子トラップ法を用いた骨代謝に異常をきたす新規遺伝子群のライブラリー構築)という研究タイトルでの受賞で、この場をお借りして受賞報告をさせていただきたいと思えます。

日本骨代謝学会は骨代謝に関する基礎から臨床までを網羅した学会で、整形外科以外にも解剖学や病理・生化学、歯科口腔外科や放射線科、内科や婦人科、さらには農学部や工学部など多岐にわたる分野の先生方が参加されます。今回国際学会でありますANZBMS (Australian and New Zealand Bone and Mineral Society) では整形外科だけでなく様々な分野の先生と受賞できたのは、大変刺激になりました。

ANZBMS 2015はタスマニア島のホバートというオーストラリアではシドニーに次いで2番目に古い都市で行われました。土地の特徴としましてはガイド本に「心地いい海風やクリエイティブさを尊ぶ精神文化、開拓時代の歴史をたっぷりと満喫しましょう」と書いてありましたが初めての国際学会で緊張してしまい会場周辺散策であつという間に終わってしまいました。ホバートは港町で現地の人も優しく非常に過ごしやすい街でした。

学会に参加して感じたことは、よく言われることですが自分の英語力の低さを実感したことです。日本人でも英語でプレゼンテーションし英語の質問に答えている姿を見ると、若いうちから国際学会に積極的に参加しモチベーションを上げていかなければならないなと実感しました。

学会後はタスマニアワインとタスマニアビーフをちゃっかり食べて帰ってきました。こうして私の初国際学会の旅は終わりました。

現在、私たちは関本朝久先生を中心に熊本大学との共同研究で、遺伝子改変マウスを用いて、骨代謝に影響を及ぼす可能性のある遺伝子を探索する研究を行っています。研

究費につきましては、科学研究費はもちろんのこと毎年多くの助成金募集に応募しておりますが研究費用は継続的に必要となるため今後も引き続き帖佐教授や同門会の御理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

現在私たちが行っている研究は、骨代謝に関わる遺伝子の中で、未だ働きがはっきり解明されていない遺伝子を破壊するとどうい現象が起こるか？というシンプルな実験です。

遺伝子を破壊する技術は確立されており、これを行っている施設のの一つが、関本先生が大学院で研究をされた熊本大学生命資源研究・支援センターです。その中で骨軟骨に変化がありそうなマウスを選択して当教室に譲渡して頂き評価を行っています。当科での評価実験そのものは臨床の延長上にある基本的なものです。そのマウスを作製するために最先端技術を駆使して作成されています。われわれは、そのマウスを用いてCTの撮影、骨密度の計測、病理組織学的検査などを行っています。具体的にはモデルマウスの大腿骨を摘出し、骨強度試験で骨強度を調べ、骨折後の骨癒合を評価する研究も行っています。さらに現在は遺伝子改変したES細胞を用いて、同様に骨代謝に影響を与える遺伝子の評価を行うことを検討しています。またマウスES細胞を用いた骨芽細胞分化誘導実験等も現在進行中です。

これらの実験は研究棟2階に必要なすべて

の実験機器を配した研究室を帖佐教授に整備していただいて遂行しています。現在も可変型遺伝子トラップ法を用いた遺伝子改変マウスのスクリーニングは継続しており、新たにいくつかの骨軟骨に異常をきたす遺伝子群が同定され学会発表で報告してきております。昨年度から永井琢哉先生も少しずつ研究に参加いただくなど人材の面でも充実してきました。帖佐教授のご配慮を頂き、専門的な手技をお願いできる実験スタッフ（相馬さん、土持さん、永田さん）の力を借りながらフル稼働で行っています。

今回のTravel Award賞の受賞は、このテーマで研究を立案実現してきた、帖佐教授、関本先生、黒木修司先生をはじめ、船元太郎先生、大田智美先生、実験スタッフの助力によるものです。改めて感謝の意を表したいと思います。

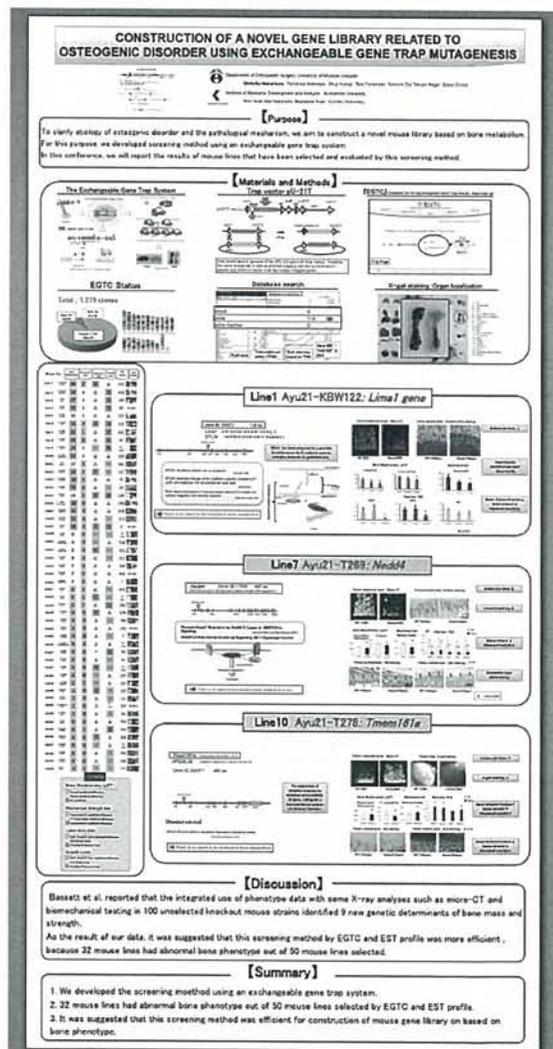
スティーブ・ジョブズの言葉で、「If you really look closely, most overnight successes took a long time.」（よく見ると、一夜にして起こった成功の多くには長い時間が費やされているものだ）という言葉があります。

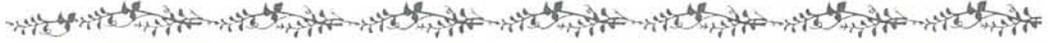
我々が研究を毎日行えるのはその裏に先輩方の苦悩や想いがあり、その上で成り立っているということを一昨日感謝しながら、また次の大学院生に何が残せているかを問い続けながら今日も2階の研究室に向かいます。

図1 学会会場の Grand Chancellor Hotel Hobart



図2 学会会場にて





第10回宮崎整形外科医学奨励賞 受賞にあたって

宮崎大学医学部整形外科学教室 中村 嘉宏

この度は栄えある宮崎整形外科医学奨励賞を受賞させて頂きまことにありがとうございました。過去に受賞された先生方の素晴らしい基礎・臨床研究の実績と比べますと、私は単純に現場一筋に邁進してただけであり、甚だ恐縮している次第であります。今回の受賞テーマは「救急医療への貢献と積極的学会活動」ですが、日々の診療が奨励賞という形で評価していただき大変嬉しく思うとともに、今までご指導いただきました先生方、関連病院、同門の先生、病院スタッフの皆様のお力添えに改めて感謝申し上げます。

さて私は高校、大学とラグビーを行っており、頭脳はありませんが体力には自信があり、自然な流れで整形外科に入局させていただきました。医師3年目、最初の関連施設での研修は橘病院でありました。指導医である柏木先生は「救急車は絶対に断るな」という教えて、当時は未熟ながらかなり多くの救急対応させていただいた記憶があります。救急で外傷患者が来た時の高揚感や骨折型に応じた治療戦略を思い浮かべる過程に脳内エンドルフィンが多量に分泌され、救急医療にのめり込んでしまったのかもしれませんが、つまり、その脳内麻薬により仕事そのものに辛い、き

ついといった感覚は皆無で、さらなる多幸感をもたらすエンドルフィンを求め、もっともっと重症な外傷を求めるようになったのかもしれませんが。そういった時期にある尊敬する先輩の一人であるN先生に出会い、そのご縁もあり、2005年から日本医科大学高度救命救急センターに研修をさせていただく機会を与えていただきました。日本医科大学では初期治療から根治手術、ICU管理までの全てを専属の医師で治療する、いわゆる自己完結型救命救急センターであり、そこでの経験は非常に印象深いものでした。Pre-hospitalな治療、いわゆるドクターカーに乗っての初期診療から病院搬送後の治療、その後マネジメント含めた救急システム並びに、全身状態を十分に考慮した整形外科的治療戦略Damage Control Orthopaedic (DCO)もしくはEarly total care(ETC)を中心に多くを学ぶことができました。当時の指導医には“too sick to operate on”でなく“too sick not to operate on”だからね”とよく言われ、患者の全身状態を考慮した整形外科的治療戦略は従来の整形外科とは全く異なる新しい整形外科医の姿として映りました。手術に関しては特に骨盤寛骨臼骨折の症例数が最も多く、手術アプローチ

からプレートの設置、整復固定方法、ピットフォールなど様々な経験をさせていただきました。主にmodified stoppaアプローチを用いた内側から展開する骨盤は、通常の整形外科手術にはない景色で非常に興味深いものであり、現在もその興味がある分野の一つとなっております。

その後平成18年度から大学で診療させていただいております。当時大学には救急部はあったものの、それほど多くの外傷症例はありませんでしたが、平成24年から救命救急センター開設、その後のドクターヘリ導入など宮崎大学における救急医療も大きく変遷しているところであります。救急医療の中でも整形外科医の役割も多く、整形外科教室から5人の整形専門医が救命センターに所属し外傷医療の一翼を担っております。平成26年度における整形外科関連手術数は174件で徐々に増加傾向を示しております。症例の内容も四肢長管骨骨折から脊椎外傷、骨盤寛骨臼骨折はもちろん、重篤な合併症を併発した骨折、高度骨欠損症例、重症骨関節・軟部組織感染症、多発外傷などdramaticな症例も稀ではありません。外傷に興味がある研修医含めた若い先生も多いようで、初期診療から手術を含めた根治術まで一貫して治療に携わっており、充実した外傷医療を習得しているものと感じております。また、当院はハードの面においても充実した医療機器の整備がなされ、近年は第3世代ナビゲーションシステム(O-arm)を利用した経皮的骨盤骨折手術、経皮的脊椎椎弓根スクリュー挿入、そしてハイブリッド手術室を利用した骨盤寛骨臼骨折

の施行(術中CT撮影による整復確認や今まで困難なscrew挿入などより高度な手技がより安全にできるようになりました。)などより高度な外傷医療の提供が可能となっております(O-armは比嘉先生、日吉先生が好んでされております。特に日吉先生は根っからの外傷好きで外傷手術がマスターベーションみたいなものなのでしょう?笑)。そしてハード面の充実だけでなく、我々自身もアップグレードする必要があります。救急外傷分野においては数年前の常識は今や非常識という状況であり、常に知識のアップグレードが必須です。当院からの外傷に関わる発表は近年増加傾向で、整形外科関連の学会のみならず、救命分野の学会にも積極的に発表しております。(川野先生含めた若い中堅ドクターの活躍は目覚ましいもので、積極的な学会活動をされており頼もしい限りであります。)

なお、外傷が高度化、多様化するにつれ、他科との連携がもっとも重要と考えます。診療科同士がバトンタッチ的に治療を行なっていくのではなく、最も良いタイミングにシームレスに治療行なっていくことが大切となります。そこで平成28年度2月から宮崎大学における外傷医療のレベルアップを目的とした「宮崎外傷カンファレンス」を開催しております。対象は外傷に携わる全ての診療科で非常に垣根の低い会であります。初回は40名程度でありましたが現在は様々な診療科の医師だけでなく看護師、放射線技師等含めた100名程度の参加があり、外傷に興味がある人々の存在に驚いているところです。なお、2ヶ月に一回、カンファレンスを予定し

ております。もちろん院外からもwelcomeです。是非興味がある先生はご参加ください。

(facebookの中に「宮崎外傷カンファレンス」で検索できます。) 集学的治療を必要とする救急医療において、大学病院の役割は非常に大きいと考えております。集学的治療を必要とするようなcriticalな患者のご相談は何時(24時間、年中無休で)でも迅速にさせていただきます。日々勉強の立場ではありますが、今後も謙虚に外傷医療に関わっていただければと考えておりますので暖かい目でご指導いただければと思います。

今回の受賞は同門の先生方、帖佐教授並びに医局のすべての方々のご指導、ご助力の賜物であると心から感謝いたします。まだまだ未熟者ではあり、ご迷惑を多々おかけすると思いますが今後もご指導いただければと考えております。

追伸

40にして惑わず、孔子の言葉であります。私自身「40にして惑う」今日この頃であります。今までのコンパスで描かれた住み慣れた場所にいれば万能感に浸れるかもしれませんが、そうも言ってもらえなくなるのが40歳ではないでしょうか。「過去の延長線上でもがいているようであればブレークスルーはない」(糸井重里)私は40を超えた今、大学院入学してしまいました。全く別なコンパスで描いた円に入っていくと自分が万能でなく、全く役に立たない存在であると突きつけられています。逃げずにやり遂げることが大切と思いますが、周りの先生に指導受けながら次のエンドルフィン分泌のきっかけとなるものが見つかればと願っております。





ORSでの発表から研究留学へ

宮崎大学テニユアトラック推進機構
バイオエンジニアリング分野(工学系) 山子 剛

本同門会誌への寄稿を依頼されましたので、この場をお借りして改めて自己紹介させて頂きたいと思います。私は工学系で、新潟大学の材料力学・バイオメカニクス研究室（原利昭教授）にて2007年に博士号を取得した後、大学と企業の研究員として医工・産学連携研究に従事していたところを、約5年前に帖佐先生に呼んで頂いて、宮崎で人工関節の研究開発や動作解析などについて実験やシミュレーションを駆使した研究を中心に取り組んでいます（研究室は工学部にあります）。今回、研究成果を2016年3月5～8日にOrlandoのウォルト・ディズニー・ワールド・リゾートで開催されたORS（Orthopaedic Research Society）のAnnual meetingで帖佐先生、鳥取部先生との3人で参加し、発表してきました。ORSや、海外研究留学について若手医師へのアドバイスを含めてメッセージを書くようにお話しましたが、若輩の身で教訓めいたことはとても書けませんので、ORSで発表したことが科研費（国際共同研究強化）の採択、そして研究留学への道が開いたことについて経験談を書かせて頂きます。

ORSは毎年米国各地でAAOSと一緒に開催

される整形外科領域の基礎研究を中心とする学会であり、その参加者は整形外科医だけでなく、BiologyやMaterial Scienceの研究者、エンジニア、獣医など多様です。1955年から62回開催されて、これまでに約64,000演題が発表されていますが、採択されるのはなかなか難しく、その準備も大変なことで知られていると思います。今回の参加者数は約3000人、Podiumが422題、Posterが1700題の中、宮崎からは応募した2題が採択されました。ORSはバイオメカニクスの著名な先生も多く発表するため非常に重要で、またポスター発表では、いろいろな研究者と意見交換もできるので、毎年応募し研究成果が認められ発表してきました（2006年から計17題）。そんな中、昨年ラスベガスでのPodium発表が今回の研究留学のきっかけを得ることになりました。

昨年のORSでは、東北大学・ミズホ株式会社との共同研究である傾斜ヤング率チタン合金を用いた人工股関節ステムの研究開発の成果を演題名「Ti-33.6Nb-4Sn alloy femoral stem with gradation of Young's modulus reduces stress shielding after total hip arthroplasty: a biomechanical study」と

して発表しました。この講演後に声をかけてくれた先生がバイオメカニクス分野で著名なRadboud University (Nijmegen, オランダ) のProf. Nico Verdonshotでした。彼は我々の研究成果に大変興味を持ち、独自に開発した術後の骨反応を高精度に予測するシミュレーション手法を使って共同研究しないか? と提案してきました。私にとってはこの著名な先生からの提案は、ステムのデザインに重要なヒントを得る可能性が高く、今後の研究の飛躍的進歩が期待できる点で非常に魅力を感じて帰国後すぐにNico先生のラボに滞在する研究計画をアレンジしましたが、学内調整や資金の面で簡単には行かず難航して止まっていました。

研究留学には“行きたい”という気持ちだけではダメで“行かなければならない”に変える理由が、周囲を納得させるためには必要と考えて、海外研究留学の科研費である国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）に申請しました。これは「科研費」に採択されている研究者が、1年程度海外の大学や研究機関において海外共同研究者と共同で行う研究計画に対する助成で、400名しか採用されない難

関であったことから、ダメもとで申請しておりましたが、査読者に熱意が伝わったのかどうか分かりませんが、今年の2月に奇跡的に内定を頂くことになりました（宮崎大学で2名）。これが決まった後は、学内の協力も得られて驚くほどのスピードで研究留学の手続きが進展しました。そして、特に今回のORSの会場で行われたNico先生との面談では、ご同席頂いた帖佐先生がテキパキとあっと言う間に話をまとめて下さり、非常に感謝しております。その夜、鳥取部先生と飲んだワインはとても美味しく、先生の留学時代の話も伺うことができ、文字通りヘロヘロになりながら、楽しく過ごし良い思い出となりました。

少し長くなりましたが、これがORSと研究留学までの経験談になります。渡航はこの5月ですので、これからが本番で重要になりますが、国際会議で積極的に発表することは、その後の研究人生に大きく影響することを、身をもって感じました。最近は少しスランプ気味であったのですが、オランダでしっかり研究と充電し、パワーアップしてから宮崎に帰ってきたいと思っております。

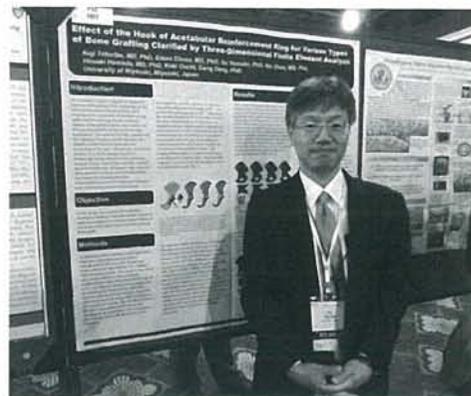
今後ともどうぞよろしくお願いたします。



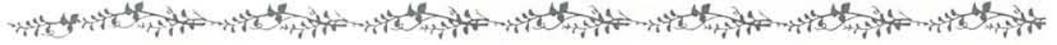
学会会場のホテル



会場前で



ポスター前で



医局長挨拶

宮崎大学医学部整形外科学教室 濱田 浩朗

また、新年度となりました医局長の濱田でございます。

今年度も3名の新しい仲間を迎える事ができ非常に喜んでおります、将来の医局を背負ってくださる3本の矢は川越秀一先生、北島潤弥先生、吉留綾先生です。トリプルスリーをものもしないご活躍を期待しております。同門の皆様も専攻医研修へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

昨年度は、日本運動器学会・西日本整形外科学会と2つの学会を開催させていただき盛会のうちに終了することができました。これもひとえに参加者の先生方、教室員、同門会員の皆様のご協力あってのことと深く御礼申し上げます。詳細につきましては責任者の報告にゆだねさせていただきますと思います。

また、同門会といたしましても30年会長を務めていただいた河野雅行先生がご退任され

ました、長年の労に感謝いたしたいと思えます、お疲れ様でした。さらに多忙な県医師会長の任に当たりましては影なりにご協力できればと考えておりますのでご活躍を期待しております。

悲しいご報告といたしましては昨年の11月に初代整形外科教授であられます、木村千仞先生がご逝去されました。謹んで哀悼の意を表したいと思えます。

最後に、昨年は学内外で大きく人事が動きました。新しい世代への準備を着々とすすめ、皆で助け合える環境を整える事が、今まで整形外科を背負ってきていただいた先生方への恩返しであり、しいては次世代につないでいけるのではないのでしょうか。後進のさらなる頑張りを期待しています。

最後に、同門会員の皆様におかれましてはますますのご健勝をお祈りいたしております。



新専門医制度に関して

宮崎大学医学部整形外科学教室 濱田 浩朗

来年度より実施を予定しております新専門医制度を担当させていただいております濱田でございます。来年から施行予定であります新専門医制度に関しましてその背景と実施要綱に関しまして簡単にご報告いたします。

新専門医制度とは、2025年の地域包括ケアシステム構築に向けた動きの一つであり、2015年4月から地域医療構想の策定がスタートし今回の2016年度診療報酬改定はそれを推進するための改定であり、2018年度には診療報酬と介護報酬の同時改定。の予定となっております。団塊の世代が後期高齢者となるときまでに何とかしたいというシステムと認識しております。

この地域包括ケアシステムの構築に必須と考えられているのが総合診療医であり、今回より総合診療医専門医の研修が選択可能となる事が一つの目玉であります。

今後、専門医の方向性といましては基本領域1つの専門医取得（複数領域の取得は許容されますが、新制度での取得が必要）、広告制度の見直し（専門医のみ広告可能）、大学病院など基幹病院と地域協力の構築が構想として考えられております。

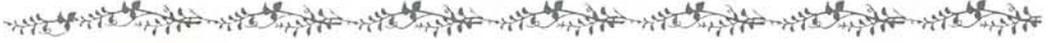
専門医取得のための基幹病院は条件が厳しくほとんどが大学病院でなければならぬ（施設基準や論文数などリサーチ系も重視）状況で取得困難となりますが、逆に総合診療医の基幹病院の基準は甘く、県病院レベル

（救急と小児科を持つ）であれば比較的なりやすいようになっております。具体的に総合診療医研修はトリガーポイントや関節内注入を習得することになっておりますし、婦人科内診や救急での初期縫合も含まれております。総合診療医は新卒になるのか、それともベテランズが取得するのかははまだ予想がつきません。

専門医更新に関しましての注意点は症例提示の連結可能匿名化であり、必要に応じて個々の症例が特定できるように、診療施設とともに管理番号を振り。管理番号は診療施設ごとに保管せねばいけません。カルテ番号は絶対に管理番号にはできません。（4回以上更新している専門医は症例提出の必要はありません）あとは今までどおり50単位取得（多少の必須領域の変更があります）で構いません。

新しい専門医制度に関しそれぞれが思うことがありますでしょうが、10年後どのような姿になっているのかは私にも想像できません。更新に必要な情報に関しては整形外科HPか医局に文書で照会していただければ文書にて回答させていただきますのでなにぶん、お間違えの無いようよろしくお願いします。

硬い話で締めくくりましたが、今年度もよろしくお申し上げます。



第27回日本運動器科学会を終えて

宮崎大学医学部整形外科学教室 鳥取部光司

平成27年7月4日(土)、宮崎観光ホテルにおきまして第27回日本運動器科学会が、帖佐悦男教授のもと当教室主催で開催されました。

本学会は、運動器、特にロコモティブシンドローム(ロコモ)や運動器リハビリテーションを専門とされている様々な分野の方々が年一回、全国から集まり活発な討論が交わされる学会であり、今回の参加者は、医師169名、メディカルスタッフ220名と多数の皆様にご参加頂きました。

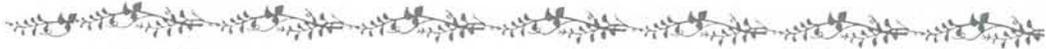
運動器に関しまして、特別講演2題(日本臨床整形外科学会理事長 田辺秀樹先生、福島県立医科大学教授 白土修先生)、ランチョンセミナー3題(埼玉医科大学整形外科学教室主任教授 織田弘美先生、広島大学病院リハビリテーション科教授 木村浩彰先生、日高整形外科病院院長 日高滋紀先生)、シンポジウム3セッション19題、一般演題75題、学術プロジェクト研究成果発表3題が、4会場において行われ、御高名な先生方からの貴重な御講演を拝聴でき、大変有意義な会となりました。

また学会当日の午後の第3会

場では“市民公開講座”が開催され、「動く喜び、動ける幸せ：歩ける喜びロコモ予防」をテーマに日本整形外科学会前理事長 中村耕三先生、藤野整形外科医院院長 藤野圭司先生に御講演して頂き、会場からあふれるほどの多くの県民の方々にご参加頂きました。この会を通じまして医療関係者のみならず一般の方々の関心の高さも改めて感じた次第でした。

開催にあたり、ご支援いただきました同門の諸先生方、学会の開催運営にお力添えいただきましたすべての皆様に心より御礼申し上げます。





第130回西日本整形・災害外科学会 学術集会開催を終えて

宮崎大学医学部整形外科学教室 濱田 浩朗

第130回西日本整形災害外科学会の責任者をさせていただきました濱田でございます。H27年11月に開催されました西日本整形外科学会に関しましてご報告申し上げます。

さる、11月14-15日宮崎市民プラザにて「第130回西日本整形災害外科学会」が開催され盛会のうちに終了いたしました。本会の特徴といたしましては鹿児島大の整形外科基礎学会の自主開催に刺激を受けまして、自主開催にしたところでしょうか。責任者まで担当させていただきました心より喜んでおります。

自主開催になりましたのも単に鹿児島大に影響を受けたのだけではなく、思い起こせば11年前、教授就任後、初の開催となりました九州リウマチ学会を今は無きプラザホテルにて2日間の日程で開催させていただいた頃に戻ります。会は盛会のうちに終わり来席のみなさまにご好評いただき皆笑顔のうちに解散したのですが、後日、コングレから赤字である連絡があり状況は一変し、赤字になる学会なんて聞いたことないと大騒ぎになり、私はすべての責任をコングレに押し付けて身を潜めておりました。思い起こしても恐ろしい話ではありますが、後日さらに検証いたしましたところ、多くの看護師をウグイス嬢として雇い、あまつさえピストロ亭のお弁当を暇でガールズトークしかしていないバイトに食べさせ、バイト代まで出したのが原因と分かり秘密にしておりましたが、10年の時効を過ぎ、やっと皆にお話することができ今まさに心

が軽くなりました。

本学会はこのコングレ不信に陥ったことと、望んでもいない私の名誉回復も兼ねまして櫻森さん・森さんの強力な助っ人を得て、会場・プログラム作成・協賛・タイムスケジュールなどすべてを自作で行っております。本学会に労した労力は膨大でW森コンビの鬼神のような働きと医局員の協力、同門の後押しがあつてどうにか無事に閉会することができました。本紙をお借りし御礼申し上げます。会場費がホテルに比べて格段に安いこと、昼食はランチの余りを食べるようにスタッフに指示したこと、バイトは面接の上厳選したことで赤字はあり得ない自信がありました。結果を見ても爆買い出来るほどの利益を上げ、11年前の倍返ししたものと自負しております。

来年は6月に日整会スポーツがシーガイアで開催されます。田島教授の時代から力を入れている分野ですので今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。ちなみにコングレに頼んでいます。





西日本整形外科野球大会 を終えて2015

千代田病院 小 園 敬 洋

平成27年8月30日に第58回西日本整形外科親善野球大会が長崎にて行われました。九州に上陸した大型の台風15号が去った後、停滞する秋雨前線の影響で前日まで小雨模様でしたが、試合当日は天気が回復したうえ最高気温27度と例年ほどの暑さも感じられず、まずまずのコンディションとなりました。

長崎市では、同じ週末に3万人を動員した福山雅治の『福山☆夏の大創業祭2015』稲佐山公演が行われていました。観光バスやシャトルバスがいつも以上に多く、移動で渋滞に巻き込まれないか心配されるほどでした。また宿泊先を主管の長崎大学が事前に押さえていたため、なんとか宿泊することもできました。

前夜祭に行われた抽選の結果は1回戦からの出場でしたが、準決勝まで球場間の移動がない好都合な組み合わせとなりました。

初戦は長崎市かきどまり野球場で大分大学と対戦。矢野－川添のバッテリーで午前9時に試合が始まりました。初回から4点を先取りし、試合前半に加点して5回コールド(10-1)で勝利しました。先発した投手矢野は、散発5安打完投で見事に試合を作りました。

続く2回戦は、産業医科大学と対戦。松岡

－福嶋のバッテリーで試合開始。初回、ヒットにエラーが絡んで3点を先制されました。その裏、ランナーを貯めたチャンスに5番石田がタイムリーヒットを放ち、すかさず追いつきました。2回表には産医大の攻撃で3点を追加されました。さらに突き放される嫌な展開となりましたが、すぐさま川野・池尻・福嶋のタイムリーヒットで一挙5点をあげて逆転しました。リリーフ登板した三橋が産医大打線を封じ、5回コールド(14-7)で勝ちました。大味な試合になりましたが、失点しても動揺せずに早い回に追いつき、ワンチャンスから大量得点に結びつけた経験は、これからの試合でもいいイメージとして残って活かせる機会があると思います。

準決勝の相手は、これまで何度も決勝・準決勝で対戦している琉球大学。お互い手の内を知り尽くしていますが、琉球大学は投手として新戦力が加わっていました。

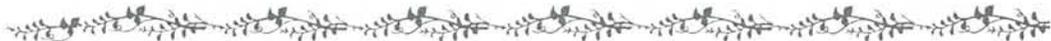
日整会野球大会の出場権を賭けた重要な試合は、長澤－福嶋のバッテリーで挑みました。相手投手の立ち上がりを攻めるも得点につながらず、流れが変わった3回に3点を先取されました。その後もチャンスが活かせず、得点に結びつきません。琉球大学に1点を追加さ

れ、0-4で敗れてしまいました。一試合を通して前の試合までの勢いがなく、スタミナ切れが感じられた試合となりました。

本年度も日整会野球大会の出場権を逃してしまいましたが、7月31日(日)に熊本で行われる

親善野球大会へ向けてすでに動き始めています。日整会総会の会場トーナメント表に再び宮崎大学の名を掲げる事を目標に、炎天下で勝ち抜ける体力をつけて頑張っています。これからも応援のほどよろしくお祈りします。





H28年日整会サッカー予選を振り返って

宮崎大学医学部整形外科学教室 永井 琢哉

3/20に高原運動公園にて、日整会サッカー予選（宮崎大学・大分大学・鹿児島大学の3大学での総当たり戦）が行われました。小島キャプテン主導の元、夏合宿も行い、チームとしての結束力も高めていました。練習コーチとして横江先生を任命し、炎天下の中、鬼の合宿となりました。

当日は快晴、芝生も冬芝ではあるものの、宮崎はキャンプの聖地、さすがにいいグラウンドでした。初戦は鹿児島大学との試合でした。前半、横江先生がドリブルで持ち込み、鋭いシュートをゴール左隅に突き刺し、先制しました。ボールを支配し、再三攻めるも1-0で後半に折り返しました。小島キャプテンはオリンピック手倉森ジャパンのようにどんどん前線を入れ替え、フレッシュなFWをいれるという選択を取りました。すると深尾先生が左サイドからのクロスに飛び込みながらゴール。2-0とつけ放しました。しかし、相手も必死に応戦し、自陣深いところからのスローインがもつれ、1点を返されました。なんとかしのぎ切り、辛くも2対1で勝利しました。

鹿児島対大分戦は大分が勝利し、対大分戦は絶対勝利しなければいけない状況となりました。風も強くなり、前半は風下でのスタートとなりました。前半、中央付近からの横江先生のフリーキックに合わせたのはまたも深尾先生、ワールドクラスのヘディングシュートを決めました。その後も日吉先生のクロスを横江先生が滑り込みながらゴール。余裕と思われましたが、相手にミドルシュートを決められ、2対1で後半に突入しました。後半に入ると、横江先生の独壇場となり、一気に3



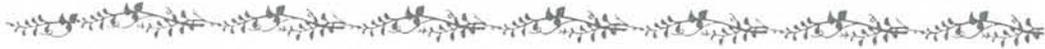
マネージャー：三股 / 吉留

点を決め、結果5対1大差で勝利しました。

2戦2勝と申し分のない結果で本選出場を決めることができました。その日の夜は、交流戦始まって以来、初めて大分大学との懇親会が行われました。大変盛り上がり、夜の部でも宮崎大学が勝利したとかしてないとか…。交流が深まりました。

日整会本選では、同門の先生方の支えのおかげで、サッカーができることに感謝しながら、良い報告ができるように頑張りたいと思います。





第24回同門会ゴルフ大会

藤元総合病院 園田典生

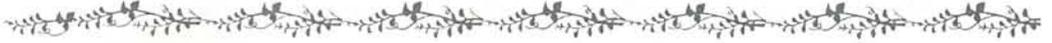
平成27年11月29日に宮崎レイクサイドゴルフクラブにて同門会ゴルフ大会が開催されました。長男が年明けに大学受験という私には都城に遅くまで残って練習ができるという好都合の環境で週2~3回は練習しておりました。前日の忘年会も1次会で切り上げて小林まで帰宅し翌朝早朝爽快な気分自宅を出発という絶好の体調でコンペにのぞみました。天候は決して良い状況ではありませんでしたが一緒にラウンドしていただいた先輩方と楽しくプレイできました。スコアはout48, in46の94と普段とかわりなく師匠のM先生にはそのスコアで優勝ですかと怒られそうな結果でしたがダブルペリアのおかげで幸運にも同門会ゴルフ大会での2回目の優勝となりました。

ゴルフ師匠と距離が離れてなかなかスウィングをみてもらうなどの練習ができない状況ですが現在も仕事のストレス（昨年からはY先生も当院勤務となり常勤3人ですので仕事のストレスはかなり軽減しております）発散のためにも暇をみつけては練習していきたいと考えております。

今回は参加者が12名と例年より少ないと感じる大会でしたが次回は教授をはじめ新同門会会長、私のゴルフ師匠など多彩なメンバーにご参加いただきより盛り上がる会になればと願っております。

最後にひどい二日酔いで幹事をされたK先生お疲れ様でした。





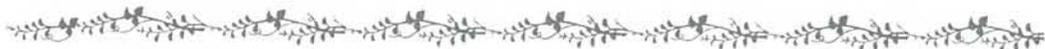
第18回同門会テニス大会報告

三財病院 松本英裕

2015年度の大会は例年通り11月23日（勤労感謝の日）に開催されました。天気には恵まれ、8名（同門の先生7名に尾田朋樹先生の奥様）の参加者で行われました。今年の会場は、前年優勝者の渡部正一先生に一任し、シーガイアテニスコートを2面借りて熱戦が繰り広げられました。最近は毎年、ラストの試合で優勝者が決定するという展開が続いており、本年度もまさしくラストの試合での決定でし

た。尾田先生と私で競り合い、最後まで気が抜けない試合展開でした。私が優勝させて頂きましたが、今回の優勝に匹敵する大活躍者は尾田先生の奥様です。私たちよりボールを拾いまくり、決めまくってました。来年度こそは多くの参加者で盛り上がりたいものです。毎年11月23日の開催で決定しており、初心者の方も是非参加して下さい。





第11回同門会麻雀大会

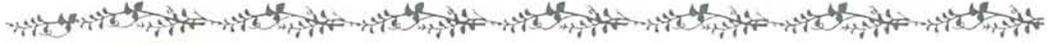
かみぞの整形外科 神 菌 豊

数年前に医師会のしののめ麻雀大会で某整形外科先生に四暗刻単騎を振り込んでから私の麻雀は（私生活も含めて）しばらく低迷しておりましたが、その日はツキがありました。面子は弓削先生、平川jr. 先生、もう一人は河野先生だったか？還暦も近く記憶力が乏しくなって参りました。これまでのこの大会は通常2-3卓で優勝を争ってきたのですが、今大会は参加が少なく、初回以来、初のわず

か1卓での勝負になってしまいました。しかも前回優勝の先生は強豪なのですが、幹事のため、卓につけずじまいでした。

戦いは2半チャン、ツキがあった私が優勝したわけですが、これが初優勝でした。

少し寂しい気もしますが、これを機に私の麻雀も上向きになり、次回こそはもっと大勢の中で優勝したいと思っています。先生方の参加をお願いいたします。



第11回帖佐杯ゴルフ大会

江夏整形外科クリニック 江夏 剛

平成27年4月5日に行われ、ダブルペリアの恩恵を受け優勝させていただきました。一般的に言われているゴルフ人口の減少の類にもれず、私たちの教室でも新しく入局された先生がゴルフをされない方も多いように思われます。

最近の教室主催のゴルフコンペの参加者もお忙しいこともあるかとは思いますが、年々減少傾向のような気がします。

教室を離れた私にとっては教室の先生との

親睦をはかれる機会も少ないので、教室主催の会は極力参加できるように努めております。私たちが入局したころも諸先輩方とまわらせていただくのは非常に緊張しましたが、普段では話せない先生方とお話しできて今となってはいい経験でした。若い方からお年を取られた方、男女の垣根を超えてできる数少ないスポーツのゴルフを趣味にできて本当によかったと思います。今後もできる限り続けていければ・・・と思っている今日この頃です。





野球検診報告2015

長澤 誠 石田康行
大田智美 帖佐悦男

2015年も今後の宮崎県の野球界を担う少年少女571名が受診してくれました。

一次検診として診察・小頭部エコー検査を行い、可動域測定と、日常の練習に役立つストレッチ・コンディショニング指導を行いました。要二次検診と診断された120名が同日二次検診を受診しました。そのうち14名に小頭離断性骨軟骨炎(小頭OCD)が見つかりました。14名は全員初期の状態でした。早期発見に検診は有効でした。

野球検診の目的は予後の悪い小頭OCDを早期に発見することです。小頭OCDは初期には症状が無いことが多いため病院を受診することは少なく、症状が出現し病院を受診した際には進行期・末期になっており手術が必要になることが多くなってしまいます。

保存加療で治癒が見込める初期に発見するために検診をすることが非常に重要になります。

宮崎県少年野球検診は2010年より現行の方

法で行い、今回で6年目となりました。待合室など院内のありとあらゆるモニターから選手・保護者・指導者に野球肘の病態や治療法、予防法などを理解してもらうための動画(石田先生の肉声入り)をエンドレスに放送しています。また、初年度から3倍近くなった人数を短時間で効率よく検診するため、大田先生はじめ整形事務の皆さんの工夫が随所に散りばめられています。さらに改良を加え質の高い検診を行っていきたいと考えています。

これだけの人数を一日で二次検診まで行っているところは全国でも少なく、同門・医局の先生方や、大学はじめ県内各病院のリハの先生方、健康スポーツナース、放射線技師、学生、整形事務の皆さんといった、たくさんの方々のおかげと本当に感謝しております。検診にはマンパワーが必要です。一緒に盛り上げてくださる先生方お待ちしております。よろしく願いいたします。



2015年 医局旅行 in 屋久島

宮崎大学医学部整形外科学教室 池尻 洋史

4年前の2011年、屋久島への医局旅行を計画しておりましたが、台風の影響で残念ながら中止となってしまいました。しかし、是非とも屋久島へ行きたかった私はリベンジを果たすべく旅行の幹事に立候補し、念願の屋久島へ行って参りました。

大型連休のシルバーウィーク（9月20日～22日）に2泊3日の日程で、参加者は帖佐教授を筆頭に、医局員13名・研修医1名・病棟看護師6名・家族（猪俣・比嘉・今里）9名の総勢29名でした。

初日は、大学から大型バスに乘車し、午前9時に出発。途中、都城で猪俣ファミリーも合流し、鹿児島港へ向かいました。行きの中では大量に購入したアルコールも入り、ちょっとした宴会の様相を呈しておりました。シルバーウィーク中であったため、高速道路は渋滞しており、途中のトイレ休憩もそこそこに船の出発時間ギリギリで港へ到着しました。

鹿児島港から高速船トッピーに乗船し、屋久島まで約2時間。トッピーは水中翼船の高速船で、走行中はほとんど揺れることもなく、昼食を摂った後は皆さん寝入ってしまい、バスの中とは打って変わって静まり返っており

ました。

屋久島の宮之浦港に到着後は、貸し切りバスに乘車し、『屋久杉自然館』へ向かいました。ここでは、屋久島の産業や縄文杉(推定樹齢2,170年,周囲長16.4m)のレプリカなどが展示してあったのですが、それよりも、ガイドのお姉さんの胸が驚くほど大きく、男性陣だけでなく女性陣の視線も釘付けでありました。その後、宿泊する『屋久島いわさきホテル』に到着。各自ゆっくりと温泉を堪能し、夜の宴会となりましたが、翌日は登山が控えており、朝も早いあまり深酒することなく、初日の宴会は早々に切り上げました。

2日目は、今回の医局旅行のメインである“縄文杉トレッキングツアー”に参加いたしました。小さな子供連れの猪俣・比嘉・今里ファミリーは別行動を取り、レンタカーを借りて島内観光を楽しんだ様子でした。

“縄文杉トレッキングツアー”の参加者は、まだ夜明け前の4時半に貸し切りバスに乘車しホテルを出発。約1時間かけて荒川登山口に到着しました。ホテルに用意して頂いた朝食を摂り、トイレなどを済ませた後、周囲が薄明りになる6時頃に登山口を出発しました。屋久島は「1ヶ月に35日雨が降る」と言われ



るほど雨の多い島であるため雨天も覚悟しておりましたが、皆さんの日頃の行いが良かったためか奇跡的に1滴の雨も降らず最高の天候でした。

目的地の縄文杉までは往復約22km。約10時間の行程であり、未経験の私にとっては多少の不安も入り交じりながらの出発でした。登山口から大株歩道口の山小屋までの約8kmの道程はトロッコ道をひたすら歩きました。途中溪谷にかかる栈橋を渡り、小杉谷集落跡などで小休憩を取りつつ約3時間の行程を楽しみながら散策しました。

ここまではトロッコ道で凸凹もなく、傾斜も緩やかで歩きやすかったのですが、大株歩道口から縄文杉までは段差のある林道が続

き、手すりや岩場を手掛かりにしなければ登れない様な険しい山道に変わりました。途中、ウィルソン株などの名所を観光しながら昼食休憩を摂り、片道約5時間で到着しました。肝心の縄文杉ですが、少し離れた展望台から眺めることしか出来ず、やっとここまで来たのに触れることも出来ないのかと残念に思いましたが、世界自然遺産登録以降入山者が年間10万人を超えるとのことで、縄文杉保護の観点から考えれば致し方ないと納得しました。10分程記念撮影などの観光を済ませると、すぐに帰路への出発です。皆さん疲れてはいましたが、途中、溪谷の流水に足を浸して疲れを癒し、帰りは下りだった為か思っていたよりは楽な道程でした。しかし、日頃の

運動不足のためか他のグループに次々と追い越されていき、登山口に到着する頃には薄暗くなっていました。季節的に一番人気のシーズンで、その上シルバーウィーク中ということもあり、今年一番の入山者数であったそうです。その為、休憩場所は多くの人でごった返し、トイレには長い行列ができていました。

このトレッキングツアーでのハプニングは、帖佐教授が足を滑らせて2回も転倒したことです。傾斜の強い山道でしたのでひとつ間違えれば転落するところでした……。山での遭難はこういう機序で起こるのだらうと思いました。また、私事ですが往路で栈橋を渡る際、防水カメラを溪谷に落とし、見失ってしまいました。復路でガイドさんに見つけて頂いたのですが、肝心の縄文杉をカメラに収める事が出来ず、破損していたため防水機能を失ってしまい残念でした。そして、濱田先生は日頃の運動不足から途中離脱が危ぶまれましたが、なんとか最後まで一緒に参加することが出来ました。ホテルに戻ると、風呂に入る余裕もなく部屋で倒れ込んでしまった様ですが、皆さんの説得でなんとか夕食会場に這って来られておりました。

初日は宴会場でしたが、2日目はホテルのレストランでの夕食でした。トレッキングツ

アーの達成感や思い出話で、初日よりもお酒が進み皆さん大いに盛り上がっていました。夕食後は、追加のお酒とつまみを現地調達し、部屋飲みで再び盛り上がりました。

最終日は、見晴らしの良いホテルの朝食会場で食事を済ませ、9時半にホテルを出発しました。そして、ホテルから20分程度の場所にある「大川の滝」と「千尋の滝」を観光しました。「大川の滝」は予想以上の壮大な滝で、滝壺近くまで行くことができ、皆さん感動して沢山の記念写真を撮影していました。「千尋の滝」も遠くからの眺めではありませんでしたが、かなり大きな滝でした。その後、土産屋さんで昼食を頂き、ショッピングを楽しみ、帰路につきました。帰りの船やバスでは、一気に疲れが出た様で皆さん爆睡しておりました。

今回の医局旅行は、肉体的には大変でしたが、皆でひとつの目標を目指して達成することによる充実感を得ることが出来、参加された皆さんの良い思い出になったのではないかと感じております。色々と障壁があるとは思いますが、個人的には医局旅行で富士山への登山を狙っております。計画が実現した際には、皆さん奮って御参加下さいます様お願い申し上げます。

1年を振り返って



河原先生送別会 H27.3



第88回日本整形外科学会学術集会への参加 H27.5



矢野先生送別会 H27.6



ひむか市民公開講座 H27.7



大学院セミナーの様子 H27.7



大学院セミナー講師の齋藤啄先生と H27.7



AO Trauma Seminar H27.10



高次脳機能障害講演会 H27.10



高次脳機能障害講演会2 H27.10



チューリッヒ大学（スイス）ドーラ先生 来日 H27.11



同門会総会 H27.11





開院の御挨拶

かわはら整形外科リハビリテーションクリニック 河原勝博

平成27年3月末に医局を退局し、平成27年6月に宮崎市清武町加納の戸田整形外科跡を改装拡張して「かわはら整形外科リハビリテーションクリニック」を開業しました。

平成8年に宮崎医科大学整形外科に入局後、関連病院で臨床経験を積ませて頂き、その後大学ではスポーツ・上肢グループに所属し様々な症例を経験させて頂きました。また平成18年から大学院に入学し動作分析で学位を取得し、平成22年からは医学教育改革推進センターにも所属し学生教育に携わることが出来ました。医師として臨床、研究、教育を万遍なく経験する事が出来幸せな医局員時代を送ることができました。医師として患者とより近い距離で仕事がしたい希望が以前からありましたので最終的に開業を選択し今日に至っております。これまで田島名誉教授を始め帖佐教授、元医学教育改革推進センター林教授、同門の諸先輩方、医局員の皆様、大学の事務の方々には大変お世話になりました。この場を借りて御礼を申し上げます。

当院のキャッチフレーズは「安・近・短」です。どこかで聞いた事あるフレーズですが、安は安心・安全、近は地元根差した親近感のある医療、短は治療により早期に回復し、また

電子カルテやクラークの配置により効率的に診療を行い待ち時間が少ないように心掛けています。処方薬も戸田先生の時代から引き続き院内処方を行っております。また、勤務時代からリハビリテーションの必要性を痛感しておりましたので、改装時にリハ室を拡張し運動器を中心とした理学療法を行っています。学生や働いている方がリハビリしやすいように毎週水曜日は20時まで診療としました。理学療法士は当初2名でスタートしましたが4月からは4名体制にしてさらにリハビリが行いやすいようにしました。

原稿の書いている28年4月で開業して10ヶ月経過しました。勤務医時代、開業はいいものだと思っていましたが、実際してみるとかなり違っていました。医者の仕事は半分程度でその他は労務、財務、雑用などすべて自分でしなければなりません。これがすべて思うように運びません。幸い妻が事務長兼看護師としてサポートしてもらっていますので助かっております。また、1人で診療していると不安感がいつもあります。緊急症例、日々の診療で分からないことなどは医局の先輩や後輩の先生方に助けてもらって何とかやっております。また、加納地区や清武町内の先生

とも連携を取りながら患者さんを診ております。

生活ではこれまで月の半分近くは当直や学会等で家を空けていましたが今では毎日家に帰ります。妻が会計を担当していますので私より家に帰るのが遅くなることもあり、その後家事をしています。その姿をみて私も家事を手伝うようになりました。元々早寝早起きの私は平日毎朝6時前に起きて朝食とお弁当作りをしています。いつもワイルドなお弁当に中学生の次男には好評？です。これまで趣味程度に週末料理はしていましたが毎日になるとかなり大変で主婦の大変さが身にしみました。また、医院のある加納地区は私の大好きなラーメンの激戦区です。大学入学時か

ら何度も通った風来軒の本店を始め、この1年でも2件がオープンしています。開院してからの外食は加納地区で食べるが多くなり、おのずとラーメンの比率が上がりましたので体重がちょっぴり？増えているのが現在の悩みです。

開業していろいろありますが、日々の診療で患者さんが日々良くなる姿を見ることやうれしい言葉を直接言ってもらえることが開業医の良いところです。今後もこの喜びを毎日感じられるように日々精進して行きたいと思っています。

最後になりますが、同門の先生方には今後もお世話になることが多くなると思います。宜しくお願いいたします。



賛助会員入会ごあいさつ



池井病院

田原 徳 人

初めまして。昨年度より宮崎大学医学部整形外科学教室同門会に賛助会員として入会させて頂きました医療法人養気会池井病院 整形外科の田原 徳人です。

出身大学は富山大学（旧富山医科薬科大学）です。平成14年卒で、卒業と同時に同大学整形外科医局に入局し、大学病院を含め富山県内の病院を回り経験を積んで参りました。実家は小林市にあり幼少～高校まで小林市で育ちました。平成22年より地元小林市に戻って来ることとなり、当初は同じ市内の押領司病院で勤務させて頂いておりました。昨年度より池井病院で整形外科診療にあたらせて頂いております。

大学時代までは陸上部に所属していました。その後は運動から遠ざかっていましたが、40代になり再度なまった体を立て直そうと昨年度から宮崎マスターズ陸上競技連盟に選手登録し、記録を目指し短距離走を走っています。

高齢化がより一層進んでいる西諸地域で勤務していますが、日々の診療も高齢の方々を中心となっています。これからの地域医療のために何か力になればと思い、来年29年度に立ち上がる西諸地域の包括ケアシステムに関し、現在 西諸地域在宅医療介護連携推進協議会の専門部会に参加し部会長を務めさせて頂いております。また、当院の診療体制としては手術加療等限界もあり、これまでも同門会の先生方には様々な面で紹介の受け入れを頂き感謝申し上げます。恐縮ながらこれからも御協力を頂くことが多いと存じますが、こちらからの紹介で手術加療等頂いた患者様はもちろん、周辺地域の患者様で術後亜急性期あるいは保存的加療でも退院までの入院加療が必要な方がいらっしゃれば、御連絡頂ければ可能な限り対応致します。

若輩者でございますが、地域医療・宮崎県の医療に役立てればと思い日々診療を行っています。同門会の皆様方これからも御指導・御鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。

新入会員自己紹介(正会員)



名 前：川 越 秀 一

生年月日：1988年6月13日

出身高校：志學館高等部

出身大学：鹿児島大学

初めまして。

2年間、県立宮崎病院で研修しておりました。野球、ウィンドサーフィンの経験ありです。まだまだ知らないことだらけですが、一早く先生方、スタッフの方にお力添えできるよう精進して参りますので、よろしくお願い致します。



名 前：北 島 潤 弥

生年月日：1981年3月17日

出身高校：宮崎西高等学校

出身大学：宮崎大学

本年度よりお世話になることとなりました。

県立日南病院で2年間研修をし、整形外科に興味を持つようになり、入局させて頂きました。未熟者ではありますが、精一杯頑張っていきますので、ご指導の程宜しくお願い致します。



名 前：吉 留 綾

生年月日：1989年3月20日

出身高校：志學館 高等部

出身大学：宮崎大学

新入局員の吉留と申します。

学生時代はラグビー部でマネージャーをしており、整形外科の先生方には大変お世話になりました。その宮崎で、整形外科医としての第一歩を踏み出せたことを、とても嬉しく思っています。今は色々な分野に興味を持って幅広く学んでいきたいと思っていますので、今後ともご指導宜しくお願い致します。

同門会総会 議事報告

平成28年度総会：平成27年11月28日(土) 16:30~17:30 宮崎観光ホテル

1. 平成27年度(H26.10/1~H27.9/30)事業報告

(1) 会員状況(平成27年9月24日現在)

正会員：165名、賛助会員：47名

(2) 入会・退会

正会員入会：黒木 洋美 先生(平成27年 4月 1日付)

戸田 雅 先生(平成27年 4月 1日付)

三股奈津子 先生(平成27年 4月 1日付)

賛助会員入会：田原 徳人 先生(平成27年 9月24日付)

正会員退会：小牧 ゆか 先生(平成27年 9月30日付)

結婚：森田 雄大 先生(平成27年 5月16日)

開業：山本 恵太郎 先生(平成27年 2月23日)

河原 勝博 先生(平成27年 6月 4日)

(3) 事業報告

H26年10月30日(木)：第1回役員会(年度始め)「ホテルメリージュ」

11月10日(月)：第2回役員会「ホテルメリージュ」

11月23日(日)：第17回同門会テニス大会(優勝：渡部正一 先生)

11月29日(土)：第3回役員会・総会・講演会

：第10回同門会マージャン大会(優勝：松山順太郎 先生)

12月 8日(日)：第23回同門会ゴルフ大会(優勝：江夏剛 先生)

H26年12月 同門会名簿・会則発行

H27年 4月 4日(土)：第4回役員会、新入生歓迎会「宮崎観光ホテル」

7月末：第26号同門会誌発行

(4) 教室支援(留学、学会等)

日吉 優 先生

(5) 会計報告

平成26年度決算は監査報告があり総会にて承認された。

2. 平成28年度 (H27.10/1～H28.9/30) 事業計画・予算

- (1) 平成28年度予算案は総会 (H27.11/28) にて承認された。
- (2) 役員会開催 第1回役員会 (平成27年10月15日、ホテルメリージュ)
第2回役員会 (平成27年11月28日、宮崎観光ホテル)
第3回役員会 (平成28年 4月16日、宮崎観光ホテル)
第4回役員会 (平成28年 9月頃予定、ホテルメリージュ)
- (3) 講演会:H27.11/28
講演Ⅰ『整形外科領域における体外衝撃波治療について』
かわはら整形外科リハビリテーションクリニック 院長 河原 勝博 先生
講演Ⅱ『臨床筋電図検査による整形外科疾患の電気診断』
押川整形外科ペインクリニック 副院長 中村 誠司 先生
- (4) 奨励賞 (第10回) : H27.11.28受賞
中村 嘉宏 先生『救急医療への貢献と積極的な学会活動』

*授賞式および講演は平成28年4月16日の新入医局員歓迎会で実施
- (5) 親睦行事:平成27年11月23日(祝):第18回同門会テニス大会
平成27年11月28日(土):第11回同門会マージャン大会
平成27年11月29日(日):第24回同門会ゴルフ大会
- (6) 同門会会則名簿発行:平成27年12月
- (7) 同門会誌第27号発行 (平成28年5月)
*テーマ「木村千仞先生との思い出」
- (8) 新入医局員歓迎会 (第3回役員会) : H28.4/16 (宮崎観光ホテル)
- (9) 教室支援 (留学・学会・研究助成など) : 日整会野球大会、日整会サッカー大会
研究助成

3. その他

平成28年度 (H27.10/1～H28.9/30)

同門会総会予定: H28.11.26 (土)

教室同門の研究業績

◆著 書

- 1) Hip Joint Pain Guide Book イラストで見る股関節疾患
帖佐悦男
第一三共株式会社, 2014, 2

- 2) 股関節の手術的脱臼法 Advanced Surgical Skills
帖佐悦男
メディカ出版, 2014, 4

◆原 著

- 1) Two siblings with neuropathic scoliosis caused by Chiari malformation type I with syringomyelia.
Kuroki H, Inomata N, Hamanaka H, Higa K, Chosa E, Tajima N.
Journal of orthopaedic science, 20(3) : p579-583, 2014, 1
- 2) Management of atlantoaxial instability - surgical strategy based on biomechanical viewpoints -
Kuroki Hiroshi
JSM Neurosurgery and Spine, 2(1) : p1008, 2014, 1
- 3) 注射針にともなう内側前腕皮神経損傷の1例 -解剖学的検討-
高見博昭, 三浦真弘, 麻生邦一
臨床解剖研究会記録, 14 : p38-39, 2014, 2
- 4) ロコモ対策：学童期からの取り組み-なぜ子供の頃からロコモティブシンドローム（ロコモ）予防が必要か-
帖佐悦男
Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 51(2) : p113-119, 2014, 2
- 5) 膝外側円板状半月 形態および断裂形態と術式の関連性、年代別発症機転の特徴
山口奈美, 山本恵太郎, 石田康行, 田島卓也, 帖佐悦男
JOSKAS, 39(1) : p234-235, 2014, 3
- 6) 肩関節鏡術後のクライオセラピーに用いた冷却具固定用バンドの有用性
内田倫子, 奥村まり子, 藤浦まなみ, 石田康行, 帖佐悦男
南九州看護研究誌, 12(1) : p1-10, 2014, 3
- 7) ハムストリング腱を用いた2重束ACL再建術後の膝固定期間の相違と骨孔拡大の関係
田島卓也, 石田康行, 山口奈美, 帖佐悦男, 山本恵太郎
JOSKAS, 39(1) : p170-171, 2014, 3

- 8) 宮崎県における関節リウマチに対する生物学的製剤の使用実態調査～第2報～
梅北邦彦, 濱田浩朗, 岡山昭彦, 日高利彦, 甲斐睦章, 上田章, 税所幸一郎,
村井幸一, 大平卓, 松山幹太郎, 坂田師通, 佐々木隆, 岡本将幸, 安藤徹,
秋元正樹, 首藤敏秀, 黒沢治, 田中弦一, 松本英裕, 吉永一春, 谷口博信,
福田健二, 川野啓一郎, 木屋博昭, 市原正彬, 谷島満, 佐保修二, 宮本義明,
帖佐悦男, 宮崎県関節リウマチ生物学的製剤研究会
宮崎県医師会医学会誌, 38 : p26-33, 2014, 3
- 9) 大腿骨転子部・転子下骨折術後骨頭壊死をきたした4例
小島岳史, 柏木輝行, 帖佐悦男
骨折, 36(2) : p430-435, 2014, 3
- 10) 前十字靭帯不全膝における半月縫合術の成績
森田雄大, 河原勝博, 田島卓也, 山口奈美, 矢野浩明, 石田康行, 村上恵美,
大田智美, 中村志保子, 大塚記史, 帖佐悦男
整形外科と災害外科, 63(2) : p260-262, 2014, 3
- 11) Pseudoaneurysm as a complication of shoulder arthroscopy
Ishida Y*, Chosa E, Taniguchi N
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc, 23(5) : p1549-1551, 2014, 3
- 12) ラグビー選手における頸椎退行変性の予防－頸部体幹コアトレーニング導入の効果－
田島卓也, 帖佐悦男, 河原勝博, 山口奈美, 中村嘉宏
Japanese Journal of ORTHOPAEDIC SPORTS MEDICINE, 34(1) : p80-84, 2014, 3
- 13) ロコモ予防のために学童期からできること 子どもからのロコモ予防の重要性 運動器検診を通して
山口奈美, 山本恵太郎, 河原勝博, 石田康行, 田島卓也, 帖佐悦男
日本臨床スポーツ医学会誌, 22(2) : p250-253, 2014, 4
- 14) 子どもからのロコモ予防の重要性－運動器検診を通して－
山口奈美, 山本恵太郎, 河原勝博, 石田康行, 田島卓也, 帖佐悦男
日本臨床スポーツ医学会誌, 22(2) : p250-253, 2014, 4
- 15) 発育期のスポーツ障害－整形外科系
帖佐悦男
日医雑誌, 143(2) : p279-282, 2014, 5

- 16) Surface-holding repair: an original arthroscopic rotator cuff repair technique.
Taniguchi N, Suenaga N, Oizumi N, Miyoshi N, Araki N, Chosa E.
Journal of Shoulder and Elbow Surgery, 23(5) : p620-627, 2014, 5
- 17) 少年野球検診におけるフィードバック方法の改良 過去の反省から
石田康行, 帖佐悦男, 河原勝博, 長澤誠
日本整形外科学スポーツ医学会雑誌, 34(2) : p211-214, 2014, 5
- 18) 後上方型腱板断裂に対する鏡視下手術
石田康行, 帖佐悦男
Monthly Book Orthopaedics, 27(5) : p21-27, 2014, 5
- 19) Load-transfer analysis after insertion of cementless anatomical femoral stem using pre- and post-operative CT images based patient-specific finite element analysis.
Yamako G, Chosa E, Zhao X, Totoribe K, Watanabe S, Sakamoto T, Nakane N.
Medical Engineering & Physics, 36(6) : p694-700, 2014, 6
- 20) Os acromialeを伴った腱板断裂に対する鏡視下腱板修復, Os acromiale切除術
石田康行, 帖佐悦男, 谷口昇, 田島卓也, 山口奈美, 大田智美, 中村志保子
JOSKAS, 39(3) : p564-568, 2014, 6
- 21) Protective Effect of the HLA-DRB1*13:02 Allele in Japanese Rheumtoid Arthritis Patients
Oka S, Furukawa H, Kawasaki A, Shimada K, Sugii S, Hashimoto A,
Komiya A, Fukui N, Ito S, Nakamura T, Saisho K, Katayama M,
Tsunoda S, Sano H, Migita K, Suda A, Nagaoka S, Tsuchiya N, Tohma S.
PLOS ONE, 9(6), 2014, 6
- 22) 春シーズンに開催されたラグビー競技会で発生した熱中症の2例
山口洋一朗, 山口奈美, 田島卓也, 帖佐悦男
九州・山口スポーツ医・科学研究会誌, 26 : p100-102, 2014, 7
- 23) 足底腱膜炎
河原勝博, 帖佐悦男
臨床スポーツ医学, 31(7) : p623-627, 2014, 7

- 24) Venous thromboembolism after total joint arthroplasty: results from a Japanese multicenter cohort study
Kiyoshi Migita, Seiji Bito, Mashio Nakamura, Shigeki Miyata, Masanobu Saito, Hiroshi Kakizaki, Yuichiro Nakayama, Tomohiro Matsushita, Itaru Furuichi, Yoshihiro Sasazaki, Takaaki Tanaka, Mamoru Yoshida, Hironori Kaneko, Isao Abe, Takatomo Mine, Kazuhiko Ihara, Shigeyuki Kuratsu, Koichiro Saisho, Hisaaki Miyahara, Tateki Segata, Yasuaki Nakagawa, Masataka Kamei, Takafumi Torigoshi and Satoru Motokawa
Arthritis Research & Therapy, 16(4), 2014, 7
- 25) 当院における人工股関節置換術の検討
柏木輝行, 矢野良英, 花堂祥治, 小島岳史, 帖佐悦男
宮崎県医師会医学雑誌, 38(2) : p69-72, 2014, 9
- 26) ランニング障害とその対策 : 股関節
田島卓也, 帖佐悦男
臨床スポーツ医学, 31(9) : p884-889, 2014, 9
- 27) 動作解析装置を用いた運動機能診断
河原勝博, 帖佐悦男
関節外科, 33(10) : p14-19, 2014, 9
- 28) Bone marrow stimulation at the footprint of arthroscopic surface-holding repair advances cuff repair integrity.
Taniguchi N, Suenaga N, Oizumi N, Miyoshi N, Yamaguchi H, Inoue K, Chosa E.
Journal of Shoulder and Elbow Surgery, 24(6) : p860-866, 2014, 9
- 29) 地域密着の介護予防支援活動の戦略 —ロコモコール(厚労省班研究)を中心に—
帖佐悦男, 中村耕三, 藤野圭司, 安村誠司, 高岸憲二, 遠藤直人, 石田健司, 石橋英明, 千田益生, 島田洋一, 阿久根徹
日本整形外科学会雑誌, 88(10) : p743-749, 2014, 10
- 30) Quadrilateral spaceへの骨棘が原因と考えられた肩甲骨体部骨折後遺残痛の一例
大塚記史, 石田康行, 矢野浩明, 谷口昇, 大田智美, 中村志保子, 帖佐悦男
肩関節, 38(2) : p496-498, 2014, 10

- 31) 在宅ロコモ対策支援（ロコモコール）の意義と効果
帖佐悦男, 中村耕三, 藤野圭司, 安村誠司, 高岸憲二, 石田健司, 遠藤直人,
石橋英明, 千田益生, 島田洋一, 阿久根徹
整形・災害外科, 57(11) : p1433-1439, 2014, 10
- 32) 【少年野球における肘障害の予防】 野球肘障害を理解する 上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の治療
保存療法、手術療法
石田康行、帖佐悦男
関節外科, 33(11) : p1159-1163, 2014, 10
- 33) 【少年野球における肘障害の予防】 予防活動の実際 宮崎県での取り組み 宮崎県少年野球検
診 反省からの改良
長澤誠、石田康行、帖佐悦男
関節外科, 33(11) : p1206-1211, 2014, 10
- 34) 骨盤・股関節・大腿部のスポーツ障害
帖佐悦男
Bone Joint Nerve, 4(4) : p633-640, 2014, 10
- 35) カヤック動作におけるパドリング時の骨盤動作解析
宮崎茂明, 帖佐悦男, 川末紀功仁, 鳥取部光司, 石田康行, 河原勝博
臨床バイオメカニクス, 35 : p297-302, 2014, 10
- 36) 腰痛・膝痛のリハビリテーション
帖佐悦男
臨床と研究, 91(11) : p1460-1464, 2014, 11
- 37) 肩関節
石田康行, 宮崎茂明, 帖佐悦男
Monthly Book Medical Rehabilitation, 176 : p87-95, 2014, 11
- 38) 運動療法, 物理療法, 作業療法
鳥取部光司, 帖佐悦男, 宮崎茂明, 中武潤
Monthly Book Medical Rehabilitation, 176 : p13-17, 2014, 11

- 39) 【運動器疾患リハビリテーション実践マニュアル】 リハビリテーション実践 部位別 肩関節
石田康行、宮崎茂明、帖佐悦男
Monthly Book Medical Rehabilitation, 176 : p87-95, 2014, 11
- 40) 上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の治療 —保存療法, 手術療法—
石田康行, 帖佐悦男
関節外科, 33(11) : p39-43, 2014, 11
- 41) 宮崎県での取り組み —宮崎県少年野球検診 反省からの改良—
長澤誠, 石田康行, 帖佐悦男
関節外科, 33(11) : p86-91, 2014, 11
- 42) Comprehensive Safety Management and Assessment at Rugby Football Competitions.
Tajima T, Chosa E, Kawahara K, Nakamura Y, Yoshikawa D, Yamaguchi N,
Kashiwagi T.
International Journal of sports medicine, 35 : p1012-1016, 2014, 12
- 43) In-vitro biomechanical evaluation of stress shielding and initial stability of a low-modulus hip stem made of β type Ti-33.6Nb-4Sn alloy.
Yamako G, Chosa E, Totoribe K, Hanada S, Masahashi N, Yamada N, Itoi E.
Medical Engineering & Physics, 36(12) : p1665-1671, 2014, 12
- 44) 検診で発見された上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の特徴
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 山口奈美, 大田智美, 中村志保子
日本肘関節学会雑誌, 21(2) : p177-180, 2014, 12
- 45) Prospective Comparisons of Femoral Tunnel Enlargement With 3 Different Postoperative Immobilization Periods After Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction With Hamstring Grafts.
Tajima T, Chosa E, Kawahara K, Yamaguchi N.
Arthroscopy, 31(4) : p651-658, 2014, 12

◆ 総 説

- 1) 第8回 ロコモティブシンドロームー地域への働きかけ
帖佐悦男
整形外科, 65(1) : p69-73, 2014, 1

- 2) Commentary on special issue -minimally invasive spine surgery
Kuroki Hiroshi
Journal of Spine, 3(1), 2014, 1

- 3) 帯状疱疹の運動麻痺について
濱中秀昭, 帖佐悦男
日州医事, (774) : p82-83, 2014, 2

- 4) コンタクトスポーツにおける外傷・障害の画像診断
田島卓也, 帖佐悦男
関節外科, 33(3) : p26-33, 2014, 3

- 5) 総論
帖佐悦男
関節外科, 33(4) : p6-9, 2014, 4

- 6) 【ブラッシュアップ! 関節鏡視下手術テクニック】 上肢 後上方型腱板断裂に対する鏡視下手術
石田康行, 帖佐悦男
Monthly Book Orthopaedics, 27(5) : p21-27, 2014, 5

- 7) 今、なぜロコモティブシンドローム (ロコモ) なのか?
帖佐悦男
日州医事, (777) : p60-61, 2014, 5

- 8) 変形性膝関節症の早期発見・治療とロコモティブシンドロームの予防
帖佐悦男
変形性膝関節症の運動療法ガイド 保存的治療から術後リハまで, p212-213,
2014, 5

- 9) 基本の「き」から学ぼう 患者さんに話せるスポーツ障害 第9回腰椎椎間板ヘルニア
濱中秀昭, 帖佐悦男
整形外科看護, 19(5) : p97-99, 2014, 5

- 10) ロコモ検診と予防—地域での取り組み—
帖佐悦男
Medical Check-up and Prevention of Locomotive Syndrome -Integrated Approach in the Local Community, 10(3) : p49-54, 2014, 6
- 11) 地方におけるロコモ啓発活動
帖佐悦男
Bone Joint Nerve, 4(3) : p121-126, 2014, 7
- 12) 骨の形成・機能保持に関与する新規遺伝子の機能解析
関本朝久, 帖佐悦男, 荒木正健, 山村研一
公益財団法人中富健康科学振興財団 第25回研究助成業績集, 25 : p1-6, 2014, 9
- 13) 止血法
帖佐悦男
健康教室, 65(11) : p13-15, 2014, 9
- 14) Commentary on syringomyelia secondary to cervical spondylosis: case report and review of literature
Kuroki Hiroshi
Journal of Neurosciences in Rural Practice, 5(supp 1), 2014, 11
- 15) 基本の「き」から学ぼう 患者さんに話せるスポーツ障害 第15回 足底腱膜炎
河原勝博, 帖佐悦男
整形外科看護, 19(11) : p75-77, 2014, 11
- 16) 股関節インピンジメント (FAI) を考える
遠藤直人, 帖佐悦男, 杉山肇
Ortho Community, 52, 2014, 12
- 17) 学会を聞く 第26回日本運動器科学会
帖佐悦男
整形外科, 65(13) : p1406-1408, 2014, 12

18) 成長期のスポーツ障害予防（全国規模の少年野球検診）－「子どもに笑顔を！野球障害を防
ごう」プロジェクト－

帖佐悦男

関節外科, 33(12) : p40-44, 2014, 12

◆学会報告

- 1) 三次元歩行分析装置を用いた先天性内反足手術症例の中長期的評価
門内一郎, 柳園賜一郎, 川野彰裕, 渡邊信二, 帖佐悦男
第30回九州小児整形外科集談会, 2014, 1, 福岡
- 2) 足関節機能指数の使用経験
柳園賜一郎, 門内一郎, 川野彰裕, 渡邊信二, 帖佐悦男
第30回九州小児整形外科集談会, 2014, 1, 福岡
- 3) 少年野球検診で発見された上腕骨小頭障害の特徴
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 谷口昇, 大田智美, 中村志保子, 長澤誠
第35回九州手外科学研究会, 2014, 2, 宮崎
- 4) 検診で発見された上腕骨小頭障害の特徴
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 大田智美, 中村志保子, 長澤誠
第35回九州手外科学研究会, 2014, 2, 宮崎
- 5) 両手指DIP関節およびPIP関節に徐々に骨溶解性変化を示す症例
高見博昭, 麻生邦一, 内田和宏
第35回九州手外科学研究会, 2014, 2, 宮崎
- 6) 後期高齢者の修復不能な腱板広範囲断裂に対する小径骨頭を用いた人工骨頭置換術と腱板再建術
谷口昇, 末永直樹, 三好直樹, 大泉尚美, 石田康行, 帖佐悦男
第44回日本人工関節学会, 2014, 2, 沖縄
- 7) 少年野球検診で発見された上腕骨小頭障害の特徴
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 谷口昇, 山口奈美, 大田智美, 中村志保子,
長澤誠
第26回日本肘関節学会, 2014, 2, 東京
- 8) 子どもに笑顔を！－野球傷害を防ごう－
帖佐悦男
第26回日本肘関節学会, 2014, 2, 東京
- 9) 外脛骨障害術後に後脛骨筋脱臼を呈した一例
渡邊信二, 岡村龍, 帖佐悦男
第1回九州足の外科学研究会, 2014, 3, 福岡

- 10) スクワット動作における振動刺激が下肢筋活動に与える影響
屋嘉部愛子, 宮崎茂明, 渡辺将成, 帖佐悦男, 鳥取部光司
第36回宮崎リハビリテーション研究会, 2014, 3, 宮崎
- 11) 宮崎県の高次脳機能障害支援の現状とニーズ
永田真哉, 中武潤, 帖佐悦男, 鳥取部光司
第36回宮崎リハビリテーション研究会, 2014, 3, 宮崎
- 12) 軟口蓋挙上装置により鼻咽腔閉鎖機能不全の改善を認めた一例
木本七絵, 金岡敦, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 笠井新一郎, 永田順子
第36回宮崎リハビリテーション研究会, 2014, 3, 宮崎
- 13) 腰部減圧治療器「プロテック」について ―急性腰痛患者に対する効果の検討―
竹之下大樹, 尾崎勝博, 原田昭彦, 落合錠, 田島直也
第36回宮崎リハビリテーション研究会, 2014, 3, 宮崎
- 14) 上腕骨近位端骨折人口骨頭挿入術例におけるアプローチ ～実用性の向上を目指して～
中川聖, 仮上透, 今村奈那, 玉田有希, 安藤徹, 桐谷力
第36回宮崎リハビリテーション研究会, 2014, 3, 宮崎
- 15) 入院中のTKA・THA術後患者の経時的ストレスの変動について
上村幸, 仲程太一, 塩崎猛, 塩崎静香, 柏木輝行, 竜田庸平
第36回宮崎リハビリテーション研究会, 2014, 3, 宮崎
- 16) 院内感染を防ぐための当院での取り組み
安原一恵, 浪平辰州, 増田寛, 大塚記史
第36回宮崎リハビリテーション研究会, 2014, 3, 宮崎
- 17) 誤嚥性肺炎患者の栄養管理についての検討
谷口江美, 江藤一生, 浪平辰州
第36回宮崎リハビリテーション研究会, 2014, 3, 宮崎
- 18) 大腿骨近位部骨折術後症例の術後栄養状態に関する調査検討
尾崎純也, 那須優一, 浪平辰州, 増田寛, 大塚記史
第36回宮崎リハビリテーション研究会, 2014, 3, 宮崎

- 19) 介護予防事業における身体機能・ADLと栄養の関係について
迫田勇一郎, 満安隆之, 砂川一馬, 茂利久嗣, 圓福陽介, 蓑原勝哉,
前原孝政, 植村郁, 渡辺一徹, 野海渉, 小牧亘
第36回宮崎リハビリテーション研究会, 2014, 3, 宮崎
- 20) 我国におけるスポーツ -歴史と展望-
田島直也
第50回宮崎県スポーツ学会, 2014, 3, 宮崎
- 21) 若年性特発性関節炎(JIA)における関節エコー所見
濱田浩朗, 帖佐悦男, 税所幸一郎, 吉川教恵
第47回九州リウマチ学会, 2014, 3, 長崎
- 22) Surgical treatments for cervical myelopathy in patients with athetoid cerebral palsy
Hiroshi Kuroki, Hideaki Hamanaka, Naoki Inomata, Kiyoshi Higa, Etsuo
Chosa
5th Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Pacific
Section, 2014, 4, Vietnam
- 23) Surgical treatment for cervical myelopathy in patients with athetoid cerebral palsy
Kuroki H, Hamanaka H, Inomata N, Higa K, Chosa E
The 4th Cervical Research Society - Asia Pacific Section, 2014, 4, Vietnam
- 24) 日常診療に必要なスポーツ外傷・障害の知識
帖佐悦男
第53回多摩整形外科医会, 2014, 4, 東京
- 25) 特発性側弯症に対する装具療法の治療経過を左右する因子に関する検討
黒木浩史, 猪俣尚規, 濱中秀昭, 比嘉聖, 帖佐悦男, 田島直也
第43回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2014, 4, 京都
- 26) 関節リウマチ患者における顎骨壊死(osteonecrosis of the jaw:ON)およびビスホスホネート関
連顎骨壊死(Bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaw:BRONJ)の疫学的検討(第2報)
-NinJaデータベースより-
川上美里, 杉山隆夫, 金子敦史, 片山雅夫, 津谷寛, 税所幸一郎, 西野仁樹,
藤間重人
第58回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2014, 4, 東京

- 27) 私の肩・肘関節における手術適応
石田康行
延岡医学会・第46回宮崎県北地区整形外科医会学術講演会, 2014, 4, 宮崎
- 28) 当科における関節リウマチ頸椎病変の手術成績
濱中秀昭, 黒木浩史, 猪俣尚規, 比嘉聖, 宮元修子, 大塚記史, 帖佐悦男
第87回日本整形外科学会学術総会, 2014, 5, 兵庫
- 29) 可変型遺伝子トラップ法を用いた骨軟骨疾患に関与する新規遺伝子群のスクリーニング
関本朝久, 黒木修司, 船元太郎, 大田智美, 中村志保子, 濱田浩朗,
山村研一, 中原舞, 荒木喜美, 荒木正健, 帖佐悦男
第87回日本整形外科学会学術総会, 2014, 5, 兵庫
- 30) 保温素材を用いた手関節サポーターの使用経験
濱田浩朗, 帖佐悦男, 鳥取部光司
第51回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2014, 6, 愛知
- 31) 下腿切断者の階段昇降動作における力学的検討
鳥取部光司, 帖佐悦男, 濱田浩朗, 小牧ゆか, 坂本武郎, 河原勝博,
柳園陽一郎, 川野彰裕
第51回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2014, 6, 愛知
- 32) 不安定型胸腰椎骨折に対する経皮的後方固定術の小経験
永井琢哉, 比嘉聖, 猪俣尚規, 濱中秀昭, 黒木浩史, 帖佐悦男
第81回西日本脊椎研究会, 2014, 6, 岡山
- 33) 多発性硬化症 (MS) を合併した頸髄症に手術療法を施行した1例
濱中秀昭, 猪俣尚規, 比嘉聖, 永井琢哉, 帖佐悦男
第127回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2014, 6, 福岡
- 34) 寛骨臼球状骨折術 (SAO) 後THAの治療経験について
川野啓介, 帖佐悦男, 坂本武郎, 濱田浩朗, 池尻洋史, 中村嘉宏, 船元太郎,
岡村龍, 日吉優, 渡邊信二
第127回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2014, 6, 福岡
- 35) 豆状骨脱臼を合併した橈骨遠位端骨折の1例
小牧亘, 濱田浩朗, 矢野浩明, 永井琢哉, 帖佐悦男
第68回宮崎整形外科懇話会, 2014, 6, 宮崎

- 36) 上腕骨脱臼骨折 (3-part) に対して、プレート固定が選択された一例
谷口昇, 矢野浩明, 石田康行, 田島卓也, 山口奈美, 中村志保子, 平川雄介,
齊藤由希子, 帖佐悦男
第68回宮崎整形外科懇話会, 2014, 6, 宮崎
- 37) 骨傷を伴わない遠位橈尺関節掌側脱臼の1例
川添浩史, 深野木快士
第68回宮崎整形外科懇話会, 2014, 6, 宮崎
- 38) セメントレス楔状テーパー型システムを用いた人工骨頭置換術の短期治療成績
増田寛, 浪平辰州, 大塚記史
第68回宮崎整形外科懇話会, 2014, 6, 宮崎
- 39) 大転子骨折の診断、治療について ～「大転子骨折は保存療法、大腿骨転子部不顕性骨折は手術」との考えに一石を投じる～
三橋龍馬, 森治樹, 梅崎哲矢, 李徳哲
第68回宮崎整形外科懇話会, 2014, 6, 宮崎
- 40) 人工膝関節置換術後の大腿骨顆上骨折の治療経験
柏木輝行, 矢野良英, 花堂祥治, 福島克彦
第68回宮崎整形外科懇話会, 2014, 6, 宮崎
- 41) 当院における上腕骨近位端骨折の治療経験
大倉俊之, 松岡知己, 福田一
第68回宮崎整形外科懇話会, 2014, 6, 宮崎
- 42) 当科での上腕骨近位端骨折の手術治療
森田雄大, 栗原典近, 市原久史, 公文崇詞, 河野雅充
第68回宮崎整形外科懇話会, 2014, 6, 宮崎
- 43) 当院での上腕骨近位端骨折の治療成績の検討 —手術, 早期運動保存療法を比較—
李徳哲, 森治樹, 三橋龍馬, 梅崎哲矢
第68回宮崎整形外科懇話会, 2014, 6, 宮崎
- 44) 当院における下腿開放骨折の治療戦力
日吉優, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 池尻洋史, 中村嘉宏, 船元太郎,
岡村龍, 川野啓介
第18回日本救急医学会九州地方会, 2014, 6, 福岡

- 45) 当院における下腿開放骨折の治療
日吉優, 帖佐悦男, 池尻洋史, 中村嘉宏, 川野啓介
第40回日本骨折治療学会, 2014, 6, 熊本
- 46) 大腿骨近位部骨折に大腿骨遠位横止めステム (MX-2000) を用いた治療経験
中村嘉宏, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 池尻洋史, 船元太郎, 岡村龍,
日吉優, 川野啓介
第40回日本骨折治療学会, 2014, 6, 熊本
- 47) 大腿骨転子部骨折に対する120° γ ネイルの使用経験
小島岳史, 柏木輝行
第40回日本骨折治療学会, 2014, 6, 熊本
- 48) 野球選手のコンディショニング
石田康行
第17回北九州スポーツリハビリテーション研究会, 2014, 7, 福岡
- 49) 骨盤・股関節・大腿部のスポーツ外傷と障害—画像診断のコツと落とし穴を含め—
帖佐悦男
第13回北海道整形外科教育フォーラム, 2014, 7, 北海道
- 50) Fullthread anchorを用いたsuture bridge法後のアンカー孔の検討
石田康行, 谷口昇, 河原勝博, 田島卓也, 山口奈美, 大田智美, 中村志保子,
帖佐悦男
第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 2014, 7, 広島
- 51) 距骨滑車骨軟骨損傷に対する治療経験
山口奈美, 田島卓也, 石田康行, 帖佐悦男, 山本恵太郎
第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 2014, 7, 広島
- 52) 鏡視下surface-holding法施行後の再断裂症例に対する経時的変化の検討
谷口昇, 末永直樹, 吉岡千佳, 大泉尚美, 石田康行, 帖佐悦男
第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 2014, 7, 広島
- 53) 膝関節開放性脱臼骨折に伴う複合靭帯損傷再建を行った一例
横江琢示, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 池尻洋史, 中村嘉宏,
船元太郎, 岡村龍, 日吉優, 川野啓介
第44回宮崎救急医学会, 2014, 8, 宮崎

- 54) 結晶性関節炎のエコー所見と関節鏡所見
濱田浩朗, 帖佐悦男, 税所幸一郎, 吉川教恵
第48回九州リウマチ学会, 2014, 9, 福岡
- 55) 後頭部皮下腫瘍を契機に発見された、橋本病、自己免疫性肝炎合併の関節リウマチの1例
吉川教恵, 税所幸一郎, 菅田耕, 帖佐悦男, 濱田浩朗
第48回九州リウマチ学会, 2014, 9, 福岡
- 56) 骨粗鬆症治療の最近の動向 —新しい治療薬とリエゾンサービス—
渡邊信二
南那珂生涯教育医学会, 2014, 9, 宮崎
- 57) 少年野球検診で発見された上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の経過
石田康行, 帖佐悦男, 河原勝博, 山口奈美, 大田智美, 中村志保子, 長澤誠
第40回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2014, 9, 東京
- 58) 宮崎県における2014春季キャンプに対するメディカルサポートーキャンプ地の総合的メディカルサポート体制整備確立にむけて—
田島卓也, 帖佐悦男, 石田康行, 河原勝博, 山口奈美, 日吉優, 永井琢哉,
園田典生, 松岡知己, 山本恵太郎, 井上篤, 小島岳史, 樋口潤一
第40回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2014, 9, 東京
- 59) 宮崎県下ラグビー競技における「デリバリードクター」の取り組み
中村嘉宏, 帖佐悦男, 田島卓也, 吉川大輔, 比嘉聖
第40回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2014, 9, 東京
- 60) 当科でのスポーツ選手に対する体外衝撃波治療について
今里浩之, 帖佐悦男, 河原勝博, 田島卓也, 山口奈美
第40回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2014, 9, 東京
- 61) 高校空手選手に対するメディカルチェックに参加して
齊藤由希子, 帖佐悦男, 田島卓也, 河原勝博, 黒木修司, 山口奈美,
中村志保子
第40回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2014, 9, 東京
- 62) 実業団柔道チーム メディカルチェックの現状と課題
平川雄介, 河原勝博, 田島卓也, 山口奈美, 黒木修司, 帖佐悦男
第40回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2014, 9, 東京

- 63) サッカーのキック動作に関する動作解析
横江琢示, 日吉優, 永井琢哉, 田島卓也, 河原勝博, 山口奈美, 黒木修司,
帖佐悦男
第40回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会, 2014, 9, 東京
- 64) ビデオ映像を用いた懸垂動作の解析 (第2報)
尾関伸也, 帖佐悦男, 河原勝博, 田島卓也
第40回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会, 2014, 9, 東京
- 65) 本院の大腿骨近位部骨折治療の現状—亜急性期病棟を要する病院の役割と問題点—
野海渉, 満安隆之, 砂川一馬, 前原孝政, 蓑原勝哉, 圓福陽介, 茂利久嗣,
渡辺一徹, 迫田勇一郎, 小牧亘
第56回 全日本病院学会, 2014, 9, 福岡
- 66) スポーツ診療 —画像診断のコツと落とし穴
帖佐悦男
中部日本整形外科学災害外科学会・学術集会, 2014, 10, 愛知
- 67) 可変型遺伝子トラップ法を用いた骨軟骨に異常を来す新規遺伝子群の効果的スクリーニング
中村志保子, 関本朝久, 船元太郎, 黒木修司, 大田智美, 中原舞,
吉信公美子, 荒木喜美, 荒木正健, 帖佐悦男
第29回日本整形外科学会基礎学術集会, 2014, 10, 鹿児島
- 68) 可変型遺伝子トラップ法で作製したTmem161a欠損マウスは明らかな骨量増加を呈する
黒木修司, 関本朝久, 船元太郎, 大田智美, 中村志保子, 中原舞,
吉信公美子, 荒木喜美, 荒木正健, 帖佐悦男
第29回日本整形外科学会基礎学術集会, 2014, 10, 鹿児島
- 69) 脳性麻痺下肢痙縮患者に対するボツリヌス毒素療法の腓腹筋筋形状変化に関する超音波エコー
による検討
川野彰裕, 帖佐悦男, 柳園賜一郎, 門内一郎
第29回日本整形外科学会基礎学術集会, 2014, 10, 鹿児島
- 70) 手術を行わなかった腋窩神経麻痺を伴った腱板広範囲断裂の経過
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 谷口昇, 大田智美, 中村志保子
第41回日本肩関節学会, 2014, 10, 佐賀

- 71) 寛骨臼後壁骨折に骨頭骨折を合併した症例に対する治療戦略—Surgical dislocationの有用性—
中村嘉宏, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 池尻洋史, 船元太郎,
川野啓介
第41回日本股関節学会学術集会, 2014, 10, 東京
- 72) 臼蓋形成不全症のゲノムコピー数多型解析
関本朝久
第25回股関節研究セミナー, 2014, 11, 東京
- 73) スポーツメディカルサポートシステムの構築 —宮崎県—
帖佐悦男
第4回えひめ国体スポーツ医科学フォーラム, 2014, 11, 愛媛
- 74) 健康スポーツナースを導入した宮崎方式の学校運動器検診の有用性
藤浦まなみ, 鶴田来美, 河原勝博, 黒木修司, 山口奈美, 帖佐悦男
第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2014, 11, 東京
- 75) 地方大学におけるスポーツイベントへの出務状況
黒木修司, 田島卓也, 河原勝博, 中村嘉宏, 山口奈美, 帖佐悦男
第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2014, 11, 東京
- 76) 医師事務作業補助者の育成手順への取り組みについて
丸山こずえ, 植松裕, 税所幸一郎
第68回国立病院総合医学会, 2014, 11, 神奈川
- 77) NinJa (iR net による関節リウマチデータベース) を利用した6 施設でのリウマチ関連手術と
薬物療法についての分析—2012 年度—
税所幸一郎, 當間重人, 吉川教恵, 菅田耕
第68回国立病院総合医学会, 2014, 11, 神奈川
- 78) RA 患者における腎機能障害とDMARDs 使用について - 2012 年度NinJa 報告より -
税所幸一郎, 當間重人, 吉川教恵, 菅田耕, 帖佐悦男, 濱田浩朗, 西野仁樹
第29回日本臨床リウマチ学会, 2014, 11, 福岡

- 79) Periacetabular Osteotomy for the Treatment of Coxarthrosis with Huge Cysts
-Prospective Consecutive series with a 11-year minimum follow-up period-
帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 池尻洋史, 中村嘉宏,
船元太郎
46th Brazilian Congress of Orthopedics and Traumatology, 2014, 11, Brazil
- 80) Novel Surgical Procedures in Avascular Necrosis of Femoral Head with Collapse of
Femoral Head -Prospective consecutive series with a 13-year follow-up period-
帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 池尻洋史, 中村嘉宏,
船元太郎
46th Brazilian Congress of Orthopedics and Traumatology, 2014, 11, Brazil
- 81) Total Hip Arthroplasty after Spherical Acetabular Osteotomy
中村嘉宏, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 池尻洋史, 船元太郎, 岡村龍,
日吉優
46th Brazilian Congress of Orthopedics and Traumatology, 2014, 11, Brazil
- 82) Surface-Holding Repair: An Original Arthroscopic Rotator Cuff Repair Technique
谷口昇, 末永直樹, 大泉尚美, 三好直樹, 帖佐悦男
46th Brazilian Congress of Orthopedics and Traumatology, 2014, 11, Brazil
- 83) Outcome of Anatomic Reconstructive Surgery for the Elderly with Irreparable Massive
Rotator Cuff Tear
谷口昇, 末永直樹, 三好直樹, 大泉尚美, 帖佐悦男
46th Brazilian Congress of Orthopedics and Traumatology, 2014, 11, Brazil
- 84) The life and the functional prognosis of oldest-old patients over 100 years old the
the hip fracture
李徳哲, 森治樹, 三橋龍馬, 梅崎哲矢, 帖佐悦男
46th Brazilian Congress of Orthopedics and Traumatology, 2014, 11, Brazil
- 85) 治療に難渋した小児環軸関節回旋位固定 (AARF) の検討
永井琢哉, 濱中秀昭, 猪俣尚規, 比嘉聖, 李徳哲, 今里浩之
第82回西日本脊椎研究会, 2014, 11, 沖縄
- 86) 人工股関節置換術におけるサポートリングの有限要素解析: フックの影響
鳥取部光司, 帖佐悦男, 山子剛, Zhao Xin, 渡邊信二, Deng Gang, 大内宏輝
第41回日本臨床バイオメカニクス学会, 2014, 11, 奈良

- 87) 人工股関節置換術におけるGanz ring の破損リスクの生体力学的評価
中村光佑, 大塚裕貴, Deng Gang, 鳥取部光司, 渡邊信二, 帖佐悦男, 山子剛
第41回日本臨床バイオメカニクス学会, 2014, 11, 奈良
- 88) von Recklinghausen病の高度頸椎後弯に対して血管柄付き腓骨移植術を行った1例
比嘉聖, 濱中秀昭, 猪俣尚規, 永井琢哉, 李徳哲, 今里浩之, 帖佐悦男
第128回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2014, 11, 沖縄
- 89) 仙骨のsuicide jumper fractureに対し小皮切Galveston techniqueを使用した1例
今里浩之, 濱中秀昭, 猪俣尚規, 比嘉聖, 永井琢哉, 李徳哲, 帖佐悦男
第128回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2014, 11, 沖縄
- 90) 肘頭骨折、橈骨頭脱臼に上腕骨外顆骨折、尺骨骨塑性変形を伴う小児Monteggia類似損傷の1例
梅崎哲矢, 森治樹, 三橋龍馬, 山口洋一朗
第128回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2014, 11, 沖縄
- 91) 大腿骨頸部から転子部にかけて縦割れを伴う大腿骨近位部骨折に対し骨接合術を行った3症例
梅崎哲矢, 森治樹, 三橋龍馬, 山口洋一朗
第128回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2014, 11, 沖縄
- 92) Bosworth型足関節脱臼骨折の2例
小島岳史, 黒田宏, 松岡篤, 岡村龍, 福元洋一
第128回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2014, 11, 沖縄
- 93) Rb法で治療した先天性股関節脱臼症例の運動発達の推移
川野彰裕, 帖佐悦男, 柳園賜一郎, 門内一郎, 渡邊信二
第25回日本小児整形外科学会学術集会, 2014, 11, 千葉
- 94) 夢の実現へ ―骨関節研究を通して―
関本朝久
第8回はまゆう整形外科セミナー, 2014, 11, 宮崎
- 95) スポーツ診断 ―画像診断のコツと落とし穴―
帖佐悦男
第24回三重関節鏡・関節外科研究会, 2014, 12, 三重

- 96) 骨粗鬆症に対する治療薬選択法 ―骨吸収マーカーをターゲットとして―
小牧亘, 帖佐悦男
第69回宮崎整形外科懇話会, 2014, 12, 宮崎
- 97) 外反型変形性足関節症に対し骨切り術を行った1例
岡村龍, 松岡篤, 小島岳史, 黒田宏, 渡邊信二, 横江琢示, 帖佐悦男
第69回宮崎整形外科懇話会, 2014, 12, 宮崎
- 98) 難治性足背部痛で受診した距骨類骨腫の一例
渡邊信二, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 濱田浩朗, 池尻洋史, 中村嘉宏,
船元太郎, 川野啓介, 平川雄介, 今里浩之
第69回宮崎整形外科懇話会, 2014, 12, 宮崎
- 99) 肩鎖関節脱臼に対する新しい手術デバイス“Zip Tight”の使用経験
小島岳史, 岡村龍, 松岡篤, 黒田宏
第69回宮崎整形外科懇話会, 2014, 12, 宮崎
- 100) 橈骨神経損傷伴う上腕骨顆部開放骨折に術後尺骨神経麻痺を合併した1例
益山松三, 山本恵太郎, 坂田勝美, 吉田修子
第69回宮崎整形外科懇話会, 2014, 12, 宮崎
- 101) 鎖骨骨折ならびに肩鎖関節脱臼に対する手術の際の鎖骨上神経損傷について
三橋龍馬, 森治樹, 梅崎哲矢, 山口洋一郎
第69回宮崎整形外科懇話会, 2014, 12, 宮崎
- 102) 外反膝に対する人工膝関節置換術
柏木輝行, 矢野良英, 花堂祥治, 福島克彦
第69回宮崎整形外科懇話会, 2014, 12, 宮崎
- 103) 当院における大腿骨転子下骨折術後のADL、歩行能力を中心とした治療成績
大塚記史, 浪平辰州, 増田寛
第69回宮崎整形外科懇話会, 2014, 12, 宮崎
- 104) ブーメラン型cageを用いたMISt
河野勇泰喜, 野崎正太郎, 井上篤, 久保紳一郎, 田島直也
第69回宮崎整形外科懇話会, 2014, 12, 宮崎

- 105) 当院での下肢重症虚血による下肢壊死・難治性皮膚潰瘍に対する治療
山口洋一朗, 森治樹, 三橋龍馬, 梅崎哲矢
第69回宮崎整形外科懇話会, 2014, 12, 宮崎
- 106) 外反母趾に対するMitchell変法による治療成績
松岡知己, 大倉俊之, 福田一, 高橋尚宏
第69回宮崎整形外科懇話会, 2014, 12, 宮崎
- 107) 当科での外反母趾に対する手術治療の経験
森田雄大, 栗原典近, 市原久史, 公文崇詞, 河野雅充
第69回宮崎整形外科懇話会, 2014, 12, 宮崎
- 108) 宮崎大学のスポーツイベントへのサポート状況
横江琢示, 田島卓也, 黒木修司, 河原勝博, 中村嘉宏, 山口奈美, 比嘉聖,
日吉優, 永井琢哉, 今里浩之, 帖佐悦男
第27回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2014, 12, 福岡
- 109) 宮崎大学医学部附属病院における「宮大健康スポーツナース」の活動 ～宮崎シーガイアトライアスロン大会での救護活動を振り返って～
木下俊太, 大津山加奈子, 藤浦まなみ, 水永豊子, 日高真美子, 船元太郎,
落合秀信, 帖佐悦男
第27回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2014, 12, 福岡
- 110) 宮崎県における2014春季キャンプに対するメディカルサポート報告 ―キャンプ地の総合的メディカルサポート体制の構築に向けて―
小島岳史, 田島卓也, 帖佐悦男, 石田康行, 河原勝博, 山口奈美, 日吉優,
永井琢哉, 園田典生, 松岡知己, 井上篤, 山本恵太郎, 樋口潤一
第27回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2014, 12, 福岡
- 111) 高校空手道選手に対するメディカルチェック
齊藤由希子, 帖佐悦男, 田島卓也, 河原勝博, 黒木修司, 山口奈美,
中村志保子
第27回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2014, 12, 福岡
- 112) 宮崎県下ラグビー競技会における「デリバリードクター」制度の構築
篠原希, 帖佐悦男, 田島卓也, 中村嘉宏, 吉川大輔, 比嘉聖
第27回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2014, 12, 福岡

113) 距骨骨軟骨損傷の治療戦略

今里浩之, 山口奈美, 田島卓也, 河原勝博, 矢野浩明, 谷口昇, 石田康行,
甲斐糸乃, 横江琢示, 帖佐悦男, 山本恵太郎
第27回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2014, 12, 福岡

114) シャドーピッチングの運動学的解析

宮崎茂明, 石田康行, 落合優, 鳥取部光司, 帖佐悦男
第27回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2014, 12, 福岡

115) 少年野球検診で発見された上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の経過

石田康行, 帖佐悦男, 長澤誠, 宮崎茂明, 矢野浩明, 河原勝博, 山口奈美,
大田智美, 中村志保子
第27回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2014, 12, 福岡

116) 宮崎県少年野球検診 4年間の結果と反省からの改良

長澤誠, 石田康行, 帖佐悦男
第27回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2014, 12, 福岡

◆ポスター

- 1) 環指中手骨に発生した軟骨肉腫の一例
矢野浩明, 大田智美, 中村志保子, 帖佐悦男
第57回日本手外科学会学術集会, 2014, 4, 沖縄
- 2) 手指骨に発生した内軟骨腫に対する腫瘍搔爬・骨移植術の治療経験
中村志保子, 矢野浩明, 石田康行, 大田智美, 帖佐悦男
第57回日本手外科学会学術集会, 2014, 4, 沖縄
- 3) 宮崎県における関節リウマチに対する生物学的製剤の使用実態調査 (第3報)
久保和義, 宮内俊一, 梅北邦彦, 濱田浩朗, 岡山昭彦, 帖佐悦男
第58回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2014, 4, 東京
- 4) Prospective comparisons of femoral tunnel enlargement in three different postoperative immobilization periods after double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction with hamstring grafts
田島卓也, 帖佐悦男, 河原勝博, 山口奈美
16th ESSKA Congress, 2014, 5, Netherlands
- 5) Discoid lateral meniscus: Type, cause of clinical symptom, tear pattern and surgical management in 69 knees
山口奈美, 田島卓也, 河原勝博, 帖佐悦男
16th ESSKA Congress, 2014, 5, Netherlands
- 6) 100歳を超える超高齢者の大腿骨近位部骨折に関する生命予後と機能予後の検討
李徳哲, 森治樹, 三橋龍馬, 梅崎哲矢, 帖佐悦男
第87回日本整形外科学会, 2014, 5, 兵庫
- 7) 小児股関節水腫診断における超音波検査とX線検査(tear drop distance)の有用性の比較
小島岳史, 柏木輝行, 花堂祥治, 矢野良英, 帖佐悦男
第87回日本整形外科学会, 2014, 5, 兵庫
- 8) 生物学的治癒促進を目的としたARCRと腱板修復形態の検討
谷口昇, 末永直樹, 吉岡千佳, 大泉尚美, 帖佐悦男
第87回日本整形外科学会, 2014, 5, 兵庫

- 9) 鏡視下腱板修復術の縫合法の違いによる術後肩峰下骨形態の変化
石田康行, 矢野浩明, 谷口昇, 河原勝博, 田島卓也, 山口奈美, 大田智美,
中村志保子, 帖佐悦男
第87回日本整形外科学会, 2014, 5, 兵庫
- 10) 特発性側弯症に対する大阪医大式装具(OMC brace)の有用性の検証—SRS標準化基準に準じた症例を用いて—
黒木浩史, 猪俣尚規, 濱中秀昭, 比嘉聖, 帖佐悦男, 田島直也
第87回日本整形外科学会, 2014, 5, 兵庫
- 11) 難治性上腕骨外上顆炎に対する体外衝撃波治療について
河原勝博, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 関本朝久, 濱田浩朗
第51回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2014, 6, 愛知
- 12) 膝関節開放性脱臼に伴う複合靭帯損傷再建を行った一例
川野啓介, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 田島卓也, 池尻洋史, 中村嘉宏,
船元太郎, 岡村龍, 日吉優
第18回日本救急医学会九州地方会, 2014, 6, 福岡
- 13) 開放性骨盤骨折にガス壊疽を合併した1例
川野啓介, 帖佐悦男, 池尻洋史, 中村嘉宏, 日吉優
第40回日本骨折治療学会, 2014, 6, 熊本
- 14) 豆状骨脱臼を合併した橈骨遠位端骨折の1例
小牧亘, 濱田浩朗, 永井琢哉
第40回日本骨折治療学会, 2014, 6, 熊本
- 15) 自家ハムストリング腱を用いたbi-socket法によるPCL再建術の術後短期成績
田島卓也, 河原勝博, 山口奈美, 矢野浩明, 石田康行, 谷口昇, 中村志保子,
山口洋一郎, 帖佐悦男
第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 2014, 7, 広島
- 16) 可変型遺伝子トラップ法で作製したNedd4欠損マウスの骨表現型解析
船元太郎, 関本朝久, 黒木修司, 大田智美, 帖佐悦男
第32回日本骨代謝学会学術集会, 2014, 7, 大阪

- 17) 可変型遺伝子トラップ法を用いた骨代謝に関与する新規遺伝子群の効果的スクリーニング
黒木修司, 関本朝久, 船元太郎, 大田智美, 中村志保子, 帖佐悦男
第32回日本骨代謝学会学術集会, 2014, 7, 大阪
- 18) 当院にて加療したラグビーが原因で受傷した麻痺を伴う重症頸椎外傷の2例
比嘉聖, 中村嘉宏, 田島卓也, 帖佐悦男
第40回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2014, 9, 東京
- 19) 股関節症における関節適合性の意義 —股関節正面像とfalse profileの必要性—
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 池尻洋史, 中村嘉宏
第29回日本整形外科学会基礎学術集会, 2014, 10, 鹿児島
- 20) 術後の骨量減少を生じない理想的な人工股関節ステム
山子剛, 帖佐悦男, 鳥取部光司, 花田修治, 正橋直哉, 山田則一, 井樋栄二
第29回日本整形外科学会基礎学術集会, 2014, 10, 鹿児島
- 21) デリパラチド連日製剤投与を行った24ヶ月間の骨代謝マーカーと骨密度の変化—骨密度が低下した症例の検討—
小牧ゆか, 渡邊信二, 帖佐悦男
第16回日本骨粗鬆症学会, 2014, 10, 東京
- 22) 腱板断裂後関節症の関節内遊離骨片が腕神経叢麻痺を呈した一例
谷口昇, 石田康行, 矢野浩明, 中村志保子, 末永直樹, 帖佐悦男
第41回日本肩関節学会, 2014, 10, 佐賀
- 23) 白蓋再建に用いたハイドロキシアパタイトが原因となり様々な合併症を生じた1例
川野啓介, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 池尻洋史,
中村嘉宏, 船元太郎, 日吉優
第41回日本股関節学会学術集会, 2014, 10, 東京
- 24) DIP関節破壊をきたした関節リウマチと皮膚筋炎のオーバーラップ症候群の一例
船元太郎, 濱田浩朗, 税所浩一郎, 帖佐悦男
第42回日本関節病学会, 2014, 11, 東京
- 25) ラグビーユース日本代表における傷害調査
高森草平, 田島卓也, 川崎隆之, 石山修盟, 田代智史, 伊藤渉, 山崎哲也,
蜂谷將史
第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2014, 11, 東京

- 26) 女子7人制ラグビー日本代表チームにおける傷害発生の状況 第4報
磯あすか, 平井晴子, 田崎篤, 田中彩乃, 竹村雅裕, 石山修盟, 田島卓也
第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2014, 11, 東京
- 27) 7人制ラグビー女子日本代表における前十字靭帯損傷の発生調査
平井晴子, 田崎篤, 磯あすか, 田中彩乃, 田島卓也, 古谷正博
第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2014, 11, 東京
- 28) 社会人ラグビー夏合宿におけるドクター帯同に対する協力体制について
岡山明洙, 木島和也, 永山正隆, 守屋拓朗, 荻原尚志, 吉田一郎, 田島卓也
第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2014, 11, 東京
- 29) 距骨頸部に発生した類骨骨腫の一例
渡邊信二, 岡村龍, 帖佐悦男
第39回日本足の外科学会・学術集会, 2014, 11, 宮崎
- 30) 腱板断裂として紹介された真菌性肩関節炎の一例
平川雄介, 石田康行, 矢野浩明, 谷口昇, 河原勝博, 田島卓也, 山口奈美,
甲斐糸乃, 齊藤由希子, 帖佐悦男
第128回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2014, 11, 沖縄
- 31) 鎖骨フックプレートだけでは整復し得なかった鎖骨関節脱臼 -キルシュナー鋼線追加固定を要した1例-
小牧亘, 濱田浩朗, 帖佐悦男
第128回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2014, 11, 沖縄
- 32) 成人における大腿骨大転子部に発生したサルモネラ骨髄炎の1例
菅田耕, 税所幸一郎, 吉川教恵, 帖佐悦男
第128回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2014, 11, 沖縄
- 33) 骨内脂肪腫摘出後ハイドロキシアパタイトを使用した一例
齊藤由希子, 谷口昇, 平川雄介, 中村志保子, 甲斐糸乃, 山口奈美,
田島卓也, 石田康行, 河原勝博, 矢野浩明, 帖佐悦男
第128回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2014, 11, 沖縄

◆シンポジウム

- 1) Evaluation Of Contact Pressure On Total Surface Bearing And Patellar Tendon Bearing Sockets During Stair Ascent And Descent
Koji Totoribe, Etsuo Chosa, Xin Zhao, Go Yamako, Shinji Watanabe,
Hiroaki Hamada, Gang Deng
2014 ORS Annual Meeting, 2014, 3, Louisiana
- 2) 冬季における保温素材を用いた手関節装具の使用経験
濱田浩朗, 帖佐悦男, 日高利彦, 税所幸一郎, 鳥取部光司
第58回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2014, 4, 東京
- 3) NinJaを利用した関節リウマチ関連手術の分析—2012年度について—
税所幸一郎, 當間重人, 吉川教恵, 菅田耕, 帖佐悦男, 濱田浩朗, 西野仁樹
第58回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2014, 4, 東京
- 4) 若年者のACL再建術におけるスポーツ復帰のための工夫—術前および術後のマネジメント—
田島卓也, 山口奈美, 河原勝博, 山本恵太郎, 矢野浩明, 谷口昇, 石田康行,
中村志保子, 山口洋一郎, 帖佐悦男
第127回西日本整形・災害外科学会学術集会, 2014, 6, 福岡
- 5) スポーツによる頸椎頸髄損傷
比嘉聖, 田島卓也, 帖佐悦男
第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 2014, 7, 広島
- 6) Nedd4欠損骨芽細胞の機能解析
船元太郎, 関本朝久, 黒木修司, 大田智美, 中村志保子, 中原舞, 荒木喜美,
吉信公美子, 荒木正健, 帖佐悦男
第29回日本整形外科学会基礎学術集会, 2014, 10, 鹿児島
- 7) 大腿骨頭すべり症後のFAIと関節唇損傷
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 関本朝久, 池尻洋史, 中村嘉宏
第41回日本股関節学会学術集会, 2014, 10, 東京
- 8) 思春期特発性側弯症に対する装具療法の現状
黒木浩史, 田島直也
第48回日本側弯症学会学術集会, 2014, 10, 岩手

9) 寛骨臼形成不全に対する手術療法 -PAOを中心に-

帖佐悦男

第42回日本関節病学会, 2014, 11, 東京

◆講 演

- 1) 宮崎県における運動器疾患への取り組みーロコモを中心にー
帖佐悦男
第5回 佐賀県リハビリテーション科医会, 2014, 1, 佐賀

- 2) 見逃されやすい運動器疾患の診断におけるピットフォール
帖佐悦男
平成25年度スポーツドクター連盟総会
宮崎県医師会健康スポーツ医学セミナー, 2014, 2, 宮崎

- 3) 子どもに笑顔を！野球障害を防ごう
帖佐悦男
第26回日本肘関節学会学術集会, 2014, 2, 東京

- 4) 成長期のスポーツ傷害ー身体特性と診断におけるピットホールー
帖佐悦男
第18回くにびき整形外科セミナー, 2014, 3, 島根

- 5) スポーツ診療における診断に際してのピットフォール
帖佐悦男
第74回浜松整形外科セミナー, 2014, 3, 静岡

- 6) あなたの運動器（脚・腰）大丈夫ですか？ー子どもから大人まで ロコモ予防を！ー
帖佐悦男
平成25年度大分県医師会健康スポーツ医部会医学講演会, 2014, 3, 大分

- 7) 私の肩、肘関節の手術適応
石田康行
第46回県北整形外科医会, 2014, 4, 宮崎

- 8) スポーツ指導者に必要な医学的知識 I
黒木修司
平成26年度第1回スポーツリーダー養成講習会兼
スポーツ少年団認定委員養成講習会, 2014, 5, 宮崎

- 9) 整形外科領域における使用例
濱田浩朗
宮崎大学『漢方治療のファーストステップ』を学ぶ会, 2014, 5, 宮崎
- 10) 股関節インピンジメント (FAI) を考える
遠藤直人, 杉山肇, 帖佐悦男
Ortho Community (座談会), 2014, 6, 東京
- 11) 少年野球障害予防の取り組み
石田康行
第17回北九州スポーツリハビリテーション研究会, 2014, 7, 福岡
- 12) 宮崎県における学童期運動器検診
山口奈美
第58回九州ブロック学校保健・学校医大会分科会, 2014, 8, 宮崎
- 13) 関節を知ろう!～腰・膝の診察法～
大倉 俊之
ジェネラリスト夏合宿inにちなん, 2014, 8, 宮崎
- 14) スポーツドクターの役割
田島卓也
平成26年度スポーツ医学カンファレンス (9月), 2014, 9, 大分
- 15) リウマチ病診連携 ―整形外科としての課題―
帖佐悦男
整形外科医としてのリウマチ病診連携を考える会, 2014, 10, 宮崎
- 16) 野球におけるメンタルトレーニング (野球障害の病態と治療)
石田康行
指導者講習会, 2014, 11, 宮崎

編集後記

平成27年12月2日、木村千仞名誉教授が御逝去されました。今回は木村千仞先生追悼集として、木村先生と関係が深い先生方に執筆依頼させていただきました。先生のお人柄、教室の歴史を再認識できることかと思ひます。木村先生をしのびながら読んでいただきたいと思います。

賛助会員、田原徳人先生、正会員、川越秀一先生、北島潤弥先生、吉留綾先生に新入会していただき、自己紹介を御寄稿していただきました。

その他、新同門会長、医局長の御挨拶、新入教室員歓迎、学会賞受賞、同門会、医局行事、開業報告等があります。皆様には隅々まで目を通していただけると幸いです。

何かと忙しい中、本誌に御寄稿いただいた諸先生方に深謝いたします。

平成28年8月吉日

渡邊 信二

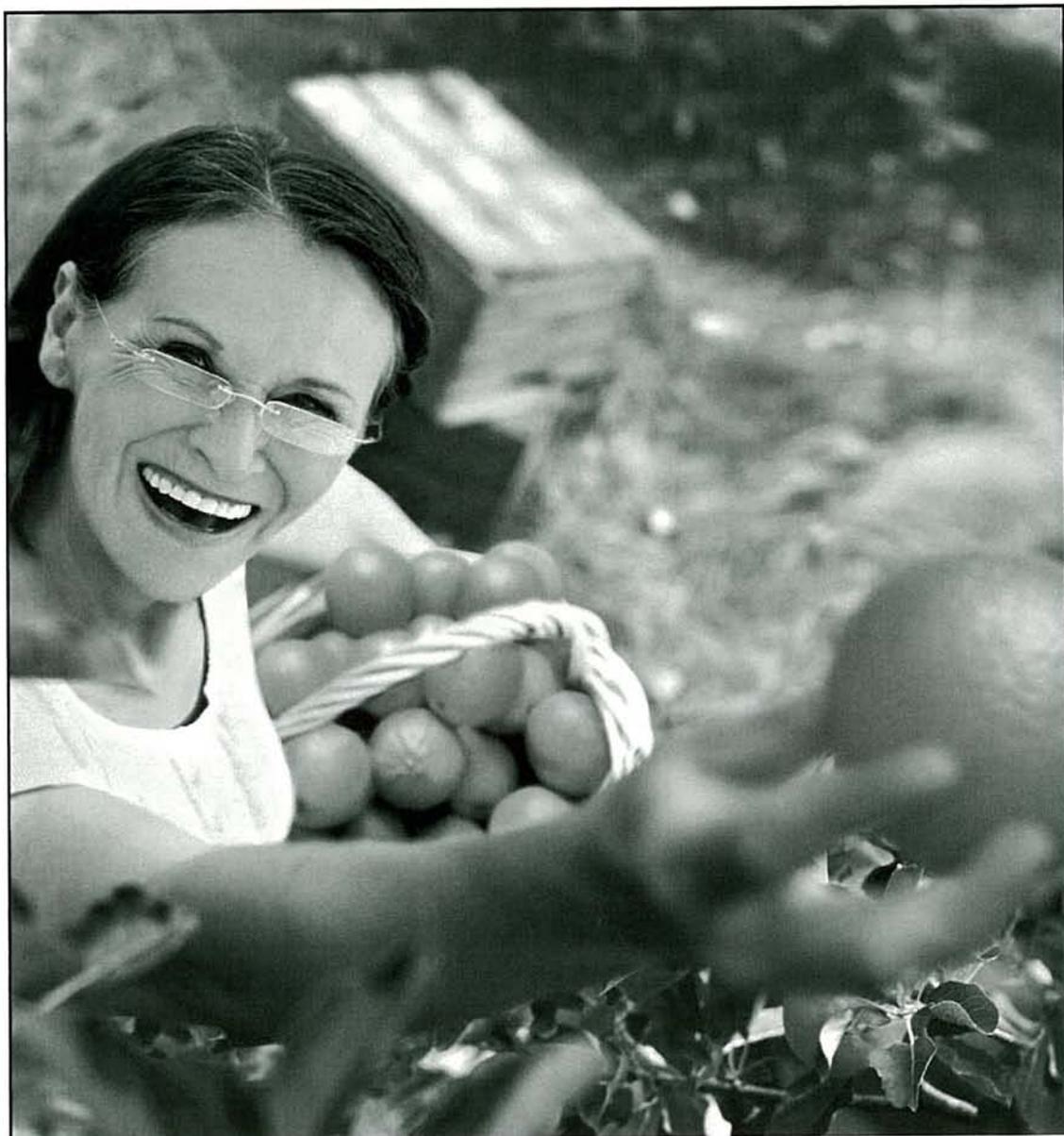
石田 康行（文責）

平部 千智

患者様の想いを見つめて、
薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病氣とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病氣を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ



骨粗鬆症治療薬

フォサマック[®]錠35mg

Fosamac[®] Tablets 35mg

日本薬局方 アレンドロン酸ナトリウム錠

新薬・処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

〈薬信基準取載〉

【効能・効果】、【用法・用量】、【用法・用量に関連する使用上の注意】、【禁忌を含む使用上の注意】は、製品添付文書をご参照ください。

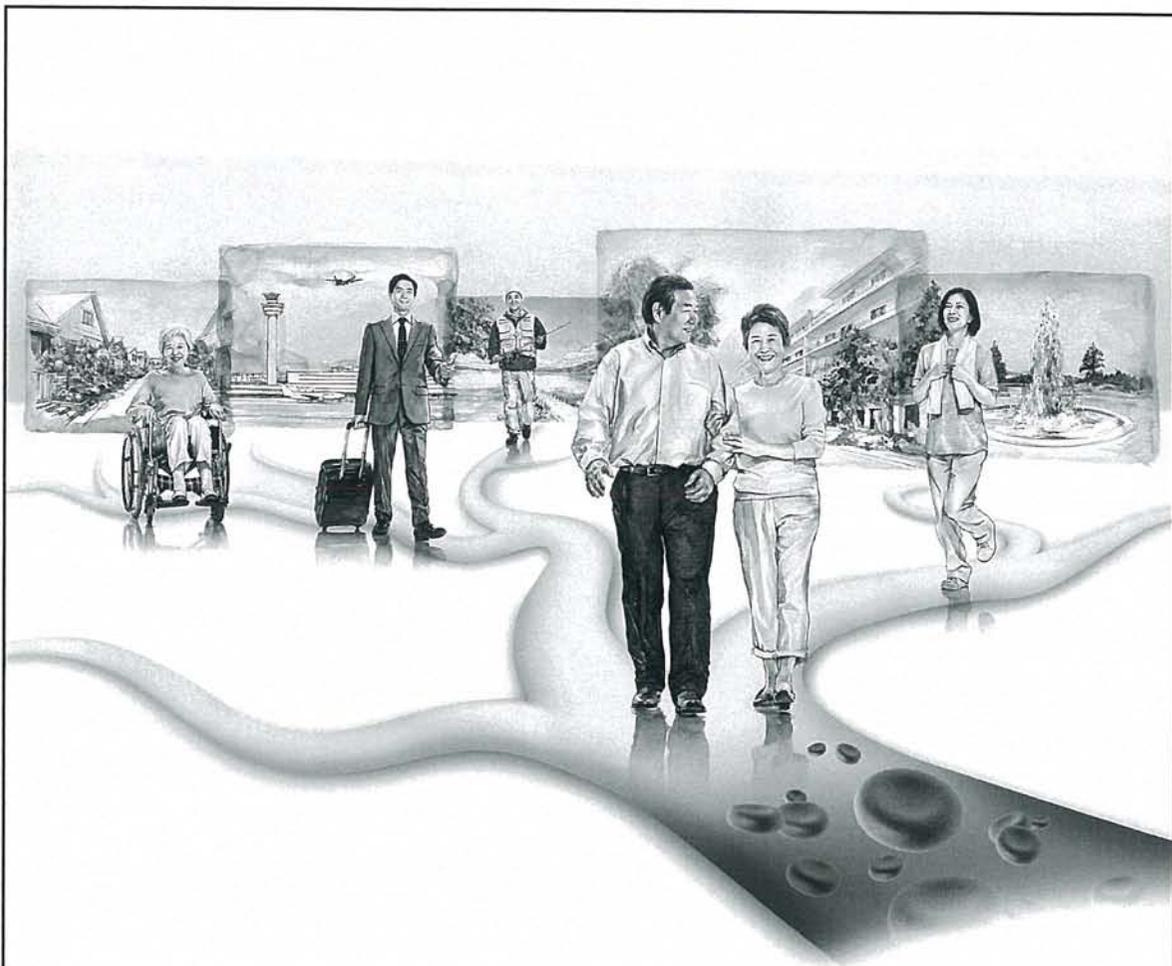


製造販売元【資料請求先】

MSD株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
<http://www.msd.co.jp/>

2011年7月作成
FSM11AD032-0716




Lixiana®
edoxaban tablets

経口FXa阻害剤

薬価基準収載

リクシアナ錠® 15mg
30mg
60mg

一般名：エドキサバントシル酸塩水和物

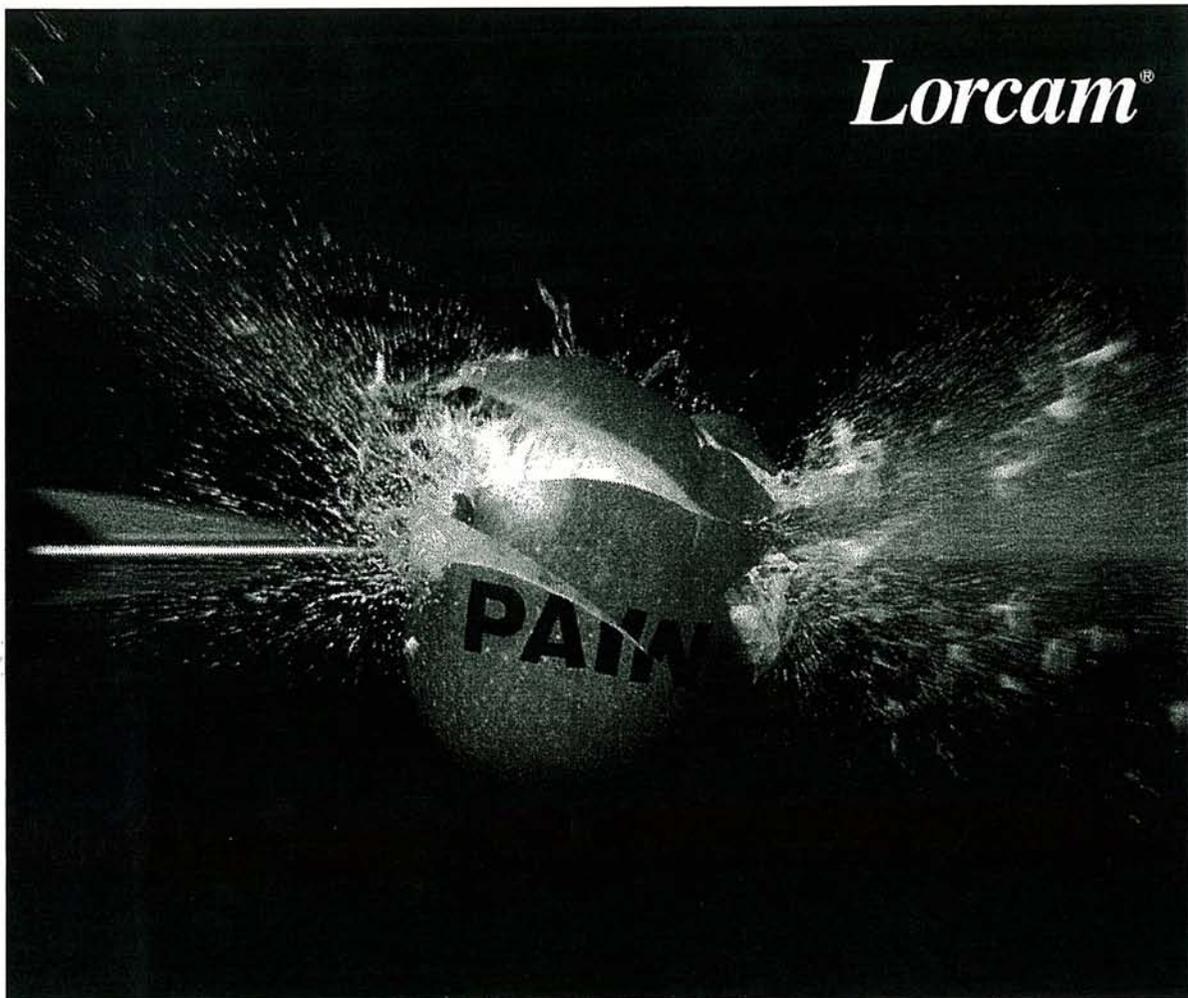
処方箋医薬品 注意－医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量および警告・禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。


製造販売元(資料請求先)
第一三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3-5-1

2015年4月作成

Lorcam[®]



劇薬 / 非ステロイド性消炎・鎮痛剤

ロルカム[®]錠 2mg
4mg

ロルノキシカム製剤

薬価基準収載

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」等は添付文書をご参照ください。



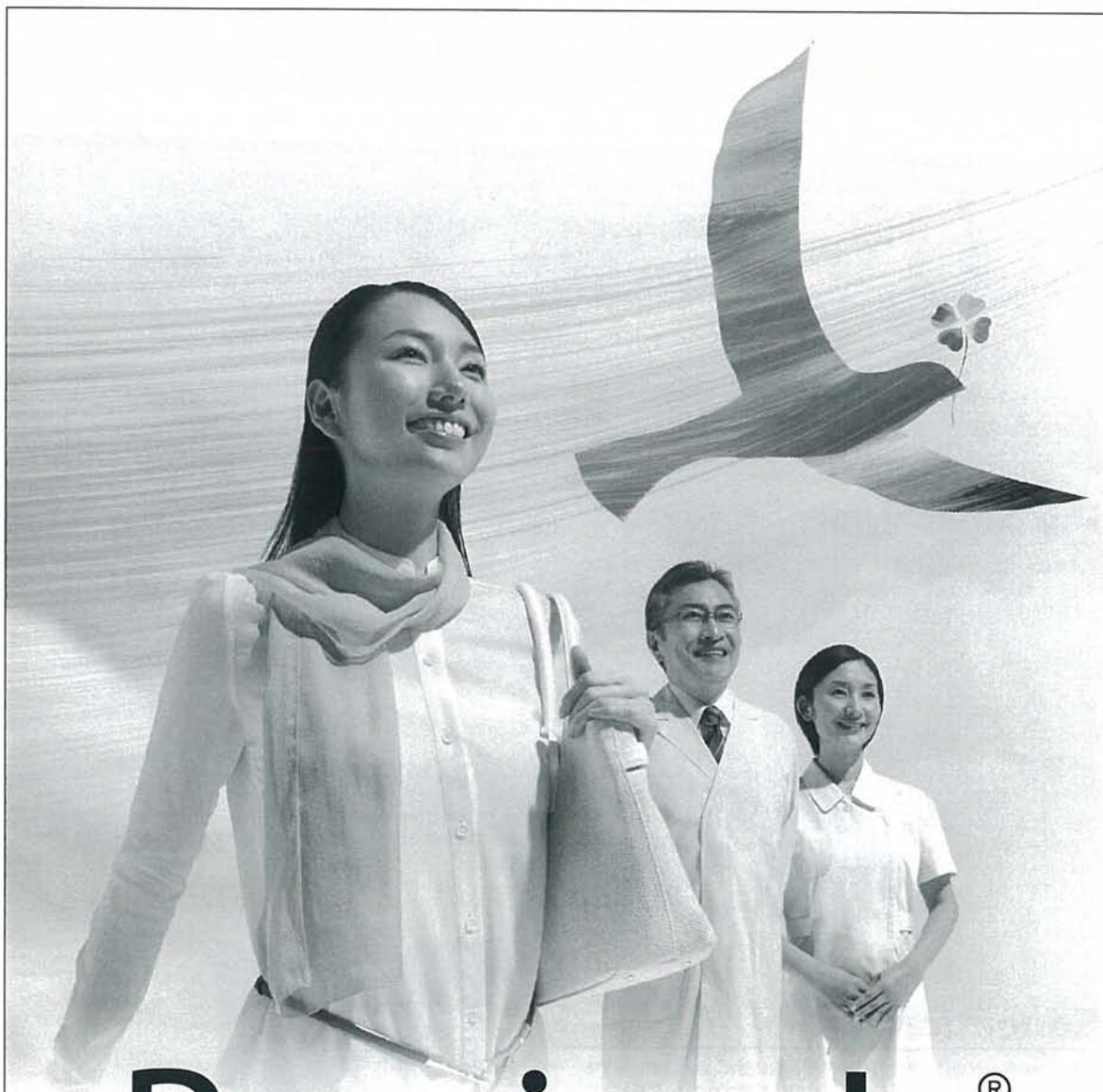
発売【資料請求先】

大正富山医薬品株式会社
〒170-8635 東京都豊島区高田3-25-1



製造販売

大正製薬株式会社
〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1



Remicade®



抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤

薬価基準収載

レミケード®点滴静注用100

REMICADE® for I.V. Infusion100 (インフリキシマブ(遺伝子組換え)製剤)

生物由来製品 | 劇薬 | 処方箋医薬品 | (注意・医師等の処方箋により使用すること)

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



製造販売元(資料請求先)
田辺三菱製薬株式会社
大阪市中央区道修町3-2-10

2015年3月作成

stryker®

What Matters?

Partnerships パートナーシップ

私たちは先生方のパートナーとして、患者様に最も優先して力を注ぐことができるよう、効率的な手法や持続性の高い技術、優れたサービスを提供して参ります。



Performance パフォーマンス

私たちは、先生方の治療に対する要求にお応えし、先生方がより良い結果を取めることができるよう手技や器械、インプラントの開発に力を入れて参ります。

Education 教育

私たちは先生方が常に最新の技法や学術情報に触れ、テクニックに関する最新の情報を得ることができるよう、継続的な教育プログラムを提供して参ります。



Results 結果

私たちは先生方の成功に力になれたかどうかで、自らの結果を評価します。私たちが何よりも優先しているのは、先生方や患者様の利益です。私たちは先生方や患者様にとって最高の結果を提供できるよう努力して参ります。

日本ストライカー株式会社

112-0004 東京都文京区後楽 2-6-1 tel: 03-6894-0000

www.stryker.co.jp

医療従事者向けサイト-Stryker Medical Professional Site

www.stryker.co.jp/medical.html

製造販売業者

日本ストライカー株式会社

550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀2-1-1

慢性化しやすい痛み

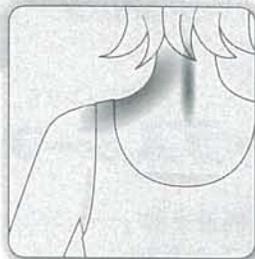
変形性関節症



腰痛症



頸肩腕症候群



帯状疱疹後神経痛



肩関節周囲炎



下行性疼痛抑制系賦活型
疼痛治療剤（非オピオイド、非シクロオキシゲナーゼ阻害）

ナイトロピン®錠4単位

ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液含有製剤 〈薬価基準収載〉



【禁忌】（次の患者には投与しないこと）：本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

【効能・効果】

帯状疱疹後神経痛、腰痛症、頸肩腕症候群、
肩関節周囲炎、変形性関節症

【用法・用量】

通常、成人には1日4錠を朝夕2回に分けて経口
投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

帯状疱疹後神経痛に対しては、4週間で効果の認めら
れない場合は漫然と投薬を続けまいよう注意すること。

【使用上の注意】

1. 副作用

承認時までの調査では、1,706例中89例(5.22%)に、市
販後の副作用頻度調査(再審査終了時点)では、18,140例
中98例(0.54%)に副作用が認められている。以下の副作
用は、上記の調査及び自発報告等で認められたものである。

(1) 重大な副作用

- 1) 肝機能障害、黄疸(いずれも頻度不明)：AST(GOT)、ALT
(GPT)、 γ -GTPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があら
われることがあるので、観察を十分に行い、異常が認めら
れた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 2) 本薬の注射剤において、ショック、アナフィラキシー
があらわれたとの報告があるので、観察を十分に行い、
異常が認められた場合には、直ちに投与を中止し、適
切な処置を行うこと。

その他の使用上の注意などにつきましては、
添付文書をご参照下さい。

製造販売元

日本臓器製薬

〒541-0046 大阪市中央区平野町2丁目1番2号
資料請求先：学術部

くすりの相談窓口 ☎06-6233-6085
土・日・祝日を除く 9:00~17:00

2013年7月作成

整形外科領域 製品ラインナップ

モーラス テープ 20mg
 経皮鎮痛消炎剤
 ケトプロフェン2% [薬価基準収載]

モーラス テープ 20mg

モーラス テープ L 40mg
 ケトプロフェン2% [薬価基準収載]

モーラス テープ L 40mg

経皮鎮痛消炎剤
 ケトプロフェン0.3% [薬価基準収載]

モーラス パップ 30mg

ケトプロフェン0.3% [薬価基準収載]

モーラス パップ 60mg

経皮鎮痛消炎剤
 ジクロフェナクナトリウムテープ [薬価基準収載]

ナポール テープ 15mg

ジクロフェナクナトリウムテープ [薬価基準収載]

ナポール テープ L 30mg

経皮鎮痛消炎剤 (無臭性)
 ジクロフェナクナトリウムパップ剤 [薬価基準収載]

ナポール パップ 70mg

ジクロフェナクナトリウムパップ剤 [薬価基準収載]

ナポール パップ 140mg

経皮鎮痛消炎剤
 インドメタシン 貼付剤 [薬価基準収載]

インサイド パップ 70mg

NORSPAN® 経皮吸収型 持続性疼痛治療剤

劇薬、向精神薬 習慣性医薬品 (注意-習慣性あり) 処方箋医薬品 (注意-医師等の処方箋により使用する)

ブプレノルフィン経皮吸収型製剤 [薬価基準収載]

ノルспан テープ 5mg
 10mg
 20mg

NORSPAN® TAPE

NORSPAN® TAPE is licensed by MUNDIPHARMA

発売元: 久光製薬株式会社 製造販売元 (輸入元): ムンディファーマ株式会社

経皮鎮痛消炎剤
 ケトプロフェン3% [薬価基準収載]

セクター クリーム 3%

ケトプロフェン3% [薬価基準収載]

セクター ゲル 3%

ケトプロフェン3% [薬価基準収載]

セクター ローション 3%

経皮鎮痛消炎剤
 ジクロフェナクナトリウムゲル軟膏 [薬価基準収載]

ナポール ゲル 1%

持続性鎮痛・抗炎症剤
 劇薬、処方箋医薬品 (注) 注意-医師等の処方箋により使用すること。

ジクロフェナクナトリウム製剤 [薬価基準収載]

ナポール SRカプセル 37.5

ジェネリック医薬品
 経皮鎮痛消炎剤

フェルビナク 3.5% [薬価基準収載]

フレックス テープ 70mg

ジェネリック医薬品
 活性型ビタミンD₃製剤

劇薬 カルシトリオール製剤 [薬価基準収載]

カルデモン 錠 0.25μg

発売元: 久光製薬株式会社 製造販売元: 株式会社龍角散



「運動器の10年」世界運動
 動く喜び 動ける幸せ

整形外科
 「運動器の10年」
 を応援します。



ロコモチャレンジ!

日本整形外科学会
 「ロコモティブシンドローム」
 啓発運動を応援します。

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。



ORENCIA®

T細胞選択的共刺激調節剤

点滴静注用・皮下注シリンジ：薬価基準収載
皮下注オートインジェクター：薬価基準未収載

オレンシア® 点滴静注用250mg
皮下注125mg シリンジ1mL
皮下注125mg オートインジェクター1mL

生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること

一般名：アバタセプト(遺伝子組換え) ORENCIA®

発売
準備中

「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等の詳細は、製品添付文書をご覧ください。

製造販売元

Bristol-Myers Squibb 株式会社

●資料請求先

Bristol-Myers Squibb 株式会社 メディカル情報部
〒163-1328 東京都新宿区西新宿 6-5-1 TEL.0120-093-507

販売元/プロモーション提携

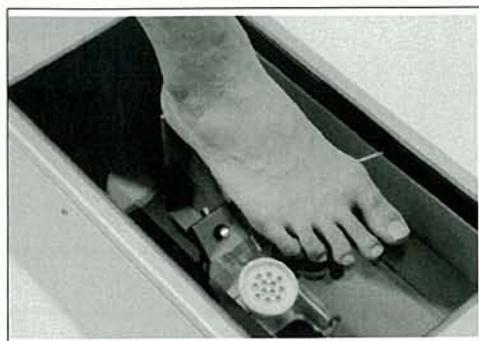
小野薬品工業株式会社

●資料請求先

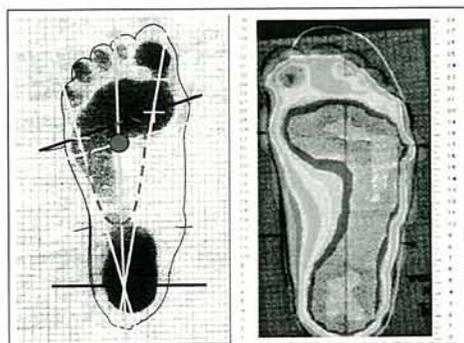
小野薬品工業株式会社 医薬情報部 ぐすり相談室
〒541-8564 大阪府中央区久太郎町1丁目8番2号 TEL.0120-626-190

2016年4月作成

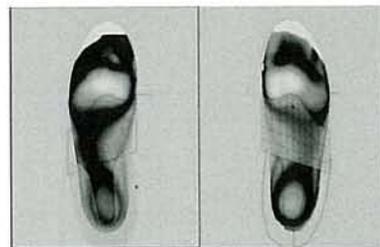
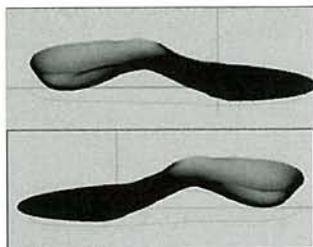
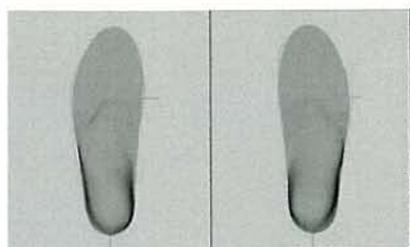
GO-TEC cad/cam system



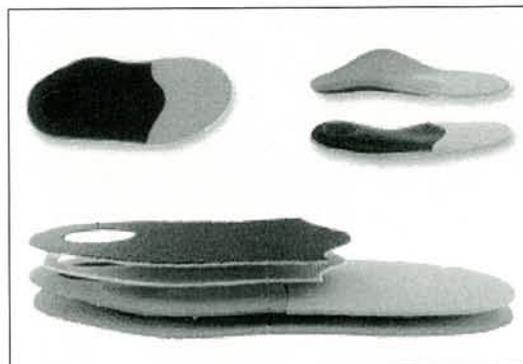
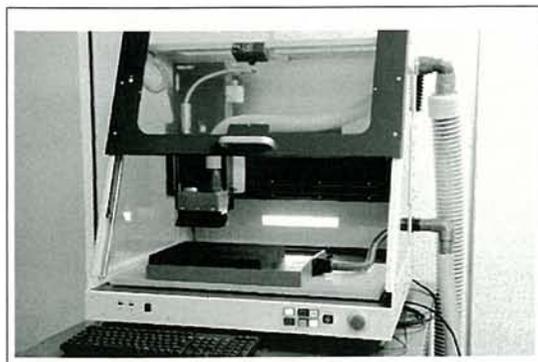
<GP Laserscan 3D>



<Scan>



<Modify & Design>



<Finish>

創意
工夫



義肢・装具・整形靴・座位保持・車いす・介護用品・住宅改修

(有)マキタ義肢製作所

マキタ福祉用具レンタル事業所

本社：宮崎県都城市鷹尾1丁目27街区11-2号
TEL(0986)24-6598 FAX(0986)24-6630
宮崎営業所：宮崎県宮崎市大字恒久町6011-3
TEL(0985)65-6178 FAX(0985)65-6179

 **MIZUHO**
Medical Innovation



MX-200システム

MX-100システム

MX-10システム

MX-2000システム
(Revision)

MX HIP SYSTEM



Maxim Lock

MIZUHO Hip Joint Series

IMPLANTS & OPERATING TABLE



homa[®]

Orthopedic Fracture / Trauma Operating Table

A Superior Table for Orthopedic
Procedures Including Anterior to Total
Hip Arthroplasty (AATHA)

製造販売届出番号:13B1X00306N10003

ミズホ株式会社 <http://www.mizuho.co.jp>

【本社】〒113-0033 東京都文京区本郷3-30-13 整形外科・脳神経外科事業部 TEL 03-3815-3096 手術機器事業部 TEL 03-3815-3097
【営業拠点】北海道 TEL011-716-4731 東北 TEL022-227-1688 新潟 TEL025-229-5458 北関東 TEL03-3815-3193
東海 TEL052-732-7130 関西 TEL06-6444-3840 中国 TEL082-241-8826 九州 TEL092-431-5022
【関東圏販売網(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)】 ミズホアーバン株式会社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-29-3 TEL 03-3811-0350 FAX 03-3811-1880



骨粗鬆症治療剤 薬価基準収載
エルカトニン®
 注20S 注20S ティスポ

エルカトニン注射液 創薬 処方箋医薬品*
 Elicatoin® inj. 20S Elicatoin® inj. 20S Disp
 ※注意-医師等の処方箋により使用すること



骨粗鬆症治療剤 薬価基準収載
テリボン®皮下注用50.5μg

注射用テリパラチド酢酸塩 処方箋医薬品*
 Teriparatid, 50.5μg
 ※注意-医師等の処方箋により使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

製造販売元 **旭化成ファーマ株式会社**
 (資料請求先)

医薬情報部 くすり相談窓口
 〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地
 ☎ 0120-114-936 (9:00~17:45/土日祝、休業日を除く)
 URL:<http://www.asahikasei-pharma.co.jp>

Asahi**KASEI**

2015.11

まだないくすりを
 創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。



www.astellas.com/jp/

明日は変えられる。

 **astellas**
 Leading Light for Life
 アステラス製薬

生物由来製品 創薬 処方箋医薬品[※]
ヒト型抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤 薬価基準収載

**ヒュミラ[®] 皮下注40mg
シリンジ0.8mL**

<皮下注射用アダリムマブ(遺伝子組換え)製剤> HUMIRA[®]

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること
効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売(輸入)元 **アッヴィ合同会社** 東京都港区三田 3-5-27
販売元 **エーザイ株式会社** 東京都文京区小石川 4-6-10
製品情報お問い合わせ先: エーザイ株式会社 株式会社イン フォーゲイブル 0120-419-497 9-18時(土、日、祝日 9-17時)

「THE BONE AND JOINT DECADE」
「THE BONE AND JOINT DECADE」
「THE BONE AND JOINT DECADE」
「THE BONE AND JOINT DECADE」

「運動器の10年」世界運動
動く喜び 動ける幸せ

科研製薬は
「運動器の10年」
世界運動を推進し、
QOLの向上に
貢献してまいります。

●薬価基準収載
●効能・効果、用法・用量、禁忌、
使用上の注意等については添付
文書をご参照ください。

(製造販売元) **生化学工業株式会社**
東京都千代田区丸の内一丁目6-1

発売元(資料請求先)
 科研製薬株式会社
〒113-8650 東京都文京区本駒込2丁目28-8
医薬品情報サービス室
(2015年12月作成) ARZ03DK

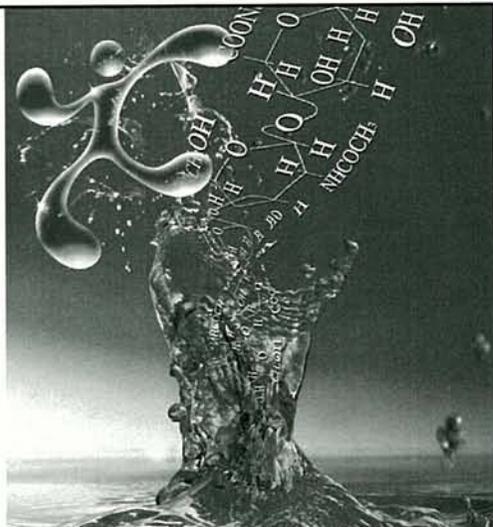
関節機能改善剤
(精製ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液)

処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること

アルツ[®] 関節注25mg

処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること

アルツ[®] ディスポ[®] 関節注25mg



関節機能改善剤

薬価基準収載

処方箋医薬品※

スベニール® ディスポ関節注 25mg
バイアル関節注 25mg
SUVENYL 精製ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液

注) 注意一医師等の処方箋により使用すること

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については最新の添付文書をご参照ください。

<http://www.chugai-pharm.co.jp>

製造販売元



【資材提供先】

中外製薬株式会社

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1



ロシュグループ

2015年3月作成

自然と健康を科学する、漢方のツムラです。



芍薬(シャクヤク)

急激におこる筋肉のけいれんを伴う疼痛、
筋肉・関節痛、腹痛に

68 ツムラ芍薬甘草湯
エキス顆粒 (医療用)

色白で筋肉軟らかく水ぶとりの体質で疲れやすく、汗が多く、
小便不利で下肢に浮腫をきたし、関節節の腫痛するもの次の諸症
関節炎、筋炎、浮腫、肥満症に

20 ツムラ防己黄耆湯
エキス顆粒 (医療用)

打撲によるはれ及び痛み

89 ツムラ治打撲一方
エキス顆粒 (医療用)

■効能又は効果、用法及び用量、使用上の注意等は、製品添付文書をご覧ください。



株式会社 **ツムラ**

<http://www.tsumura.co.jp/>

●資料請求・お問い合わせは弊社MR、またはお客様相談窓口まで。Tel.0120-329-970

(2015年10月制作) NX0501-K

超音波骨折治療器



セーコス[®]
SAFHS 4000J

医療機器認証番号 220ADBZX00062000

低出力超音波パルスによる 積極的保存療法

1. 新鮮骨折[※]の癒合期間を約40%短縮
2. 遷延癒合骨折や偽関節に対しては約70%の骨癒合率が期待
3. 超音波診断装置レベルの超音波出力
4. スイッチ1つで治療開始、20分後に自動終了
5. 小型・軽量のバッテリー内蔵タイプ
6. 1人1台のレンタル方式で、在宅での毎日の治療が可能

**健保
適用**

※平成24年度保険適用が拡大されました。
「四肢(手足を含む)の骨折に対する観血的手術後」
にご使用いただけます。
「難治性骨折」に対しては従来通りです。

骨折ネット

検索

製造販売業者

帝人ファーマ株式会社

〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

お問合せ(フリーダイヤル)

札幌	0120-87-6663	仙台	0120-06-6713
東京	0120-18-9254	さいたま	0120-78-8798
大阪	0120-02-7570	名古屋	0120-77-2287
福岡	0120-55-5075	広島	0120-56-7066

SAF(4J)BCWB(AU)1205

持続性がん疼痛・慢性疼痛治療剤 薬価基準収載

ワントラム[®]錠100mg

Onetram[®] Tablets 100mg

トラマドール塩酸塩製剤

新発売

劇薬、処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

●「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等は、製品添付文書をご参照ください。



製造販売元
日本新薬株式会社
〒601-8550 京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14



販売提携先
ファイザー株式会社
〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7
資料請求先：製品情報センター

経皮吸収型鎮痛消炎剤

スミル[®]外用ポンプスプレー3%

SUMILU[®] PUMP SPRAY 3%

フェルピナク外用ポンプスプレー【薬価基準収載】

新発売



JSA-089235 三笠製薬
JSA-EM0987 三笠製薬



製造販売元 [資料請求先]

三笠製薬株式会社

東京都練馬区豊玉北 2-3-1

<http://www.mikasaseiyaku.co.jp>

- 「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

2015年7月作成

宮崎大学医学部整形外科

同 門 会 誌

発 行 日 平成28年8月

発 行 者 宮崎大学医学部整形外科学教室同門会

編集責任者 石 田 康 行

印 刷 所 宮崎県児湯郡新富町大字上富田4726-1
障害者支援施設 あゆみの里

